リテハ、常時ノ観念ハ、一ケ年ヲ基礎トシ其ノ常態ニ於テ十五人以上ヲ使用スルノ事實アリヤ否ヤニ依テ之ヲ決スヘク、又一定期間ニ限リ若ハ主トシテ一定期間ニ於テ作業ヲ爲スモノニ於テハ、其ノ期間ヲ基礎トシテ此ノ期間内ニ於ケル常態ニ依リテ之ヲ決スヘキモノトス故ニ一ケ年ヲ通シ十人ヲ使用シテ作業ヲ爲スヲ常態トスル業務ニ於テ、偶盆、暮ノ多忙ニ際シ臨時五人ノ職工ヲ増加スルコトアルモ、斯ノ如キハ常時ノ観念ニ包含セス、従テ斯ノ如キ場合ハ工場法ノ適用ヲ受ケス、反之酒造業（原動機ヲ使用スルモノ）ノ如ク主トシテ一定期間ニ作業ヲ營ムモノニアリテハ、平素數人ノ職工ヲ使用シ醸造期ニ於テ其ノ期間ノ大半ニ渉リ十五人以上ノ職工ヲ使用スルモノハ工場法ノ適用ヲ受クヘキモノトス、又常態トシテ十五人以上ヲ使用スル工場ニ於テ、一時的ニ十五人以下ニ減少スルコトアルモ之カ爲メ直ニ適用ノ範圍外ニ出ツルコトナキハ勿論ナリ。【註一】

(二)職工ハ同時ニ就業スルコトヲ要セス　十五人以上ノ職工カ同時ニ作業スルコトヲ要セス、故ニ晝夜交代作業ニ於テ晝間作業ヲ爲ス者十人、夜間作業ヲ爲ス者五人アル場合、又ハ甲組七人、乙組八人カ一日交替ニ作業スル場合ニ於テハ此等ハ

ハ執レモ工場法適用ノ範圍内ニ属スルモノトス。【註一】【註二】

(三)現實ニ就業スルコトヲ要セス　使用ストハ現實ニ勞働ニ就カシムルモノノミニ限ラス、病氣其ノ他ノ事故ニ依リテ假令就業不能ノ狀態ニ在ル者ト雖、工業主ト職工トノ間ニ於テ工業主カ職工ヲ使用シ得ル關係ノ存在スル場合ハ、工業主ノ使用スル職工數中ニ算入スヘキモノトス。

(四)同一種類ノ工業ニ從事スルコトヲ必要トセス　同一種類ノ工業ニ從事スルコトハ普通ノ狀態ナルヘシト雖、各職工ハ必スシモ同一ノ工業ニ付勞働ニ從事スルコトヲ要セサルナリ、例ヘハ同一工場内ニ於テ酸類、鹽類等ノ藥品ヲ作リ、併セテ機械類ノ修繕又ハ製作ヲ爲ス場合ノ如キモ、勿論一切ノ員數ヲ通算スヘキモノトス。（第三節第四項參照）

(五)同一ノ工業主ニ使用セラルルコトヲ必要トセス　一工場ハ一人ノ工業主ニ所属スルヲ通常トスレトモ、同一工場内ニ數人ノ工業主ノ存在スルコト無キニ非ラス、例ヘハ生産組合ノ作業場ニ於テ、數人ノ組合員カ各一人若ハ數人ノ職工ヲ使用スルカ如キ、又貸工場ニ於ケル各工業主カ各一人若ハ數人ノ職工ヲ使用スルカ

如キ場合是ナリ、如此場合ニ於テハ其ノ工場内ノ職工ハ同一ノ工業主ニ使用セラルルモノニ非ラスト雖、職工ノ數ハ之ヲ通算スベキモノトス。

要スルニ「常時十五人以上ノ職工ヲ使用スル」トハ職工ノ數ヲ以テ法律適用ノ標準ト爲スニ當リ工場ノ常態ヲ基礎トシテ其ノ人員ヲ定ムルノ趣意ニシテ臨時的ノ增減ニ依リ濫リニ適用ノ範圍ニ變動無カラシメントスルニ外ナラス。

「常時十五人以上ノ職工ヲ使用スル」ノ意義ハ概ネ右ノ如シ、然レトモ或ル工場カ果シテ斯ノ如キ條件ヲ具備スルヤ否ヤハ個々ノ場合ニ於テ之ヲ決定セサルヘカラス、而シテ特定ノ工場カ如此條件ヲ具備スルヤ否ヤハ、單ニ工場主ノ意思ノミニ依リテ主觀的ニ之ヲ決スヘキモノニ非ラス、業務ノ性質、設備ノ大小、機械裝置ノ狀況等諸般ノ狀況ヲ參酌シテ客觀的ニ之ヲ決定スヘキモノトス。

【註一】一九〇五年四月八日獨逸帝國裁判所判決左ノ如シ

「常時少クモ十人ノ職工ヲ使用スル」トハ此ノ職工カ絕エス同時ニ工場内ニ於テ勞働スルコトヲ要スルノ意ニ非ラスシテ、此ノ職工カ其ノ事業ノ常態ニ於テ永續的ニ其ノ工業主ト使用關係ニ在ルヲ以テ足ルモノトス。

【註二】印度工場法ハ我工場法及獨逸營業條例トハ全ク異リタル立法主義ヲ執リ、明文ヲ以テ「何レノ日ニ於テモ同時ニ就業セシムル職工五十人ニ滿タサル工場ニハ工場法ヲ適用セス」ト規定スルカ故ニ、印度工場法ハ常時ナル觀念ヲ認メス且職工數ノ計算ハ同時ニ就業スル者ノミニ依リテ之ヲ爲スヘキモノトス。

二事業ノ性質危險ナルカ又ハ衞生上有害ノ虞アル工場

事業ノ性質危險ナルカ又ハ衞生上有害ナルコトハ、原動力ノ使用若ハ職工ノ使用ナル事實ト相俟テ工場ノ概念若ハ工場法適用ノ範圍ヲ定ムルニ付最モ普通ナル要素トセラル、諸外國ノ立法例ヲ見ルニ明文其ノ他ノ方法ニ依リ、危險有害ノ事實ヲ以テ工場法適否ノ一標準トナス、モノ頗ル多シ。例ヘハ

英國

非纖維工場ハ

一般ニ動力ノ使用ヲ要素トスルモ危險有害ナル二十種ノ工業ヲ掲ケ動力使用ノ如何ニ拘ラス(一ッノ例外ヲ除キ)工場法ヲ適用ス、卽チ

(一)捺染、陶磁器、黄燐燐寸、電管、銃砲、紙類着色、手用壓搾器又ハ動力ニ依リ運轉スル壓塊器(ローラー)ヲ使用スルモノ綿布截斷鎔鑛及鑄造工場ニシテ職工ヲ使用スルモノ

(二)晒布及染色、製銅、製鐵、金屬及護謨製品、製紙、硝子、煙草、印刷、製本、亞麻打柔及電氣工場ニシテ職工ヲ使用スルト否トヲ問ハサルモノ(第一節【註三】參照)

(三)帽子製造、製綱、麵麭、「レース」造、船、乾燥洗濯、敷物ハタキ、及瓶類洗滌ノ諸工場竝石坑及坑道動力ヲ使用スルモノハ職工ヲ使用セサルモ工場トセラル)

獨乙

十人未滿ノ勞働者ヲ使用スル一般ノ工業ハ簡易ナル取締ヲ受クルニ過キストヲ雖左ノ如キ特別規定アリ。【註一】

(一)十人未滿ノ工業中、熔鑛所、建築場、造船所、煙草工場、及常時少クトモ五人以上ノ職工ヲ使用スル煉瓦工場及地上土石採收場ハ一般規定ノ一部ヲ適用セラル

(二)十人未滿ノ工業ニ對シテモ聯邦參議院ノ決議ヲ以テ一般規定ノ一部ヲ適用スルコトヲ得現ニ聯邦參議院ノ規則ニ依リ一部ノ適用ヲ受クルモノハ裁縫工場、大仕掛ノ洗濯工場及帽子工場等ナリ【註三】

蓋シ(一)ハ其ノ業務ノ性質危險又ハ有害ナルニ依ルモノナルヤ疑ヲ容レス(二)ハ此ノ列記ニ洩レタルモノノ概括的取締規定ト見テ差支無カルヘシ。

【註一】獨逸帝國營業條例第百五十四條第二項以下ノ規定ニ曰ク

第百三十三條庚第百三十五條乃至第百三十九條乙ノ規定ハ通例十人未滿ノ職工ヲ使役スル熔鑛場、建築場、造船所竝煙草工場ノ事業主及職工ニモ亦是ヲ準用ス、通例少ナクトモ五人ノ職工ヲ使役スル煉瓦製造場、地上土石採收場ニ於ケル事業主及職工ニ付亦同シ

第百三十五條乃至百三十九條乙ノ規定ハ、原動力(蒸汽、風、水、瓦斯、空氣、電氣等)ヲ以テ運轉セル機械ヲ繼續シテ使用スル事業場ニ於テ通例十人未滿ノ職工ヲ使役スル場合ニモ亦是ヲ準用ス但シ聯邦參議院ハ或種ノ事業ニ限リ第百三十五條第二項第三項、第百三十六條、百三十七條第一項乃至第四項、第百三十八條ノ規定ノ例外ヲ許可スルコトヲ得

通例十人未滿ノ職工ヲ使役スル前項以外ノ事業場、通例十人未滿ノ職工ヲ使

役スル土木事業ニハ聯邦參議院ノ決議ヲ以テ第百三十五條乃至第百三十九條乙ノ規定ノ全部又ハ一部ヲ適用スルコトヲ得

聯邦參議院ノ規定ハ一定ノ地域ニ限リテ之ヲ發スルコトヲ得其ノ規定ハ帝國官報ヲ以テ之ヲ公布シ次期ノ帝國議會ニ報告スヘシ

瑞西

(一)六人以上十人以下就業スルモノ　事業ノ性質著シク生命ノ健康ニ危險又ハ有害ナル場合ハ法律ヲ適用ス

(二)五人以下就業スルモノ　事業ノ性質危險ナルカ又ハ衞生上有害ノ虞アル工場トハ、主トシテ工場ニ於テ事業ノ性質危險ナルカ又ハ衞生上有害ノ虞アルモノ、及急性若ハ慢性的勞働スル者ノ生命身體ニ不時ノ災害ヲ惹起スルノ虞アルモノヲ謂フ【註一】參照

ニ其ノ健康ヲ傷害スルノ虞アルモノノ意ニシテ、公益保護ノ關係ハ間接ニ之レアリト雖、其ノ主眼トスル所ハ就業者ノ生命身體竝健康ノ保護ニ在ルコト疑ヲ容レス、然ラハ如何ナル事業カ其ノ性質危險ナルカ又ハ衞生上有害ノ虞アルモノナルカ、近時學術竝工業ノ進歩特ニ急速ニ有害料品ノ用途極メテ廣ク、新ナル製造方法ノ發明相繼クカ故ニ、此ノ種ノ業務ノ種類ヲ法律ニ列擧スルカ如キハ立法上當ヲ得タルモノニ非ラス、是レ諸外國ノ工場法カ其ノ認定ヲ命令ニ委任スル所以ナリ。

現行工場法亦抽象的ニ事業ノ性質危險ナルカ又ハ衞生上有害ノ虞アルモノト規定スルノミニシテ、事業ノ種類ヲ擧示セサルノミナラス、法第一條第二項ニ於テハ事業ノ性質危險ナルカ又ハ衞生上有害ノ虞アルモノト雖法律ヲ適用スルノ必要ナキモノニ付テハ、勅令ヲ以テ之ヲ除外シ得ルコトヲ定メタルカ故ニ、具體的ノ規定ハ之ヲ施行命令ニ委任シタルモノト解セサルヘカラス、是令第三條ノ規定ノ依テ發生スル所以ナリ。而シテ施行勅令立法ノ形式ハ法第一條第二項ノ委任ニ依リテ法律適用ノ必要ナキモノヲ除外スルモノト、一般的施行命令トシテ危險又ハ衞生上有害ノ虞アルモノト認定スルモノヲ列擧スルモノトノ二アリ。令第三條ハ後者ニ從ヒ危險又ハ衞生上有害ノ虞アルモノトシテ二十種ノ工業ヲ列擧シタリ、左ニ其ノ業態ヲ掲ケ竝之ヲ略說スヘシ。【註四】

(一)毒劇物又ハ毒劇藥ノ製造

明治四十五年五月十日内務省令第六號ヲ以テ指定スル毒物劇物、明治三十九年七月内務省令第二十一號日本藥局方第二表第三表ニ掲クルモノ及明治四十五年三月内務省令第二號ヲ以テ指定スル毒藥劇藥ノ製造ヲ行フ工場ナリ、

(二)動物ノ剝製

鳥獸類ノ剝製ヲ行フ工場ニシテ亞砒酸ヲ用フルモノアリ亞砒酸ノ中毒症ハ下腹痛、嘔吐、下痢、呼吸促迫、失神、死亡等ナリ

(三)金屬ノ溶融又ハ精煉

鉛、眞鍮、銅ト亞鉛ノ合金、鐵等ヲ熔融スル工場ニシテ有害ノ瓦斯ヲ發散スル多量ノ高熱物ヲ取扱フ所ナリ

(四)金屬ノ精煉

銅其ノ他ノ金屬ノ精煉ニシテ有害瓦斯ヲ發散スルト同時ニ高熱ノ所アリ(工場法ニ依リ取締ラムトスルモノハ鑛業法ノ取締ヲ受ケサルモノナリ)

(五)水銀ヲ用フル計器ノ製造

寒暖計、檢溫器、晴雨計等ノ製造工場ニ於テ水銀ヲ用フ、水銀中毒症ハ汞毒性齒齦炎、尿量減少、嘔吐、胃痛、下痢、虛脫、死亡等ナリ

(六)燐寸ノ製造

燐寸工場ニ於テハ燐、鹽素酸加里等ノ劇毒物ヲ用フ此等ハ又爆發シ若ハ發火スル危險ノモノナリ燐中毒症ハ頭痛、嘔吐、胃腸炎、下顎骨壞死、黄膽、死亡ナリ、

(七)火藥、爆藥又ハ火工品ノ製造又ハ取扱

明治四十四年三月十一日勅令第十六號銃砲火藥類取締法施行規則第二條ニ掲クル火藥、爆藥及火工品(但シ第三號末段但書ヲ削ル)即チ有煙火藥、無煙火藥、「ナイトログリセリン」、雷管、導火線、玩具用煙火等ヲ製スル所ナリ

(八)塗料又ハ顔料ノ製造

「ペイント」、「ワニス」等ノ塗料、酸化鉛(鉛丹リサージ)、鉛白、亞鉛華等ノ顔料ノ製造工場ニシテ有害瓦斯又ハ粉塵ヲ發散ス、鉛中毒症ハ、嘔吐、尿量減少、痲痺ナリ

(九)「エーテル」ノ製造

「エーテル」ハ酒精ヨリ製造スルモノナリ、引火點ノ低キモノニシテ引火ノ危險ノ大ナルモノナリ

(十)溶剤ヲ用フル護謨製品ノ製造

鹽化硫黄、石油、ベンヂン、「ベンゾール」等ヲ用ヒテ護謨糊ヲ作リ、薄護謨製品、護謨鞠、人形等ヲ作ル所ナリ、此等溶剤ハ引火ノ危險アリ

(十一)脂肪油ノ精製

菜種油、大豆油、棉實油、胡麻油、亞麻仁油、桐油、椰子油等ノ脂肪油ヲ高溫度(百度以上二百度位迄)ニ熱スルヲ以テ發火ノ危險アリ、又曹達、硫酸等ノ劇物ヲ取扱フ工場ナリ

(十二)溶剤ヲ用フル油脂ノ採收

石油、「ベンヂン」、「ベンゾール」等ヲ用ヒ大豆油、木蠟等ヲ採收ス、引火ノ危險アリ

(十三)「ボイル」油ノ製造

「ボイル」油ハ二百度位迄煮沸シタル油ナリ、重ニ亞麻仁油ナリ、之ハ「ペイント」ノ製造ニ用ヒ又ハ防水紙、防水布ニ塗ルモノニテ乾燥性ヲ有シ乾燥油ノ名アリ、此ノ工場ハ發火ノ危險アリ

(十四)鑛油ノ蒸溜又ハ精製

石油ヲ高熱ニテ取扱ヒ、又ハ硫酸、苛性曹達ヲ用ヒ精製ス、發火ノ危險アリ

(十五)乾燥油又ハ溶剤ヲ用フル擬革紙布又ハ防水紙布ノ製造

亞麻仁油、荏胡麻油、桐油等ノ乾燥油又ハ石油、「ベンヂン」若ハ「ベンゾール」等ノ溶剤ヲ用フル工場ニシテ發火ノ危險アリ

(十六)亞硫酸瓦斯、鹽素瓦斯又ハ水素瓦斯ヲ使用スル事業

亞硫酸瓦斯ヲ用ヒテ麥稈眞田、經木眞田等ノ漂白ヲ行ヒ、鹽素瓦斯ヲ用キテ晒粉ヲ製造シ、水素瓦斯ヲ用キテ硬化油(魚油ニ水素ヲ通シ蠟ノ如ク硬化スルヲ製スル所ニシテ、亞硫酸瓦斯及鹽素瓦斯ハ有害ニシテ水素瓦斯ハ爆發ノ危險アリ

(十七)金屬、骨、角又ハ貝殻ノ乾燥研磨

鍍金製品ニシテ未タ鍍金ヲ施ササルモノノ下磨、又ハ刷毛ノ柄、貝釦等ノ製造工場ニ於テ水氣ヲ與ヘスシテ研磨機ニカクル等ノ工程ナリ、此等ノ物ハ粉塵飛散甚シキヲ常トス、之ヲ吸入スレハ呼吸器ヲ害ス

(十八)硝子ノ製造、腐蝕、砂吹又ハ粉碎

硝子ノ製造ニハ其ノ原料ノ粉砕、調合等粉塵ノ甚シキ所アリ、高熱ノ窯アリ、溶融シタル硝子ヲ取扱フ等注意ヲ要スル所多シ、硝子ヲ腐蝕シ紋様ヲ附スルニハ有毒ノ弗化水素ヲ用ヒ、又強キ風ニテ砂ヲ吹付ケ硝子ヲ疵ツケ紋様ヲ附スル砂吹工程ハ砂ノ粉塵飛散シ、硝子ヲ砕キテ粉末トシ燐寸函ノ脇塗剤又ハ鑢紙ニ用フル材料ヲ製スル所ハ粉塵ノ飛散アリ、此等ノ鋭キ尖角ヲ有スル粉塵ハ呼吸器ニ最モ大ナル害ヲ及ホスモノナリ

(十九)繊物又ハ編物ノ起毛

「フランネル」、裏毛メリヤス等ノ絲ヲ金針ヲ植エタル圓筒形ノモノニテ掻キ毛ヲ出ス作業ヲ行フ所ニテ棉毛等ノ繊維ノ飛散甚シ

(二十)製棉

新シキ繰棉紡績工場ノ落棉又ハ古棉ヲ機械ニテ打チテ之ヲ捌キ中入棉ヲ作ル所ナリ、棉ノ繊維又ハ粉塵ノ發散甚シ

(廿一)麻ノ梳解

亞麻等ノ繊維ヲ梳リ捌キテ之ヲ精撰スル工場ニテ短繊維又ハ粉塵ノ飛散甚シキ所ナリ

尚前記各種事業ノ外危害ノ虞アル工場ナルモ、其ノ程度ノ輕キ爲審議ノ結果之ヲ列記中ヨリ除外シタルモノヲ例示スレハ、左ノ如キ種類ノモノアリ。

(一)土石類ノ粉砕工場

陶磁器原料ヲ臼ニテ粉砕スル工場ナルモ、工場ノ位置ノ山間ニ在ルアリ長時間ノ勞働ヲ爲サス又職工モ婦女幼少者ヲ使用セサルモノ多シ

(二)鑢製造工場

鑢ノ目立ヲ行フニ依リ金屬ノ粉末ヲ飛散シ、且燒入ヲ爲ス所ニ於テハ鉛ノ熔融シタルモノヲ使用スルカ故ニ鉛ノ蒸氣ヲ發生ス。衞生上有害ナル工場ナリ本邦ニ於テハ大仕掛ノ鑢工場ハ尚未多カラス

(三)膠製造工場

動物ノ皮、骨等ヲ石灰、鹽酸亞硫酸等ニテ處理シ次ニ之ヲ煮詰ムルナリ、酸類ヲ用ヒ又臭氣ヲ發スル工場ナルモ危害ノ程度輕シ

右ノ内(六)及(八)乃至(十)ハ主トシテ事業ノ性質危險ナルモノニシテ其ノ他ハ主ト

シテ衞生上有害ナルモノトス。故ニ前記二十種ノ工業ヲ營ム工場ハ、其ノ職工數ノ如何ニ拘ハラス苟モ工場タル以上ハ工場法ノ適用ヲ免ルル能ハス、假令職工ヲ使用セサル場合、例ヘハ職工ヲ使用セサル生產組合ノ如キモ、此ノ如キ事業ヲ營ムニ於テハ本項ニ依リ工場法ノ適用ヲ受クヘキモノトス。

前記二十種ノ外、土石ノ粉碎、膠製造、及鍊製造工場、竝發電所、變電所等危險又ハ衞生上有害ナル工場ニ付テハ、農商務大臣ニ於テ必要ニ應シテ命令ヲ以テ之レヲ指定スヘク、（施行令第三條末項）其ノ指定アル迄ハ、工場法第一條第一項第二號ノ適用ナキモノトス（第一章第四節諮問案第一號參照）

【註四】 法第一條第二項ノ除外規定ト、令第三條ニ依ル危險有害工業ノ指定ニ就テ

法第一條第一項ハ常時十五人以上ノ職工ヲ使用スル工場及事業ノ性質危險又ハ衞生上有害ノ虞アル工場ニ工場法ヲ適用スト規定セリ。然レトモ「常時」ノ觀念ハ解釋上數々疑義ヲ生スルノ虞アリ、且「事業ノ性質危險又ハ衞生上有害」ナルノ觀念モ亦頗ル明確ヲ缺ク、何トナレハ、一切ノ工業皆多少ノ危險ト衞

生上ノ害毒トヲ伴ハサルモノ無シトモ言ヒ得ヘキヲ以テナリ、故ニ此等ノ抱括的ノ規定ニ對シテハ施行令ノ規定ヲ以テ適用ノ範圍ヲ明カニスルノ要アリトシ當初ノ草案ニハ法第一條第二項ニ於テ「前項各號ニ該當スル工場ハ勅令ヲ以テ之ヲ指定ス」ト定メタリ、然ルニ生產調査會ハ此ノ第二項ニ修正ヲ加ヘ、現行法第二項ノ通リ「本法ノ適用ヲ必要トセサル工場ハ勅令ヲ以テ之ヲ除外スルコトヲ得」ト爲シタリ。蓋シ當時生產調査會ハ、大體ノ方針トシテ出來得ル限リ工場法適用ノ範圍ヲ狹隘ナラシメントノ精神ヨリシテ、若シ勅令ヲ以テ適用範圍ヲ指定スルコトヲ得セシムルニ於テハ不當ニ之ヲ擴張スルノ虞ナキヲ保セストシ「指定」ヲ「除外」ト修正スヘキ旨ヲ固ク主張シタリ。當時ノ原案者ハ之ニ反對シ法律ノ規定ノミニテハ適用範圍ハ明確ナラス故ニ勅令ヲ以テ指定ノ要アリ然ルニ除外主義ヲ採ランカ此ノ不明ナル或ル者ヨリ或ル者ヲ「除外」スルモ其ノ殘餘ハ依然トシテ不明タルヲ免レサルヲ以テ他日勅令ヲ以テ除外ノ規程ヲ設クルニ當リ、必ス困難ナル問題ニ遭遇スヘシト爲シ極力除外主義ニ反對シタリト雖、生產調査會ハ飽ク迄其ノ主張ヲ扞クルヲ欲

セス、原案者ハ已ムヲ得ス其ノ主張ヲ容レタル沿革ヲ有スト謂フ。

斯ノ如キ經過ヲ以テ修正セラレタル結果、勅令ヲ以テ適用範圍ヲ定ムルコトハ必然ノ要求タラサルコトト爲リタリ。殊ニ常時十五人以上ヲ使用スル工場ニ對シテハ「常時」ナル觀念ヲ勅令ヲ以テ明確ナラシムルノ趣旨ハ一變シテ假令十五人以上ヲ使用スルモノト雖トモ、尚工場法ノ適用ヲ必要トセサルモノハ勅令ヲ以テ之レヲ除外スルコトヲ得ルコトト爲リタルナリ。然リ而シテ此ノ「常時」ナル意義ニ關シテハ必シモ勅令ヲ以テ「指定」スルコトヲ要セス、諸外國ノ例ニ倣ヒ之ヲ解釋ニ放任シ判例ヲ以テ漸次ニ之ヲ明ニスルノ必シモ不可ナキヲ以テ深ク此ノ點ヲ意トセサリシナリ。

然レトモ難問題ハ危險有害工場ニ關シテ生セサルヲ得ス、卽チ令第三條ノ危險有害工場ノ指定ニ付テハ右立法上ノ沿革ニ徵スルトキハ除外ノ方法ニ依ラサルヘカラス、玆ニ於テ施行令ノ立案ニ當リテハ(一)形式上ハ除外ノ規定トシ、一定ノ工業ヲ指定以外ノ工業ヲ營ム工場ニ付テハ工場法ノ適用ヲ除外スルモノトスヘキヤ、又ハ斯ノ如キ消極的、間接的ノ方法ニ依ランヨリモ(二)苟モ危險有害ト認ムルモノハ勅令中ニ指定シ之ニ工場法ヲ適用スト規定ン、間接ニ其ノ之ニ該當セサルモノヲ裏面ニ於テ除外スルコトトスヘキヤニ付テハ、立案者ニ於テ實ニ容易ナラサル苦慮審議ヲ重タルカ遂ニ結極第二ノ主義ニ從ヒ幸ニ其ノ實行ヲ見ルニ至リタルモノトス。

尙除外主義ニ從フノ立案トシテハ、危險有害工場ト雖、職工數五人未滿ノ工場ニ對シテハ、未タ工場組織ノ工場タルノ體ヲ具備セサルモノトシテ之ヲ適用外ニ置クノ立案無キニ非ラサリシト雖、是レ亦理論徹底ヲ缺クモノトシテ遂ニ廢案ニ歸シタリト謂フ。

三　原動力ヲ用フル工場

第二十六條會ニ提出シタル工場法案ニ於テハ、工場法適用ノ範圍ヲ(一)原動力ヲ用フルモノ、(二)事業ノ性質危險ナルカ又ハ衞生上有害ナルモノ、(三)常時十人以上ノ職工ヲ使用スルモノノ三標準ニ依リテ定メント欲シタレトモ、原動力ノ使用ヲ以テ工場法ノ適否ヲ決スルノ標準トナスコトニ付テハ、已ニ述ヘタルカ如ク外國工場法中ニ於テモ英國竝瑞西法ノ如ク其ノ例少カラサルニモ拘ハラス、原動機ヲ使

用スルノ故ヲ以テ工場法ヲ適用スルハ折角動力ヲ應用シ盛況ニ趣カントスル我國ノ工業界ニ對シ、原動機ノ使用ヲ阻止スルノ嫌アリトノ反對說有力ナリシカ爲ニ遂ニ之ヲ削除シタリ。然リト雖現行法第一條第一項ニ該當セサル工場ト雖、原動力ヲ用フルモノナルトキハ、其ノ原動機及之ニ依リテ運轉セラルル機械ニ危險アルカ故ニ全然之ヲ取締ノ外ニ放置スルヲ得サルカ故ニ、其ノ危險ヲ防止スルニ必要ナル程度ニ於テ主務大臣ハ本法ノ一部ヲ適用シ得ヘキ旨ヲ定メテ本法制定ノ目的ヲ全ウセンコトヲ努メタリ。（法條二、十四條）一八九二年佛蘭西工場法第一條中ニハ本條ト同樣ノ規定アリ、原動力ヲ使用スル家內工場（家族ノミカ勞働スルモノ）ニ對シテハ工場法ノ一部ヲ適用スルコトヲ定ム。

法第二十四條ニ基ク省令ハ未タ發布セラレサルカ故ニ本條ニ依リ工場法ノ一部ヲ適用セラルル工場ハ尙現存セサルナリ。

第三項　適用ノ除外

工場法第一條第二項ハ「本法ノ適用ヲ必要トセサル工場ハ、勅令ヲ以テ之ヲ除外スルコトヲ得」ト規定シ、假令積極的要件ヲ具備スルモノト雖、特殊ノ事由ニ依リテ工場法ヲ適用スルノ必要ナキモノニ付テハ法ノ適用ヲ除外シ得ルコトト爲シタリ而シテ、施行令ハ法律ノ委任ニ基キ二箇ノ除外規定ヲ設ケ（令第一條及第二條）適用範圍ノ消極的方面ヲ定メタリ以下之ヲ略說スヘシ

一　農商務大臣ノ指定シタル原動機ヲ使用セサル工場ニシテ令第一條ニ列記シタル事業ヲ營ムモノ（令第一條）

本條ニ依リテ除外セラルヘキ工業ノ種類ニ付テハ詳密ノ調査ヲ經タリ。而シテ其ノ工場ノ特徵トシテ揭クヘキハ職工カ終日製造ニ從事スルコトナキヲ例トシ、時ニハ店頭ニ出テテ賣子トナリ又ハ他ノ雜役ニ從事スルカ如キ狀態ニ在ルモノ、或ハ主タル作業カ繁閑常ナラサルモノ、又ハ職工ノ多數カ格別ノ保護ヲ要セサル男子ナルモノ等ニシテ、而カモ製造工程中有害料品ヲ使用セス、且作業ハ概ネ輕易ニシテ原動機ヲ使用シテ多量生產ヲ爲スモノノ外工場ノ形態ヲ具フルモノ甚稀ニシテ工場的弊害ノ最モ鮮少ナルモノニ屬ス。

今左ニ煩ヲ顧ミス各種工場ニ付其ノ操業狀態ノ大體ヲ揭ケ、以テ勅令カ何故ニ之ヲ除外シタルヤノ理由ヲ明ニスルノ一助ト爲サムトス。

令第一條列記工場及其ノ操業ノ說明

(一)菓子、飴、又ハ麵麭ノ製造

菓子

日本菓子ノ製造殊ニ餡物ノ製造ハ時ニ依リ繁閑アリ、其ノ閑散ナル時ニ於テハ職工ノ多數ハ僅カニ半日ニシテ仕事ヲ終ルコトアリ、然ルニ吉凶ノ場合其ノ他ノ注文輻輳スルトキハ徹夜業ヲ行フ如キコトモ亦之レナキニ非ス、而シテ職工トシテハ十數人以上ヲ使用スル所多カラス、又多クハ男子ニシテ年齡ハ十六歲乃至二十歲以上ノモノ大多數ナリ。

麵麭菓子屋ハ日本菓子法ト聊カ其ノ趣ヲ異ニス其ノ製造高ハ日々略ホ一定セリ、然レトモ之ニ從事スルモノハ男子ヲ主トセリ小工場ニ於テハ其ノ勞働ハ自由ニシテ規律的ナラサルヲ例トス。

飴

飴特ニ水飴ノ製造ニハ丁年男工ノ晝夜交替業ヲ爲スモノ多シ、而シテ其ノ工程ハ仕込(糯米ヲ蒸シ之ニ麥芽ヲ加フ)二時間、糖化八時間(此間職工ハ休憩ス)仕

上八時間ヲ通例トス、糖化後袋ニテ漉シテ之ヲ煮詰ムレハ普通ノ飴ト爲ルナリ、而シテ之ヲ煉レハ白飴トナル。

職工ハ各自ノ仕込タルモノハ自ラ仕上ヲ爲スノ仕組ニシテ二組ニ分レテ交替作業ヲ爲スモノ多シ。

麵麭

麵麭ノ製造ニ從事スル者ハ丁年以上ノ男子ヲ主トス、作業ハ午前中ニ完了スルコト多シ。

(二)寒天、凍蒟蒻、凍豆腐、湯葉、麵類又ハ數ノ製造

寒天

秋ノ彼岸前後ヨリ石花菜(天草トモ云フ)ヲ雨露ニ晒シテ白色ト爲シ、冬至十日前位ニ製造場ヲ開ク、大ナル鍋ニ原料ヲ入レ煮テ液汁ヲ絞リ出シ之ヲ桶ニ入レテ堅メ、之ヲ截斷シ細片トシ凍結棚ニ列ヘ凍結セシム。

凍蒟蒻

蒟蒻ヲ氷結シタルモノナリ。原料ヲ薄片トシ石灰汁ニ貯ヘ氷結スヘキ天候

ヲ見計ヒテ屋外ノ干場ニ運ヒ簀ノ上ニ竝列シ上ヨリ撒水シテ氷結ヲ助ク寒地ニテハ三四日暖地ナラハ一週間ニシテ氷凍完了スヘシ、後乾燥シテ濕氣ヲ去ルナリ。

凍豆腐

生豆腐ヲ氷結セシメ之ヲ焙爐（ホイロ）ニカケテ乾燥シタルモノナリ。寒氣甚シキ時期ヲ見計ヒ、生豆腐ヲ方形ノ薄片ニ切リ戸外ノ棚上ニ竝列シ夜寒ニ曝露スルナリ。大抵一夜ニテ氷結ス、氷結シタルモノハ二三日ヲ經テ溫湯ヲ浸シ竹簀ヲ布ケル淺キ箱ニ取リ上ケ焚火ニテ乾燥ス。

湯葉

豆乳（清水ニ浸シタル大豆ヲ臼ニテ挽下シタル糜液ニ水ヲ加ヘ煮沸シ木綿袋ニ入レ濾過シタルモノ）ヲ鍋ニ入レ、溫度ヲ與ヘテ黃粉ヲ入レ文火（ヌルヒ）ニテ厚キ膜皮ノ生スル迄加熱シ、長キ串竹ニテ膜皮ヲ引上ケ之ヲ亞鉛製ノ網ニ載セ、炭火ニテ徐々ニ乾燥シテ得タルモノナリ。豆腐屋ノ一種トモ云フヘク、十六歳乃至二十歳以上ノ男子ヲ主トス、時ニ少數ノ女子ヲ交ユルコトアリ。

麵類

素麵、干饂飩類ナリ。素麵ハ饂飩ト同樣小麥粉ニ食鹽水ヲ加エテ捏ネ薄ク板上ニ延シ、庖刀ニテ切リ紐狀トシ、胡麻油、綿實油ヲ塗リ之ヲ陰干又ハ火乾シタルモノナリ。

麩

大桶ニ小麥粉ヲ入レ、水ヲ加ヘテ十分揉リテ後尚足ニテ踏ミ、粘性ヲ帶フルニ及ヒ小桶ノ上ニ笊ヲ置キ、水ヲ加ヘツヽ揉ムナリ。斯ノ如クシテ澱粉ヲ洗ヒ落シテ桶底ニ沈下ス、是レ卽チ正麩ナリ。笊上ニ殘レル蛋白質ト殘滓トヲ幾回カ水洗シ、純粹ノ蛋白質ノミヲ採リ棒狀ニ塊メ燒キテ燒麩ト爲ス。

(三)清酒、濁酒、白酒、味啉、燒酎、酢、醬油又ハ味噌ノ製造

清酒

清酒ハ蒸米、麴及水ニテ造リタル醱酵ニ米麴蒸米及水ヲ加ヘテ、仕込（十三日）醸熟（十五日）、酒揚（十四、五日）、並引（約四ケ月）、火入後熟ノ操作ニ依リテ造ラルルモノナリ。

濁酒

濁酒ハ米飯ニ麹及水ヲ加ヘタルモノニテ、十數日ヲ經サル内酒トナル、酵母ヲ加ヘルトキト加サルトキトアリ。

時期確定セス。兵庫其ノ他ノ清酒工場ニ於テ醸造販賣ス。

白酒

味啉、清酒、糯米ヲ原料トス十一月ヨリ翌年三月下旬迄ヲ製造季節トス。

味啉

燒酒ニ糯米ト麹ヲ加ヘテ製シタルモノナリ。

燒酒

酒粕又ハ腐敗酒又ハ特ニ醸造セル濁酒ヲ蒸溜精製シタルモノニテ酒精ノ粗製品ト看做シ得ヘキモノナリ。

酢

酒液ト種醋ヲ原料トス。

醤油

大豆及小麥ヨリ成ル、醤油麹、食鹽及水ヲ以テ醸造ス、仕込ハ秋季ヨリ冬季ニ亘ル際ヲ好季トス。

味噌

大豆、黄又ハ白麹(米麹、麥麹)ニ食鹽ト水トヲ加フ。

醸造業ニ從事スル職工ハ十六歳乃至二十歳以上ノ男子ノミト謂フヘク、三十人未滿ノ所ハ在來ノ家内工業ノ域ヲ脫セス、普通ノ工場ト其ノ趣ヲ異ニスル所多シ。然レトモ其ノ大ナルモノニ至リテハ、清酒ハ勿論酢、醤油ノ醸造場ニハ、五六十以上又ハ百人以上ノ所アリ、工場ノ設備ニ機械的裝置アル所アリ、麹室ノ如キモ蒸汽管ヲ布設シタル新式ノ所アリ。

清酒ノ醸造時期ハ、十月乃至十二月ヨリ翌年四、五月ニ至ル五箇月乃至七箇月トス、其ノ他ノ醸造業ニハ時期アルモノト然ラサルモノトアリ。

白酒、味啉、燒酎等ノ醸造ハ清酒ト兼營ノ所尠カラス。

(四)　行李、籠、和傘骨其ノ他ノ杞柳、籐、竹、籐、經木、藁、莖、又ハ藥ノ手工品ノ製造

多クハ農家ノ副業的製造ノ進ミタルモノニシテ、職工數ノ稍多ク工場ノ體ヲ

爲セルモノ無キ非ラスト雖作業ハ輕易ナリ。材料ノ精製其ノ他較〻勞力ヲ要スル仕事ハ男工之ニ從事シ女子及幼者ハ主トシテ坐業ヲ爲シ其ノ操業モ自由ニシテ規律的ナラス。

既ニ編製ヲ終リタル行李ニ革布帛金具等ヲ取付ケ、之ヲ仕立ツルコトヲ主トスル工場ノ如キハ本號ノ業務中ニ包含セラルルモノニ非ス。

(五)經木眞田又ハ麥稈眞田ノ編製

農家ノ副業的工業ナリ。岡山香川其ノ他ノ關西地方ニ盛ナリ。女子ノ手仕事ニシテ、業務ノ性質輕易ニ時間モ一定セサルモノ多シ、多クハ家內的工業ナルモ間々職工數十人乃至十數人ニ上ル工場アリ、貿易隆盛ノ時ニ於テハ此ノ種ノ工場增加ス。

(六)「アタン」「バナマ」又ハ之ニ類スルモノヲ以テスル帽子其ノ他ノモノノ編製

此等ノ業モ亦女子ノ坐業ニシテ業務ノ性質輕易ナリ。

阿且ハ野生ノ熱帶植物ニシテ沖繩ニ產ス、此ノ葉ヲ裂キ曹達其ノ他ノ藥品ヲ混シテ之ヲ漂白シ、其ノ長一尺五寸乃至二尺ノモノヲ帽子、摸造バナマ、卷煙草

入、提鞄等ニ編製ス

「バナマ」

本「バナマ」ノ帽子編製ハ數年前迄ハ原料ヲ產地ヨリ之ヲ輸入シ十數人以上ノ職工ヲ用キテ編製セシメタルモノアリシカ、其ノ後原料昂騰シタルト「バナマ」帽ノ需要減シタルトニ依リ事業衰頹セリ。

摸造バナマ

雁皮製ノ薄紙ヲ撚リ之ニ塗料ヲ施シタルモノヲ二尺乃至三尺ノ長サニ切リ之ヲ「バナマ」葉ノ代用トシテ編製ス。

(七)扇子、團扇、和傘又ハ提灯ノ製造

此ノ業モ亦竹及紙ヲ原料トスル輕易ノ仕事ニシテ、竹ヲ割ル仕事等材料ノ精製ハ男子之ヲ爲ス、又和傘ノ轆轤、柄竹ノ製造ノ如キモ男子ノ業ナリ、女子ハ絲通シ紙貼等ヲ爲ス。

(八)紙、絲、棉、竹又ハ布帛ヲ主タル材料トスル玩具又ハ造花ノ製造

機械ヲ使用スルコト多キ金屬玩具、又ハ護謨「セルロイド」製玩具ノ如キ多少危

險又ハ不衛生ノ嫌アルモ、本號ニ掲クル材料ヲ用フル玩具又ハ造花ノ製造ハ、家庭工業ノ域ヲ脫セサルモノ多ク手工ヲ主トシ輕易ナル坐業ナリ、但シ材料ヲ截斷スル作業ハ男子之ニ從事ス。

玩具ハ人形、布帛製ノ犬、猫、紙製ノ風船球其ノ他アリ、海外貿易ノ盛ナルトキ臨時ニ十數人ニ增スコトアルモ、平時ハ十人以下ノ工場カ粗製材料ヲ作リ之ヲ下職ニ渡シ、次ニ之ヲ工場ニ集メテ取纏ヲ爲スナリ。

(九)形紙、紙函、元結、又ハ水引ノ製造

形紙

形紙ハ厚紙ヲ花形其ノ他ノ紋樣ニ切拔キタルモノニシテ、捺染業ニ用ユル染型紙ノ意ナリ、男子ハ糸入彫刻模樣ノ混亂ヲ防ク爲メ絹糸ヲ以テカガル工程)ニ從事ス。

紙函

紙函ノ製造所ニ於テハ紙ノ截斷等ハ男子之ヲ行ヒ、女子ハ「ボール」函ニ紙ヲ貼付スル仕事ノ如キ輕易ナル坐業ヲ爲スナリ、製品ハ主トシテ石鹼藥入、化粧品、帽子入、洋服入等ニシテ仕事ニ繁閑多シ。

元結

元結ハ紙又ハ綿糸ヲ材料トシ、之ヲ屋外ニ八九十尺ノ長サニ張リ、之ニ塗料ヲ塗ル仕事ナリ、雨天又ハ烈風ノトキハ休業ス、元結ヲ截チ之ヲ束ニ仕立ル作業及紙撚ノ作業ハ屋內ニ於テ行ヒ女子之ニ從事ス、ルモ屋外ノ作業ニハ男子ヲ使用スルカ故ニ作業ノ大部分ハ男子之ニ從事ス。

水引

水引ハ元結ノ原紙ノ粗製ナルモノニテ撚數多カラス、塗料モ上等ナラサル點異ナルノミニテ作業組織殆ント元結製造ニ同シ

(十)裁縫

裁縫工場ノ外ハ註文ニ多少、アリテ仕事ニ繁閑アリ、「三十人以下」ノ小規模ノ工場ニシテ、手又ハ踏ミシン、機ヲ用フル場合ト雖、騷音ヲ發シ又ハ危險ノ虞アルコトナシ。

足袋ノ裁縫ハ、足袋屋カ商店頭ニ於テ或ハ其ノ裏ノ職場ニ於テ仕立ルモノ多ク、

店頭ニアルモノハ仕立ヲ爲シ傍ラ賣子トナルモノアリ、底甲ノ裁方ハ道具ヲ用キ、近時多少「ミシン」ヲ用キル所アルモ多クハ手縫ナリ、然レトモ稀ニハ四五百人乃至二三百人ノ職工ヲ使用スルモノニシテ一般ノ足袋屋ト大ニ趣ヲ異ニスルモノナキニ非ス。

其ノ他ノ布帛類ノ裁縫ニハ「ハンケチ」ノ緣縫、袋類ノ製造等ヲ含ム。

(十)手工ニ依ル組紐ノ編製

製紐機(多クハ動力ヲ使用スル爲メ騷音ヲ發ス)ヲ用キル手工ニ依ル羽織紐其ノ他ノ組紐ハ、輕易ナル手工ニシテ內職的仕事ナリ。

(十一)刺繍「レース」「バテンレース」又ハ「ドローンウオーク」ノ業

此等ノ作用ハ、女子ノ坐業ニシテ前記裁縫仕立ノ業ニ類似ス、刺繍業ノ精巧ナルモノニハ男子ノ業アリ。

「バテンレース」

草花其ノ他ノ意匠ヲ畫キタル紙ヲ金巾ノ上ニ置キ、此ノ意匠ニ副フテ細幅ノ紐ヲ縫付ケタルモノナリ。

「ドローンウオーク」

絲拔細工ニシテ、金布又ハ麻布ノ絲ヲ引拔キ、花形其ノ他ノ紋樣ヲ現ハシタルモノナリ。

其ノ他之ニ類スル工場トシテハ、下駄製造場、鞄革、鼻緒ノ製造場、穀類ノ精選場、刻昆布工場、筆製造工場等アリト雖、其ノ取扱フ物品若ハ材料其ノ他ニ注意ヲ要スル場合アリ、旁此等ハ審議ノ末列記工場中ニ加ヘサルコトト爲レリト云フ。

本條ハ右述フルカ如キ特殊ノ工業ニシテ、工場的弊害ノ比較的ニ少キモノニ對シテ、之レニ工場法ヲ適用スルノ必要無カルヘシトノ趣旨ニ基クモノニシテ、斯ノ如キ工業ニ對シテハ適用ヲ除外スルヲ可トスヘシトハ已ニ立法當時ヨリ學者及實際家ノ間ニ主唱セラレタル所ニシテ多ク說明スルノ要ナカルヘシ、而シテ本條ニ依リ適用ヲ除外セラルル要件ハ

(一)工場法第一條第一號ニ該當シ常時十五人以上ノ職工ヲ使用スル工場ナルコト、卽チ常時十五人以上ノ職工ヲ使用シ若シ除外規定無カリセハ當然法ノ適用ヲ受クヘキ工場ニ非ラサレハ除外ノ問題ヲ生スルコトナキハ勿論ナリ、例ヘハ常時十

人ヲ使用スル場合ニ於テハ假令原動機ヲ使用スルトモ初メヨリ工場法ノ適用ヲ受ケス從テ除外ノ有無ニ關シ問題ヲ生スルコトナシ。

(二)施行令第一條列記以外ノ事業ヲ營マサルコト「左ニ揭クル事業ノミ」トハ、令第一條列記ノ事業ノ中二種以上ノ兼營ヲ認メサルノ趣旨ニ非ラス、同一工場ニ於テ列記ノ事業以外ノ事業ヲ營ム場合ニ於テハ列記ノ事業ニ對シテモ法ノ適用アルヘキコトヲ反面ニ定メタルニ過キス。

(三)蒸汽機關、蒸汽タービン瓦斯機關、石油機關、タービン水車、ペルトン水車【註五】電動機ヲ使用セサルコト(令第三條但書則第一條)揭記ノ原動機ヲ使用スルモノニ對シテハ除外規定ノ適用ナク、法第一條第一項ノ一般規定ニ依リテ適否ノ運命ヲ決スヘキモノトス。原動機ヲ使用ストハ必スシモ作業ノ主要ナル部分ニ之ヲ使用スルコトヲ謂フニ非ス、苟モ其ノ作業ノ工程中ニ使用スレハ足ル。例ヘハ上記ノ原動機ニ依リテ運轉スル卸筒ヲ使用シテ水ヲ汲上ケ酒造業ヲ行フモノニ付テハ、常時使用スル職工ノ數十五人以上ナルトキハ工場法ヲ適用スヘキモノトス、此事ニ付テハ立法論トシテハ可否ヲ容ルルノ餘地アラムモ解釋論トシテハ斯ク解スルヲ正當トス。

原動機トハ水力、風力、蒸氣力等ノ自然力ヲ工業上利用シ得ヘキ動力ニ變化スル機械ノ謂ニシテ其ノ種類甚タ多シト雖、之ヲ上記七種ニ限定シタル所以ハ現在我國ノ工場間ニ最モ廣ク用ヒラルルモノヲ列擧シタルモノナルヘシ。例ヘハ瓦斯タービン、熱氣機關ヲ揭ケサルカ如キハ此ノ種ノ機關ノ本邦工場ニ使用セラルルモノ甚稀ナルカ爲ナルヘク、又風車及日本形水車ヲ揭ケサルハ、此ノ種ノ原動機ヲ使用スルモノニハ工場組織ノ工場ト認ムヘキモノ甚タ稀ナルニ依ルモノナルヘシ。【註六】

【註五】ペルトン水車ハ金屬製ノ水車ニシテ其ノ要部ハ車ノ周圍ニ多數ノ水(バケット)承ヲ具ヘ之ニ接近シテ噴水口(ノツプル)アリ、高速ヲ以テ水ヲ水承ニ吹當テ其ノ衝撃ニ依リテ水車ヲ回轉セシム、水量比較的ニ少ク水壓ノ大ナル場合ニ適スルモノトス。タービン水車モ亦金屬製ノ水車ニシテ車ノ周圍ニ水承(ヴエーン)板アリ、水承板ノ周圍ニ導水板(ガイドヴエーン)アリ、導管ヨリ進入セル水ハ導水板ニ依リテ同時ニ水車ノ全周ニ有ル水承板ニ注キ、其ノ衝撃又ハ反動ニ依リテ水車ヲ回轉セシムルタービ

ン）水車ハ水量ノ豊富ナル場合ニ適ス。

日本形水車ハ構造幼稚ニシテ且其ノ回轉速度遲緩ナルヲ以テ大ナル動力ヲ發生スルコトヲ得ス從テ小規模ノ家内工場ニ適スルモ工場組織ノ工場ノ使用ニ適セス。

【註六】除外規定ノ例外ヲ設クルニ當リ其ノ標準ヲ職工ノ員數ニ求ムヘキカ、或ハ原動機ヲ使用スルヤ否ヤニ求ムヘキカニ付テハ立法當時ニ於テ論議アリタル所ナリ、左ニ之ヲ概述スヘシ。

除外規定ノ例外ノ標準ヲ職工ノ數ニ求ムルヲ不可ナリト爲ス說ノ理由トスル所ハ、工場法カ十五人以上ヲ使用スルモノニハ原則トシテ工場法ヲ適用スルコトヲ定メタルニモ拘ラス、勅令ヲ以テ其ノ必要ナシトシテ或種ノ工場ニ對シ適用ヲ除外シタル以上ハ、更ニ勅令ヲ以テ一定數而モ十五人ニ非サル三十人又ハ五十人以上ノ職工ヲ使用スルモノニハ法ヲ適用スト云フカ如キ規定ヲ設クルハ甚不穩當ニシテ、法律ノ規定スル「十五人以下」ト異リタル人數ヲ以テ法律適用ノ範圍ヲ定ムルハ法律違反ノ命令タルヲ免レス、故ニ一旦例ヘハ菓子製造工場ニハ工場法ノ適用ヲ除外スト云フ規定ヲ設ケタル以上ハ、若特種ノ菓子工場ニ對シ工場法ヲ適用セントスルニハ人數以外ニ於テ他ノ標準ヲ求メサルヘカラス。

準ヲ求ムルコトヲ要スト云フニ在リ。反之除外規定ノ例外ノ標準ヲ人數ニ求メ三十人以上又ハ五十人以上ノ職工ヲ使用スルモノニ對シテハ矢張工場法ヲ適用スルコトヲ定ムルモ差支ナシトスル說ノ理由トスル所ハ、工場法第一條第二項ハ第一條第一項各號ニ通シテ工場法ノ適用ノ除外ノ規定ヲ設ケ得ルモノナリ、卽チ第一項第一號ハ人數ヲ標準トシ第二號ハ事業ノ性質ヲ標準ト爲シタルモノニシテ人數ヲ標準トセス。而シテ法律ハ人數ヲ標準トスル場合ニ對シテモ又事業ノ性質ヲ標準トスルモノニ對シテモ均シク適用除外ノ權限ヲ勅令ニ委任シタルモノニシテ、勅令カ如何ニ之レヲ除外スルカハ全ク其ノ定ムル所ニ一任シタルモノト云ハサルヘカラス。故ニ第一號ニ依リ十五人以上ヲ使用スルモノノ內或特別ノ工業ニ付、三十人又ハ五十人未滿ヲ使用スルモノニ限リ其ノ適用ヲ除外スト規定スルハ何等法律ニ違反スルモノニ非スシテ、寧工場組織ノ工業ニ非サルモノニ對シテ適用ヲ除外スルノ

趣旨ニ適フヘク、又第二號ノ工業ニ對シテモ例ヘハ五人以下又ハ三人以下ノモノニ對シテハ適用ヲ除外スルコトヲ妨ケス、斯ノ如キハ法ノ適用ヲ受クルモノト適用ヲ受ケサルモノトノ權衡ヲ保ツ所以ニシテ立法ノ精神ニ適合スルモノナリト云フニ在リタリ。論議ノ末結局後者ノ主張ハ敗レテ前者ノ勝利ニ歸シ、令第一條列記ノ工業ノミヲ營ム工場ハ人數ノ如何ニ拘ハラス適用ヲ除外セラレ唯電動機、蒸汽機關等一定ノ原動機ヲ使用スルモノハ適用ヲ受クルノ現行法ノ制定ヲ見ルニ至レリ。斯ノ如ク規定シタル結果トシテ、菓子、飴等ノ製造業者又ハ釀造業者等ニシテ職工數數百人ヲ使用スルモノト雖、苟モ原動機ヲ使用セサル以上ハ法ノ適用ヲ受ケサルコトトナリ、僅カニ十七八人又ハ二十人ヲ使用スルモノト雖其ノ主タル作業若ハ主タル作業ニ非スト雖苟モ作業ノ一部分ニ於テ法定ノ原動機ヲ使用スル場合ニ於テハ法ノ適用ヲ受クルコトトナリ適用上權衡ヲ失スルカ如キ場合ヲ生スルニ至レリ。是他日ノ調査研究ヲ要スル所ナリ。

二　鑛業法ノ適用ヲ受クル工場（令第二條）

鑛業法ノ適用ヲ受クル工場ハ本條ニ依リ工場法ノ適用ヲ除外セラル。鑛業トハ鑛物ノ試掘、採掘及之ニ附屬スル事業（鑛業法第一條）ニシテ鑛夫トハ鑛業ニ從事スル勞役者ヲ謂フ、（鑛業法第八條）或工場カ鑛業ニ附屬スル事業ナル場合ニ於テハ鑛業法ノ適用ヲ受クルコト勿論ナリト雖、之ト同時ニ苟モ工場ノ實質ヲ具備スル以上ハ工場法ノ適用ヲモ受クヘキモノトス、（此ノ點ニ關シテハ他ニ異論ナキニ非ス）是レ鑛業法ト工場法トハ相獨立セル二個ノ法律ニシテ其ノ間何等普通法ト特別法トノ關係無キニ依ル。然レトモ鑛業法ノ適用ヲ受クル工場ニ於テハ、其ノ職工卽チ鑛夫ノ生命衞生ノ保護、危害豫防竝建設物及工作物ノ保安ニ付テハ鑛業法第七十一條乃至七十四條ノ規定竝鑛業警察規則ニ依リ、又職工ノ就業制限及扶助ニ付テハ鑛業法第七十五條乃至八十條竝鑛夫勞役扶助規則ニ依リ、工場法ト略同樣ノ取締ヲ受クルカ故ニ必スシモ二重ニ工場法ヲ適用スルノ要無カルヘク、且鑛業附屬ノ事業タル工場ニ付テハ鑛山ト同一ノ法規ノ支配ヲ受ケシムルヲ便宜トスヘシ、是レ鑛業法ノ適用ヲ受クル工場ニ付テハ工場法ノ適用ヲ除外スルノ規定

ヲ設ケタル所以ナリ。

如何ナル工場カ鑛業法ノ適用ヲ受クヘキモノ、卽チ鑛物ノ試掘又ハ採掘ニ附屬セル事業ヲ營ム工場ナリヤハ之ヲ判定スルコト往々ニシテ困難ナル場合アルヘシト雖、或工場カ鑛業法ノ適用ヲ受クルニ必要ナル大體ノ標準ヲ掲クレハ左ノ如シ。

(一)工業主ハ其ノ工場ノ附屬スル鑛業ノ鑛業權者タルコト

是レ鑛業法第十六條カ「鑛業權ハ不可分トス」ト規定シタル當然ノ結果トス。

(二)鑛物ノ試掘又ハ採掘ニ附屬セル事業ヲ營ムコト、

附屬トハ試掘、採掘ノ手段又ハ當然ノ結果タル事業等ニシテ試掘又ハ採掘ト密接ナル關係アルコトヲ要スルモノナリ。例ヘハ鑛業用器具ノ修繕所又ハ採掘シタル鑛物ノ選別、若ハ精錬等ノ如キハ之レヲ附屬事業ト見ルコトヲ得ヘシ。

(三)工場ハ鑛區內又ハ鑛區ニ接近シタル場所ニ在ルコト

此點ニ關シテハ積極消極ノ二說アリ。積極論者ハ鑛業權者カ鑛業法第五十條乃至第七十條ノ規定ニ依リテ、土地又ハ水ノ使用ニ關シテ有スル特權ニ付テ

考フルモ、若シ附屬工場ハ鑛區ト距離ノ關係無ク如何ニ遠隔ナル土地ニ於テモ之ヲ行フコトヲ得ルモノト爲スノ主義ヲ取ルトキハ不都合ノ結果ヲ生スルモノト云ハサルヘカラス、且鑛業法第七十六條カ鑛夫名簿ヲ鑛業事務所ニ備置ヘシト爲シ、鑛業法施行規則第四十一條カ鑛業事務所ヲ鑛區所在地又ハ其ノ附近ニ定ムヘキコトヲ規定シタルニ見ルモ、鑛業法令カ鑛業ノ附屬事業ハ鑛區內又ハ其附近ニ於テ行ハルルモノナルコトヲ前提トシタルコトヲ知ルニ足ルヘシト主張ス。而シテ消極論者ハ鑛業法第八十一條第三項ヲ根據トシ鑛區ト工場トノ位置如何ハ之ヲ問フ所ニ非スト爲ス。何レヲ正當ノ解釋ト爲スカ尙研究ノ餘地アルヘシ。

要スルニ附屬事業ノ性質及附屬工場ノ位置ニ付テハ法律ノ全般ニ依リ之ヲ歸納的ニ解釋スルノ外ナク、其ノ結果ハ凡前記ノ如クナルモノト云ハサルヘカラス

三　鑛業法(鑛夫保護ニ關スル規定)ト工場法トノ比較、

鑛業法及工場法ノ施行ハ共ニ農商務大臣ノ主管ニ屬スト雖、前者ハ農商務大臣、又ハ特別機關タル鑛務署長ヲ通シテ、後者ハ悉ク地方長官(東京府ニ於テハ警視總

監」ヲ通シテ之ヲ施行ス、而シテ鑛業法ニ於テハ鑛夫保護ニ關シテハ僅ニ二章十條ヲ設ケ大要ヲ規定シタルニ過キスシテ他ハ凡テ「省令」ノ規定ニ一任セルニ反シ、工場法ニ於テハ稍々詳細ノ規定ヲ設ケ、且法律ノ概括規定ニ對スル細則モ、重要ナルモノニ付テハ凡テ之ヲ「勅令」ニ委任シ、其ノ他ノモノニ付テハ之ヲ省令ニ委任ス。蓋シ鑛業ハ其ノ業態ノ種類比較的ニ少ナク、且之ニ依テ支配セラルルモノ小數ナルニ反シ、工業ハ其ノ業態千種萬様、適用範圍亦廣汎ニシテ且其ノ影響スル所甚タ大ナルニ依ルモノナルヘシ。現行ノ工場法令ハ工場法、同施行令、同施行規則及之ニ關聯スル各廳府縣令ニシテ鑛業法令ハ鑛業法、同施行細則、鑛夫勞役扶助規則、及鑛業警察規則トス。

鑛業法令及工場法令ノ内容ハ大體ニ於テ大差ナシト雖而モ兩者間ニ於ケル業態ノ差異及慣習ノ不同ニ依リ其ノ間自ラ規定ノ異ナルモノ無キニ非ス、今其ノ主要ナルモノヲ擧クレハ左ノ如シ。

工場法令

(一)工業ト鑛業　工業又ハ工場ノ定義ヲ規定セス　鑛業ノ定義ヲ規定ス(法一)

(二)職工　定義ヲ規定セス

(イ)職工數及事業ノ性質等ヲ標準トス(法一ノ一、法二四、令一、令三)

(三)適用範圍

(ロ)適用除外規定アリ(法一ノ一、令二ノ一)

(四)就業ノ制限

(イ)十才以上十二未滿ノ者ノ就業ヲ許スコトアリ(法二)

(ロ)業務ノ種類ニヨリ就業時間ノ延長ヲ許ス(法三ノ二)

(ハ)特殊業務ニ對スル女子ノ中夜就業(法五)

(ニ)季節ニ依リ繁忙ナル業務ニ對スル時間延長(法八ノ四)

(五)設備ノ取締

(イ)之ニ關スル省令ナク各府縣令ニ依ルヘシ

(ロ)職工ニ義務ヲ負ハシメタル規定ナシ

(六)扶助

(イ)扶助料算出ノ基礎タル賃金中ニハ食事其他ノ給與ヲ加算スルノ明文

鑄夫ノ定義ヲ規定ス(法八)

鑛業法令

鑛業ノ定義ヲ規定ス(法一)

鑛業及之ニ附屬スル事業タルコトヲ要件トス(法一)

適用除外規定ナシ

十二才未滿ノ者ノ就業ヲ許ス特別規定ナシ

此ノ如キ特別規定ナシ

此ノ如キ特別規定ナシ

此ノ如キ特別規定ナシ

鑛業警察規則(省令)ニ依ル

鑛夫ヲシテ危害豫防設備ヲ毀損又ハ變更セサルノ義務ヲ負ハシム(警則六、七)

此ノ如キ明文ナシ

アリ(令一七)

(ロ)賃金算出不能ノ場合、扶助規則ニ規定ナキ場合ノ特別規定(令一六ノ三)

(ハ)施行令、施行規則中ニ扶助報告ヲ提出スルノ規定ナシ(但シ府縣令ヲ以テ此ノ如キ規定ヲ設クルコトアルヘシ)

此ノ如キ明文ナシ

扶助報告ヲ提出セシム(則三三)

(七)雇傭周旋

(イ)工場ノ就業規則ニ關スル規定ナシ

(ロ)雇入ニ關シ違約金ヲ定メ又ハ損害賠償ノ金額ヲ豫定スルコトヲ得ス(令二四)

雇傭勞役規則ヲ作リ許可ヲ受クルコトヲ要ス(法七五、則一、二)

制裁ヲ公認スルコト(則一ノ六、二)

(ハ)雇傭條件ヲ周知セシムルコトニ關スル規定ナシ

雇傭條件ヲ周知セシムルコトヲ要ス(則三六)

(ニ)雇傭勞役又ハ扶助ニ關シ紛擾ヲ生シタル場合ノ届出ニ關スル規定ナシ

雇傭勞役又ハ扶助ニ關シ紛擾ヲ生シタルトキハ届出ツルコトヲ要ス(則三七)

(ホ)雇入書類ノ保存(則一九)

雇入書類ノ保存ニ關スル規則ナシ(則三一二)

(ヘ)解雇ノ場合ニ於テ工業主カ職工ニ

鑛業權者カ鑛夫ヲ解雇シタルトキハ其ノ請求ニ依リ證明ヲ與フルコトヲ要ス(法七七)

鑛業明細表中ニ於テ毎年報告スルコトヲ要ス(施行細則五〇)

斯ノ如キ規定ナシ

(八)徒弟

徒弟制度ヲ設ク(令二八乃至三二)

徒弟制度ヲ設ケス

(九)臨檢

當該官吏臨檢ノ際證票ノ携帶ヲ要ス(法一四)

證票ノ携帶ヲ要セス(法九九ノ二)

(十)工場管理人及鑛業代理人

(イ)工業主ハ原則トシテハ工場管理人ヲ置クコトヲ得(法一八)

鑛業權者自ラ管理セサルトキハ鑛業代理人ヲ置クコトヲ要ス(細則五四)

(ロ)履歷書ヲ添ヘ届出ツルコト(則二一)

履歷書ヲ要セス

(ハ)工場管理人ニ付キ一定ノ事由アルトキハ届出ツルコトヲ要ス(則二二)

代理人ノ代理權ニ制限ヲ加ヘタルトキハ届出ツルコトヲ要ス(細則五四ノ二)

(ニ)戸籍ノ無償證明

職工徒弟、職工徒弟タラントスル者若ハ工業主ハ戸籍ノ無償證明ヲ求ムルコトヲ得(法一一六)

斯ノ如キ規定ナシ

(三)訴願又ハ行政訴訟　工場法ノ適用ニ付テハ訴願又ハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得(法二三)　鑛業法中、鑛業警察、鑛夫ノ雇傭、勞役及扶助ニ關シテハ訴願又ハ訴訟ヲ提起スルコトヲ認メラルルコトナシ

(三)官立工場　官立工場ニ付テハ所轄官廳カ行政官廳ニ屬スル職務ヲ行フ　斯ノ如キ特別ノ規定ナシ

【註七】工場法令中規定無シトシタルモノニ付テモ廳府縣令ヲ以テ既ニ斯ノ如キ規定ヲ設ケタルモノ若ハ將來斯ノ如キ規定ヲ設クルコト無シトセス。

第四項　適用範圍ノ決定竝適用開始及終了ノ時期

一工場ノ數　工場ノ單位ハ往々ニシテ明確ヲ缺キ或工場カ一個ノ工場ナリヤ又ハ數個ノ工場ナリヤ疑ハシキ場合少シトセス、如斯場合ニ對シテ原則的ニ工場ノ單複ヲ決定スヘキ標準ヲ定ムルコト頗ル困難ニシテ結極ハ各個ノ工場ニ付諸般ノ狀況ヲ綜合シテ之ヲ決定スルノ外ナシト雖、大體ノ標準ヲ擧クレハ左ノ如シ。

(一)工業主カ同一ナル場合　此ノ場合ニ於テハ、作業場カ同一區域內ニ在ルトキハ假令何等作業上ノ連絡ナキ業務ヲ營ム場合ト雖、之ヲ同一工場ト解スヘキコト疑ヲ容レス。同一區域トハ同一建物內ハ勿論、同一ノ敷地內ナル場合ヲモ包含ス、最モ疑ハシキ場合ハ作業場カ甚シク相接近セル各別ノ區域ニ存スル場合トス、

此ノ場合ニ於テハ其ノ作業カ同一性質ノ物ナルカ若ハ作業上又ハ設備上密接ナル關係アルトキハ之ヲ同一工場トシ、其ノ他ノ場合ニ於テハ各別ノ工場ト解スヘキモノトス。例ヘハ骸炭工場ノ工業主カ骸炭工場ニ接近シ、而カモ之ト公道ヲ隔テテ異リタル區域內ニ於テ同一性質ノ業務タル骸炭製造ヲ行ヒ、又ハ骸炭工場ヨリ供給スル「タール」ヲ原料トシテ「アニリン」又ハ「ベンゾール」等ノ製造ヲ爲スカ如キ場合ニ於テハ之ヲ同一ノ工場ト解スヘク、又石灰ノ製造販賣ヲ目的トスル會社カ相接近セル數個ノ作業場ヲ設ケ數人ヲシテ各別ニ其ノ製造ヲ請負ハシメ、請負者ハ各自職工ヲ使用シテ製造ヲ營ム場合ニ於テハ、各作業場ハ會社ヲ同一工業主トスル同一工場ト解スヘキモノトス。之ニ反シ機械工場ノ工業主カ其ノ機械工場ニ接近シ、而カモ之レト異リタル區域內ニ於テ菓子ノ製造業ヲ行フカ如キ場合ニハ各別ノ工場ト看做スヘシ。然レトモ若シ機械工場ノ動力ニ依リ菓子ノ製造業ヲ行フカ如キ場合ハ、設備ノ上ニ於テ密接ナル關係アルノ理由ニ依リ同一ノ工場ト解スルヲ至當トス。

(二)工業主カ異ナル場合　數人ノ工業主ノ工場カ異リタル區域內ニ在リテ、作

業上又ハ設備上何等ノ關係ナキ場合ニ於テハ、各別ノ數個ノ工場タルコト勿論ナリト雖、作業場カ同一ノ建物又ハ敷地内ニ存スルカ、若ハ各別ノ區域内ニ存スルモ、同一ノ設備ヲ共用スル場合ニ於テハ其ノ區別稍困難ナル場合アルヘシ。

(1) 同一敷地内ニ存スル場合　英國工場法ハ貸工場（テナメントフアクトリー）又ハ貸手工場（テナメントウワークショップ）ト稱シ、斯ノ如キ場合ニ於テハ之ヲ凡テ同一工場ト見做スノ規定ヲ設クルモ、我工場法ニ於テハ斯ノ如キ特別規定無キカ故ニ、解釋ニ依リテ之ヲ決定スルノ外ナキモノトス【註八】

(イ) 各作業場間ニ區劃ナキ場合　數人ノ工業主カ各自ノ作業場間ニ何等ノ區劃ナキ同一ノ場所ニ相集リテ職工ヲ使用シ勞働ニ從事セシムル場合ニ於テハ、各自ノ作業ノ種類ノ異同連絡ノ有無ヲ問ハス「集團勞働」ヲ取締ルノ工場法ノ精神ニ鑑ミ之ヲ同一ノ工場ト解スルヲ至當トスヘシ。

(ロ) 各工場間ニ截然タル區劃ノ存スル場合　兩工場カ全然同種ノ業務ヲ營ム場合、又ハ互ニ相關聯セル業務ヲ營ム場（例ヘハ一方ハ製絲業ヲ他方ハ揚返業ヲ營ムカ如キ場合又ハ業務ノ種類ニハ何等ノ關係ナキモ同一ノ建物又ハ原動機其ノ他ノ機械等ノ設備ヲ共用シ、之ヲ同一工場ト認ムヘキ事實ノ存スル場合ニ於テハ之ヲ一個ノ工場ト爲スヘク、反之業務ノ種類モ全然別個ノモノニシテ作業上何等ノ關係ナク、且各區劃截然タル獨立ノ建物内ニ在リ設備共用ノ事實等ナキ場合ニ於テハ、此等ヲ數個ノ工場ト看ルヘキ場合多カルヘシ。

(2) 數人ノ工業主ノ隣接セル工場カ各別ノ區域内ニ存スル場合　此ノ場合ニ於テハ數個ノ工場タルコトヲ原則トスルモ、其ノ區域ノ區劃嚴格ナラス又ハ同一原動機ヲ使用スル等設備ノ共用ヲ爲スカ如キ場合ニ於テハ、或ハ之ヲ一工場トシテ取扱フヲ至當トスル場合ナキニ非サルヘシ。

之ヲ要スルニ現行工場法ニ於テハ、英國工場法ノ如ク貸工場又ハ貸手工場ノ場合ニ對スル明文ヲ設ケサルカ故ニ概ネ前記ノ標準ニ依リ實地ノ狀勢如何ヲ審ニシテ工場ノ個數ヲ決定スルノ外ナカルヘシ。又英國工場法ハ明文ヲ以テ工場所有者ト工業主トヲシテ法律上ノ義務ヲ分擔セシムト雖、我工場法ニ於テハ此ノ如キ明文ヲ存セサルカ故ニ義務ノ主體ハ、工業主ニシテ、所有者ハ何等ノ關係ナク法

律上ハ各工業主カ一切ノ義務ヲ履行スルノ責任アルモノト解セサルヘカラス。尙如上ノ場合ニ於テ同一工場內ニ數人ノ工業主有ルトキハ各工業主ハ工場竝設備ノ共通ナル部分ニ付テハ共同シテ其ノ責ニ任シ、其ノ他ノ事項ニ付テハ各別ニ其ノ責ニ任スヘキモノトス。

工場法第一條カ「本法ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル「工場」ニ之ヲ適用ス」ト規定シタル精神ハ、工業主ノ單複ヲ問ハス又工業ノ種類ノ異同ニ拘ラス、使用職工十五人以上ナルカ又ハ事業ノ性質危險又ハ衞生上有害ナル工場ノ存在スルトキハ、其ノ存在ヲ要件トシテ其ノ工場ニ關シ工場法ノ效力ノ發生スヘキコトヲ表明シタルモノト云フヲ得ヘシ。換言スレハ工場ノ單複ヲ決定スルニ付テハ、工業主ノ單複、工業ノ種類ノ異同ノ如キハ餘リニ重ヲ置クニ足ラス、就業ノ狀況、工場ノ地位、構造、設備等諸種ノ關係ニ依リテ決スヘキモノト解スヘキモノナルヘシ。

以上ハ工場法立法ノ精神ニ基キ大體ノ解釋ヲ下シタルニノナリ。而シテ我國ニ於ケル從來ノ工業狀態ニ於テハ貸工場ノ性質ヲ有スルモノ甚タ多カラサリシト雖、將來工業狀態ノ稚移スルト共ニ此ノ種ノ工場亦相當ノ增加ヲ見ルヲ免レサルヘシ。從テ將來ノ立法論トシテハ貸工場ニ付テハ法律又ハ其ノ委任命令ニ於テ明文ヲ以テ或ル範圍ノ特別規定ヲ設ケ以テ諸般ノ疑義ヲ避クルノ必要アルヘシト信ス。【註九】

【註八】「貸工場」トハ數人ノ工業主カ同一ノ建物內ノ數個ノ部分ニ於テ各自獨立(法律上)シテ、動力ヲ使用シ、製造業又ハ手工業ヲ營ム一個ノ工場ヲ謂フ、本法ニ於テハ貸工場ニ付テハ同一敷地內ニ在ル建物ハ凡テ同一ノ建物ト看做ス。「貸手工場」トハ數人カ工場ノ占有者又ハ所有者ノ許可ヲ受ケ又ハ契約ニ依リ、其ノ工場內ニ於テ勞働ニ從事スル場合ニシテ、其ノ數人カ其ノ占有者又ハ所有者ノ職工ニ非サルモノヲ謂フ。(英國工場及手工場法第百四十九條)

【註九】獨逸ニ於テハ我國ト同シク此ノ點ニ關スル明文ナク、而シテ又之ニ關スル判例ナキカ如シ、ランドマン氏ハ數個ノ工業カ同一ノ場所(Räumlich vereinigt)ニ於テ行ハレ且ツ作業カ關聯スル場合ニ於テハ(例ヘハ鍵職ト武力職ノ如キ)之ヲ同一ノ工場トシ、反之業態ノ全ク異ル場合(Betriebe gesclüftlich betrennt)ニ於テハ數個ノ工場トスヘキモノト主張セリ。而シテ氏ハ其ノ論據ヲ明ニセ

スト雖恐クハ常識的解釋ニシテ氏ノ私見ニ過サルヘシ。

二適用開始ノ時期及終了ノ時期　既ニ縷述セル所ニ依リ如何ナル工場カ工場法ノ適用ヲ受クヘキモノナリヤハ略之ヲ明ニシタリ。而シテ各工場ハ工場法ノ適用ヲ受クヘキ事由ノ發生スルト同時ニ當然工場法ノ適用ヲ受クヘキモノニシテ、官廳ヨリ工場法ノ適用ヲ受クヘキコトノ通告ノ有無ニ依リテ其ノ適否ヲ左右セラルルモノニ非ス。惟フニ法第一條第一項第二號ニ依リ適用ヲ除外セラルルモノニ付テハ、其モノ(危險有害工場)及法第一條及第三條ニ列規シタルヲ以テ、適否ノ分界頗ル明確ナル業務ノ種類ヲ令第一條ニ付テハ、適用開始竝終了ノ時期如何ヲ論スルノカ故ニ此ノ種ノ工業ヲ營ム工場ニ付テハ「常時十五人以上」ヲ使用スルモノタルコトヲ要スルカ故ニ、其ノ適用開始竝終了ノ時期ヲ定ムルコト甚困難ナル場合ナシトセス。故ニ勅令立案ノ際ニ當リテハ、適否ノ疑ハシキモノニ付テハ當該官廳ヲシテ一々其ノ適否ヲ告知セシムヘシトノ立案ヲ爲シタルコトアルモ、斯ノ如クスルトキハ告知洩ノ工場ハ、當然適用ヲ受クヘキモノナルニモ拘ラス適用ヲ受ケサルモノト誤信セシムルノミナラス、假令斯ノ如キ規定ヲ存スルモ、法ノ適否ハ結局法定ノ要件ヲ具備スルヤ否ヤノ事實問題ニ依リテ決スルノ外ナキカ故ニ斯ノ如キ規定ハ之ヲ設ケサルコトト爲シタリト云フ。

工場法適用ノ開始及終了ノ時期ハ各個ノ場合ニ於テ事實ニ依リ之ヲ決定スルノ外ナク豫メ一定ノ標準ヲ定ムルハ困難ナリト雖、適用開始及終了ノ時期ニ付テハ凡ソ左ノ諸點ハ之ヲ注意スヘキモノトス。

(一)十五人以上ノ職工ヲ使用シタル事實ノ存スルコト　或工場カ十五人以上ノ職工ヲ使用シ又ハ使用シタル事實ナク且現ニ十五人以上ヲ使用セサル場合ニ於テハ其ノ規模大ナリト雖通常ハ十五人以上ヲ使用スルモノト認メラルルコトナカルヘシ。

(二)常時タルヤ否ヤハ必スシモ或ル日數ヲ經テ始テ定マルモノニ非ス　或ル工場カ常時十五人以上ヲ使用スルヤ否ヤハ事業ノ性質、工場ノ設備等諸種ノ情況ニ依リ、原則トシテ客觀的ニ之ヲ判定スヘキモノナルカ故ニ、斯ノ如キ判定ノ可能ナ

ルニ至リタル時點ヨリ工場法ノ適用ハ當然開始セラルルモノトス。

適用終了ノ時點ニ付テモ亦前記ニ準シテ之ヲ判定スルヲ得ヘシ。而シテ或ル工場カ工場法ノ適用ヲ受クル爲ニハ必スシモ現實ニ十五人以上ヲ使用スルコトヲ要セサルカ故ニ、十五人以上ヲ使用スルヲ常態トスル工場ニシテ適用範圍ニ入リタルモノカ臨時減員スルカ如キコトアルモ、之カ爲直チニ適用範圍外ニ出ツルモノニ非サルハ勿論ナリ。

茲ニ注意ヲ要スルハ一箇年中一定ノ期間ニ限リ事業ヲ營ミ又ハ一定ノ期間ニ特ニ繁忙ナル事業トス。斯ノ如キ事業ハ毎年一定ノ時點ヨリ法ノ適用ヲ開始シ事業經營期間ノ經過ヲ了リタルニ依リテ法ノ適用終了シ、次年ニ於テ改メテ適用ノ開始アルモノニ非ス、一旦法ノ適用ノ開始アリタル以上ハ假令職工ヲ十五人未滿ニ減少シ又ハ一時事業ヲ休止スルコトアルモ、事業カ回歸的ニ毎年繰返サルル狀態ニシテ中斷セラルルコトナク持續スル限リ適用ノ終了ナキモノトス。換言スレハ季節工業ニ付テハ、一旦適用ヲ開始シタルトキハ其ノ終了ノ時點ハ季節ノ經過ヲ終リタル時點ニ非スシテ、回歸的ニ十五人以上ヲ使用スル狀態ノ消滅スル時點トス、從テ斯ノ如キ工業モ亦他ノ一般工業ト等シク、假令一定ノ時期ニ限リ十五人以上ヲ使用スルモノト雖、連續的ニ法ノ適用ヲ受クヘキモノナリ。

工場設置ノ許可又ハ認可ト工場法適用開始ノ時期　工場設置ノ許可又ハ認可ニ付テハ工場法ハ何等ノ規定ヲ設ケストト雖、工場法制定當時已ニ工場設置ノ許可又ハ認可ニ關スル府縣令ヲ發シタル府縣多カリシカ故ニ法律ニ於テ態々命令ニ委任スルノ規定ヲ置クニ及ハストノ趣旨ニ依リ、法第十三條ノ外工場設置ノ許可又ハ認可ニ關スル規定ヲ設ケサリシモノニシテ、決シテ府縣令ヲ以テ工場ノ設置許可又ハ認可ニ關スル規定ヲ設クルコトヲ否認シタルモノニ非ス、是レ施行令第四十條ノ明規スル所ナリ、故ニ工場設置ノ許可又ハ認可ニ關シテハ各廳府縣令ノ規定ニ從フヘク、其ノ効力發生ノ時期亦工場法ノ適用開始ノ時期ト必然的ノ關係ナシ、從テ工場法ノ適用ヲ受クヘキ工場ニシテ未タ工場法ノ適用ノ開始ナキニ拘ラス、工場設置ニ關スル府縣令ノ適用ヲ受クルコトアルヘキハ勿論トス。

適用工場數　工場法ノ適用範圍ニ付テハ既ニ之ヲ縷述シタリ、今最近ノ調査ニ依リ現ニ此ノ適用範圍内ニ在ル工場數及職工數ヲ表示スレハ左ノ如シ。

工場法ノ適用ヲ受クル工場數竝職工數（大正五年十二月三十一日現在）

區分 / 府縣名	工場法第一條第一號ニ該當スルモノ		工場法第一條第二號ニ該當スルモノ		工場法施行令第一條但書ニ該當スルモノ		計	
	工場	職工	工場	職工	工場	職工	工場	職工
北海道	二三一	一八、七四一	三八〇	一四、八〇一	五	二、三四一	六二六	三五、九八四
東京	一、八七〇	一三六、七〇一	七二五	二八、五五三	一七	七、六四八	二、六一二	一七二、二九二
京都	五一五	二八、五五三	一四七	五、三四一	一一	四、三六〇	六七三	三八、二五四
大阪	一、八七一	一四八、二三三	一、六八	七〇、三一一	四四	一七、六四八	三、五八三	二三六、二九二
神奈川	三五八	三六、七〇九	四五五	一七、九二一	八	三、一四一	八二一	五八、七七一
兵庫	一、〇三	一二〇、七二九	二三五	九二、〇六一	三三	一二、九二一	一、三七一	二二四、六一一
長崎	五四	七、〇三六	一四	五、〇三一	四	一、三四一	七二	一三、四七一
新潟	二六三	一〇、八三三	八四	三、三四一	一〇	四、〇三一	三五七	一八、二七四
埼玉	三七〇	二五、八五七	三五	一四、八〇一	一三	五、一四一	四一八	四五、七七一
群馬	二一三	一八、九六〇	五	二、三四一	四	一、七一一	二二二	二三、〇一一
千葉	四五五	二、二六〇	一〇	四、〇五一	一一	四、三四一	四七六	一八、三四一
茨城	三三	四、九〇五	二六	一〇、八三三	一三	五、一四一	三七二	二〇、八七一
栃木	一五〇	六、七五四	三五	一四、八〇一	一〇	四、〇三一	一九五	二五、五八五
奈良	一〇	八、九五五	二六	一〇、三四一	四	一、七一一	四〇	一九、六八六
三重	三〇五	二一、八七九	一二五	五〇、〇三一	一七	七、〇三一	四四七	七八、九一一
愛知	一、二九八	八三、九〇二	一〇五	四二、〇三一	一三	五、一四一	一、四一六	一三〇、九七四
静岡	四三四	二六、〇三一	三五	一四、〇三一	六	二、四六一	四七五	四二、一四一
山梨	一二九	一四、一三九	四四	一七、六四一	二	八二一	一七五	一八、九七一
滋賀	六九	六、〇九六	一一	四、四六一	一	四一一	八一	一〇、五七一
岐阜	二一七	一一、七一六	二四	九、六四一	二	八二一	二四三	二一、六七一
長野	三一五	一八、七四八	二九	一一、六四一	三	一、二三一	三四七	三一、六二一
宮城	七三	五、一一一	七二	二八、九二一	八	三、二九一	八二三	三七、三三一
福島	一三八	一一、八九九	二九	一一、七二一	一一	四、四六一	一七八	二七、〇六一
巖手	四六	一、七二三	一五	六、〇四一	二	八二一	六三	八、七六一
青森	四四	一、二四四	二九	一一、六四一	四	一、六四一	七七	一四、五二一
山形	一七二	一〇、八六三	四二	一六、八四一	六	二、四六一	二二〇	二九、九七一
秋田	六七	二、八六三	一四	五、六四一	二	八二一	八三	九、三四一
福井	二九九	一四、二三九	六一	二四、〇三一	八	三、二九一	三六八	四二、五七一
石川	三一一	一二、三〇七	三三	一三、二四一	四	一、六四一	三四七	一四、九七一
富山	一二六	五、八八〇	一〇八	四二、九二一	一四	五、七四一	一四八	五三、五四一
鳥取	七五	四、四〇三	一六	六、三四一	二	八二一	九三	一一、六七一
島根	七九	三、三〇八	一三	五、一四一	一	四一一	九三	九、四五一
岡山	三〇一	一二八、三五八	三五	一四、〇三一	四	一、六四一	三四〇	一四四、〇一一
廣島	三〇五	一二一、一五八	三六	一四、四六一	四	一、六四一	三四五	一三七、二七一
山口	一〇五	九、六九八	八	三、二九一	一	四一一	一一四	一三、三一一
和歌山	一八三	一六、四四九	六三	二五、九二一	七	二、八六一	二五三	四四、二七一
德島	一〇一	七、二五三	八	三、二九一	一	四一一	一一〇	一一、四七一
香川	九三	四、九七一	二八	一一、二九一	三	一、二三一	一二四	一六、二一一
愛媛	二七二	二一、二八九	六	二、四六一	一	四一一	二七九	二三、七一一
高知	一四三	五、六八四	二六	一〇、二九一	一	四一一	一七一	一六、二一一

福岡	一九二	二〇、四九〇	八二	五二六	三三	一、五七三	三〇六	二三、五八八
大分	六四	五、二五二	一三五	二七九	一	二〇	二〇〇	五、五五三
佐賀	六二	三、二〇〇	三三	一四三	八	二四四	九二	三、五八六
熊本	五七	六、九一四	四六	三三五	八	一五三	一一	七、二九三
宮崎	六九	二、三九一	四	二七	二	六一	七五	二、四七九
鹿兒島	一九三	六、三三三	二五	一七九	四	八〇	三三	六、四九五
沖繩	三二	一、六九三	一三	五一	―	―	四三	一、八四四
計	一四、一三三	一、〇七六、八〇七	四、四二〇	一五、一一三	三八九	一六、一五七	一八、九三三	一、一二八、〇七七

第五項　官立及公立工場

官立又ハ公立工場トハ官制上又ハ自治法規ニ依リ一定ノ工業的作業ヲ行フ所ハ勿論官廳又ハ自治體カ便宜ノ爲ニ其ノ構內ニ設置シタル印刷場ノ類ヲモ包含ス。工場法ハ官立又ハ公立ノ工場ニモ適用セラルルモ只二三ノ點ニ於テ民間工場ト異ル所アリ。（法第二十五條）

一工場管理人及罰則ニ關スル規定ハ官立又ハ公立ノ工場ニ適用ナシ。官立及公立ノ工場ニ於テハ工場ノ責任者タル官吏又ハ公吏ハ嚴肅ナル官規ノ下ニ身分上ノ監督ヲ受ケ事務ニ從事スルカ故ニ敢テ刑罰ヲ以テ法ノ遵奉ヲ强制スルノ要ナシ又之ニ關連シテ工場管理人ニ關スル規定ヲ適用スル必要ナシ。

二官立工場ニ付テハ所轄官廳ハ自ラ監督官廳ノ職務ヲ行フ。官立工場ノ所轄官廳ハ工場法規ニ準據シテ自ラ監督官廳ノ「職務」ヲ行フモ「命令」ヲ發スル權限ヲ有セス所轄官廳ハ其ノ工場ノ所屬ノ主務大臣ヲ謂フ。公立工場ニハ此ノ特權ナシ。

三官立工場ニ於ケル職工ノ扶助ニ付テハ別ニ定ムル規定ニ依ル。（令第二十條）

尙本條ニ關シテハ第六節第九項ヲ參照スヘシ

第六項　家內工場

家內工場トハ家族ノ相寄リテ工業的作業ヲ營ムモノニシテ所謂工場組織ノ域ニ達セサルモノヲ云フ。英國工場法第百十五條ニ曰ク

家內工場(Domestic factory)又ハ家內手工場(Domestic workshop)トハ住宅ノ用ニ供スル私宅私室其ノ他ノ場所ニシテ其ノ作業ノ性質上本法ニ所謂工場又ハ手工場ニ該當シ且其ノ工程中動力ヲ使用スルモ從業者ハ專ラ家族ノミナルモノヲ云フ。

固ヨリ此ノ定義ヲ以テ一般的ニ家內工場ノ定義ト爲スコトヲ得ルモノニ非スト雖大體ニ於テ其ノ性質ヲ盡シタルモノト見テ差支無カルヘシ。家內工場ノ特

色トスル所ハ工場勞働者カ其ノ就業ニ付一定ノ監督者ノ下ニ直接ノ拘束ヲ受クルコトナク其ノ勞働ノ自由ナルニ在リ、故ニ此ノ點ニ關シテハ一般工場勞働者ノ如キ弊害ナシト雖、其ノ事業ノ不衞生若ハ危險ニシテ取締ノ必要アルモノ少カラサルハ一般工場ト何等選フ所ナシ、此ノ種ノ工場ニ於テハ工業主卽チ職工ニシテ其ノ規模頗ル小サク資力薄弱ナレハ之ニ嚴密ナル法規ヲ適用スルハ難事ナリ、然レトモ英獨諸國ニ於テハ何レモ相當範圍ノ取締ヲ爲スヲ怠ラス、英國工場及手工場法第百〇七條及獨逸營業條例第百十九條乙ハ家內工場ノ工業主カ工場法ノ適用ヲ受クル工場ノ下請ヲ爲サシムル工業主ニモ一定ノ義務ヲ負ハシメ且家內工場ノ工業主ニ對シテハ工場法ノ一般規定ヨリモ寬大ナル取締規定ヲ適用ス、英國及獨逸ノ家內工場ニ對スル取締規定ノ大樣左ノ如シ。

英國

(甲)工場法(第百〇七條乃至第百十五條)ニ依ル家內工場ニ關スル取締規定ノ大要左ノ如シ

(一)職工名簿ノ備付　內務大臣ノ指定スル事業ヲ營ム工場又ハ手工場ノ工業主ハ自己ノ工場ノ業務ニ付工場外ニ於テ勞働ヲ爲ス職工又ハ請負者ノ姓名及宿所ヲ記入スル名簿ヲ備付クルコトヲ要ス。此ノ名簿ハ毎年二回地方廳ニ屆出テ且工場監督官吏ノ要求ニ依リ其ノ謄本又ハ抄本ヲ差出スコトヲ要ス。

內務大臣ノ指定シタル家內工業左ノ如シ

(一)衣服ノ裁縫、洗濯、修繕及飾
(二)卓(テーブル)、寢床、其ノ他ノ家庭用綿麻布ノ製造、飾、仕上及修繕及之ニ關聯スル作業
(三)「レース」、「レース」窓掛及網ノ製造、飾、修繕及仕上
(四)窓掛其ノ他ノ家庭用幕類ノ製造及之ニ關聯スル作業
(五)家具及室內裝飾品ノ製造
(六)電氣製鈑
(七)鑢ノ製造
(八)眞鍮竝眞鍮製品又ハ其部分品ノ製造砲金其他ノ銅ノ合金ヲ含ム)
(九)革細工
(十)鐵又ハ鋼鎖ノ製造
(十一)鐵又ハ鋼錨ノ製造

(十三)荷馬車ノ金具製造
(十三)錠、鍵(カケガネ)及鍵ノ製造
(十四)雨傘及日傘及其ノ部分品ノ製造及修理
(十五)造花
(十六)針金網以外ノ網ノ製造
(十七)天幕ノ製造
(十八)袋ノ製造及修理
(十九)「ラケット」又ハテニス球ノ覆被
(二十)紙製嚢
(二一)全部又ハ一部ヲ紙、板紙、經木(チョッヂ)又ハ之ニ準スヘキ材料ヲ以テ作リタル箱其ノ他ノ容器ノ製造
(二二)刷毛ノ製造
(二三)豆ノ選別
(二四)羽毛ノ整毛

(二五)釦「ファク」、ピン及結髪用ピンノ包装荷造
(二六)塗料ヲ施シタル玩具ノ製造
(二七)籠ノ製造
(二八)「チョコレート」及糖菓ノ製造
(二九)「コザック」クリスマス爆竹、クリスマス靴下又ハ之ニ準スヘキ物品若ハ其ノ部分品ノ製造及充塡
(三十)纖維工場ニ於ケル纖布業
(二)危險又ハ有害ナル就業　地方廳カ工業主ニ對シ其ノ工場又ハ手工場ノ仕事ヲ爲ス家内工場カ其ノ職工ニ危險又ハ衞生上有害ナル旨通知ヲ發シタル後一ヶ月ヲ經ルモ尙其ノ家内工場ニ對シ仕事ヲ配付シタルトキハ工業主ヲ百圓以下ノ罰金ニ處ス
(三)工業主カ猩紅熱又ハ痘瘡患者アル家内工場ニ衣服ノ裁縫、洗濯、又修繕ヲ爲サシメタルトキハ百圓以内ノ罰金ニ處ス
(四)工業主ハ傳染病患者アル家内工場ニ仕事ヲ供給スルコトヲ得ス

(五)工場法ノ規定中休日、休憩、工場臺帳、災害報告、衞生設備、換氣等ニ關スル規定ハ全然之ヲ適用セス、就業時間ニ付テハ例外ヲ設ケ寬大ナル制限ヲ爲スノミ

(六)家內工業ニシテ內務大臣ノ定メタル危險業務(第三節第二項參照)ヲ行フモノニ付テハ一般工場又ハ手工場ト同一ノ規定ヲ適用セラル

要スルニ英國ニ於ケル家內工業ノ取締ハ其ノ工業主ノ外仕事ノ供給者タル工業主ヲ通シテ之ヲ爲スナリ。

(乙)幼少者(ゼエムプロイメント、オブ、チルドレン、アクト)ノ使用ニ付テハ一九〇三年幼少者使用法ヲ以テ工場及手工場法ノ適用ヲ受ケサル工業其ノ他ノ事業ニ付テモ制限ヲ設ケタリ。此ノ法律ニ依ル幼少者ノ使用ニ關スル制限左ノ如シ。

(一)地方廳ハ命令ヲ以テ十六歲未滿ノ幼少者ノ使用ヲ禁止又ハ制限スルコトヲ得(第一條)

(二)幼者ハ午後九時ヨリ午前六時ニ至ル迄ノ間之ヲ使用スルコトヲ得ス、但シ地方廳ハ命令ヲ以テ其ノ時間ヲ變更スルコトヲ得

(三)工場及手工場法ニ從ヒ半日制ニ依リ使用セラルル幼者ハ之ヲ他ノ職業ニ使用スルコトヲ得ス(以上第三條)

(四)幼者ヲシテ危害ノ虞アル重量物ヲ揭揚運搬又ハ移動セシムルコトヲ得ス

(五)幼者ハ身體發育ノ狀況ニ從ヒ、其ノ生命、四肢、健康又ハ敎育ニ障害ヲ生スル虞アル職業ニ使用スルコトヲ得ス(以上第四條)

右述フル所ハ同法第十二條ノ「使用トハ職業トシテ若ハ營利ノ目的ヲ以テ行フ一切ノ勞働ニ使用スルコトヲ包含シ、其ノ利得カ幼者ニ歸スルト其ノ他ノ人ニ歸スルトハ問フ所ニ非ス」トノ規定ニ依リ家內工場ニモ適用セラルルコト明ナリ。尙本法ハ工業以外ニ於テモ幼少者ノ使用ヲ制限(プレヴエンション、オブ、クルーエルチー、ツー、チルドレン、アクト)シ。又幼者虐待防止法(一九四年發布一九〇四年改正)ハ街路、酒保、劇場等ニ於ケル幼少者ノ使用ヲ制限セリ

獨逸

(甲)營業條例第百十九條乙ハ一定ノ工業主ノ爲ニ其ノ工場ノ外ニ於テ其ノ製造ニ從事スル者ハ其ノ工場ノ職工ト看做シ、第百十四條甲乃至第百十九條甲ノ規定ヲ適用スルカ故ニ、家內工場ニ付テハ英國ト同シク之ニ仕事ヲ供給スル工業主モ亦取締ヲ受クルモノニシテ、之ヲ略述スレハ左ノ如シ

(一)工業主ハ聯邦參議院ノ規則ニ從ヒ賃金證又ハ就業證ヲ作製スルコトヲ要ス（營業條例第百十五條甲）

(二)物給賃金ノ禁止其ノ他賃金支拂ニ關スル制限（營業條例第百十五條甲乃至第百十九條甲）

(三)家內工業ノ工業主（Hausgewerbetreibende）ハ營業條例第八十七條及第百條己ニ依リテ同業組合（インヌング）ニ加入スル權利ヲ有シ且義務ヲ負フ

(乙)幼者ノ就業ニ付テハ一九〇三年幼者保護法ヲ以テ營業條例ノ規定ニ依リテ、保護ヲ受ケサル幼者ニ對シ就業禁止ノ規定ヲ設ケタリ、此ノ法律ニ依リ工業主カ幼年工ノ使用ヲ禁止セラルルコト左ノ如シ。

(一)他人ノ幼者ノ就業禁止

(イ)左ニ揭クル作業場（ウエルクスタット）ノ事業主ハ十三歲未滿ノ幼者ヲ其ノ業務ニ使用スルコトヲ得ス（幼者保護法第四條）

石盤、石筆等ヲ製造スル作業場但單ニ石筆ノ着色、糊着、包裝又ハ石盤ノ着色、劃線、緣付ヲ爲ス作業場ハ之ヲ除ク

石工ノ作業場

石ノ鑛孔、琢磨ヲ爲ス作業場

石灰燒ノ作業場、石膏燒ノ作業場

陶匠ノ作業場

硝子吹手、硝子腐蝕、硝子磨、硝子光澤消ノ作業場但シ硝子吹手ノ作業場ニシテ小仕掛ノモノハ之ヲ除ク

鏡ノ水銀塗布業

金、銀、「ニッケル」等ノ電氣鍍金ヲ爲ス作業場

鉛又ハ錫製ノ玩具ヲ彩色スル作業場

鉛、亞鉛、錫、銅、眞鍮、其ノ他ノ金屬ノ鑄造作業場

帶製造ヲ爲ス作業場

鉛、銅、錫又ハ其ノ合金ヲ加工シ又ハ之ヲ以テ他ノ物品ヲ製造スル作業場、但自己ノ幼者ノミヲ使用シ且時計組立ノミヲ爲ス作業場ハ此ノ限ニ在ラス

鑢工業

甲冑製造業及鑞接ヲ爲ス作業場

水銀ヲ使用スル作業場
爆發物、煙火、燐寸、其ノ他ノ引火性物品ヲ製造スル作業場
剝皮事業
化學的方法ニ依リテ繊物等ヲ漂泊スル作業場
染物業
襤褸仕分業
「ゴム」製品、彈力「ゴム」製品ヲ製造スル作業場
塡充（クイゼン）物ヲ用キタル物ヲ製造スル作業場
眞珠貝加工業
屠肉業
兎毛切斷業
寢臺羽毛精製所
化學的洗濯所
「ペンキ」塗作業場

（ロ）前條ニ依リ幼者ノ使用ヲ禁止セラレサル作業場ノ事業主ハ十二歳未滿ノ幼者ヲ使用スルコトヲ得ス（同法第五條）

（二）自己ノ幼者ノ使用禁止

（イ）前記ニ依リ他人ノ幼者ヲ使用スルコトヲ得サル業務及動力ニ依リテ運轉スル機械ヲ繼續シテ使用スル作業場ニハ自己ノ幼者ヲ使用スルコトヲ得ス（同法第十二條）

（ロ）前條ニ依リ幼者ノ使用ヲ禁止セラレサル作業場ノ業務ニハ十歳未滿ノ者ヲ使用スルコトヲ得ス（同法第十條）

尙獨逸ニ於テハ一九一一年家内工業法（ハウスアルバイトゲゼツツ）ヲ發布シ、家族ノミカ營業トシテ勞働ニ從事スル作業場及（ウエルクスタット）一人若ハ數人カ事業主ノ指揮監督ヲ受クルコトナクシテ勞働ヲ爲ス作業場ニ之ヲ適用スルコトトシ、此ノ種ノ工場ノ取締規定ヲ新設シタリ。

我國ニ於テハ未タ家内工場ニ對シテハ特殊ノ規定ヲ設ケスト雖、早晩家内工場竝貸工場等ニ對スル特別ノ取締法ヲ制定スルノ必要アルニ至ルヘシ。

第四節　就業制限

第一項　保護職工ノ範圍

一概論　工場法ハ職工ノ就業ニ制限ヲ加ヘ其ノ生命健康ノ保全ヲ圖ルモ、此ノ制限ハ職工ノ全部ニ及フモノニ非ス、其ノ範圍ハ(一)年齡(二)男女(三)健康狀態ニ依リテ定マル。卽チ(一)年齡小ナルモノハ心身ノ發育未タ完カラス罹災ノ虞多キノミナラス、斯ノ如キ發育ノ途中ニ於テ受ケタル健康上ノ傷害ハ峻烈且ツ永續的ニシテ或ハ癈疾ト爲リ早世ニ終ルヲ免レサルモアリ。之ヲ樹木ニ譬フレハ嫩芽漸ク發シテ支幹未タ強靱ナラサルニ强風猛雨ニ暴露セラルルヤ、損傷拗曲到底優良ナル用材ト爲ルコトヲ得サルモノ多ク、或ハ遂ニ挫折枯死スルニ至ルモノアルカ如シ、是諸國ノ工場法カ孰レモ幼少者ヲ以テ保護職工ト爲ス所以ナリ。又(二)男女別ニ付之ヲ攻フルニ男子ハ女子ヨリモ筋骨遒シク辛苦ニ堪ヘ勞働ニ適スルノ體格ヲ有スルモ、女子ハ男子ニ比シテ其ノ體格劣小ニ智能亦男子ニ如カス、且女子特有

ノ健康上ノ特徵ヲ有シ罹病罹災ノ虞多キコト男子ノ比ニ非ス、而シテ他日ノ國民ハ皆現在ノ女子ヨリ產ルルモノナレハ特ニ之ヲ保護スルノ要アルナリ。女子ノ生命健康ヲ保護スルハ卽チ次ノ年代ニ於ケル國民ヲ保護スル所以ニ外ナラス、特ニ社會ノ第三階級ニ於ケル國民ハ健康卽チ資本ナルヲ以テ、此ノ種ノ階級ノ母タル者ハ之ヲ第一、第二階級ノ者ニ比シテ一層衞生上ノ保護ヲ必要トスル理由ナキニ非ス。是諸國ノ立法何レモ幼少年者ノ次ニ女子ヲ保護スル所以ナリ。其ノ他(三)一定ノ疾患ニ罹リタルモノニ對シ就業ヲ制限スルハ本人ヲ保護スルト共ニ、又其ノ疾患ノ傳播ヲ妨止スル上ニ於テ社會ヲ保護スルモノナルヲ以テ是亦當然就業制限ノ範圍ニ入ルヘキモノトス。

工場法制定ノ沿革上前述ノ主義ニ基キ保護職工ノ範圍ヲ定ムヘキハ當初ヨリ一定セルモ、年齡ノ程度ヲ何レニ採ルヘキヤニ付テハ始終論議ヲ重ネタリ。最後ノ公表案ニ依レハ女工ハ其ノ年齡ノ如何ヲ問ハス總テ之ヲ保護職工トシ、男工ハ十二歲未滿ノ者ニ對シ工場勞働ヲ禁止シ、十二歲以上十六歲未滿ノ者ヲ保護職工トセリ。此ノ標準モ我工場法制定ノ經過ニ於テ多少ノ動搖ヲ免レサリキ、卽チ明

治二十年案ニ於テハ男女ノ職工ヲ十歳以上十四歳未滿、十四歳以上十七歳未滿及丁年職工ノ三階級ニ區別シ、十歳未滿ヲ以テ禁止年齢トシ、丁年未滿ノ者ノ就業ヲ制限シ、女工ニ付テハ十四歳未滿ノ者ト同シク徹夜業ヲ禁止シタル外其ノ他ノ點ニ付テハ格別ノ保護ヲ與ヘサルコトトシタリ。而シテ三十一年案ハ大體ニ於テ此ノ主義ニ依リ、三十五年案ニ於テ始メテ、女工ハ其ノ年齢ノ如何ヲ問ハス總テノ點ニ於テ幼少年男工ト同一視スルノ主義ヲ採リタルモ、徹夜業ニ關スル制限ハ三十一年以降ノ案ハ之ヲ撤廢セリ。其ノ他健康狀態ノ如何ニ依リテ保護ノ制ヲ啓キタルハ四十二年案ニ於テ始メテ之ヲ見ル。

二年齢　法第二條ハ原則トシテ十二歳未滿ノ者ヲ工場內ニ使用スルコトヲ禁止ス。之ヲ立法ノ沿革ニ徵スルニ禁止年齢ヲ十二歳ト爲スコトハ當業者ノ側ヨリ格別ノ反對ナカリシモ、社會政策學會、五六ノ商業會議所及教育者ノ多數ハ十三歳ト爲スヘキ意見ヲ發表セリ。其ノ理由ハ現行小學校令ニ依レハ十二歳ニシテ小學校ヲ卒フル者ハ殆ントナク、十二歳乃至十四歳ノ者多數ヲ占ム。故ニ工場法ハ宜シク小學校令ノ精神ヲ參酌シ十三歳未滿ヲ以テ禁止年齢ト爲スヘシト謂フニ在リ。此ハ最モ穩健ナル意見ニシテ理論上異議ヲ挾ムノ餘地ナシト雖、我國ノ工業家ハ從來職工雇入ニ關シ何等ノ制限ヲ受ケサリシヲ以テ、十二歳未滿ノ職工ヲ傭使スル者少カラス。而シテ其ノ之ヲ傭使スル工業ノ種類ハ通常營業上ノ競爭甚タシク寧ロ利得少キ部類ニ屬スルヲ以テ一朝ニシテ之ヲ全禁センカ、業務上ノ影響大ナルヘキヲ顧慮シタルト、又職工ノ側ニ在リテモ父母又ハ兄姉タル者ハ幼少者ヲ伴フニ非サレハ工場ニ通勤スルヲ得サルカ如キ家庭ノ事情アル者尠カラサルヲ想ヒ、暫ク此ノ寛大ナル規定ヲ以テ忍ンテ過渡ノ時代ヲ經過セント期シタルモノナリ、當時(四十二年末調)十人以上ノ工場ニ於ケル職工數及年齢ヲ左ニ掲ク。

工場數	直接作業ニ從事スル者 二十歳以上 男	二十歳以上 女	十六歳以上二十歳未滿 男	十六歳以上二十歳未滿 女	十四歳以上十六歳未滿 男	十四歳以上十六歳未滿 女	十二歳以上十四歳未滿 男	十二歳以上十四歳未滿 女	十二歳未滿 男	十二歳未滿 女	計 男	計 女	計
一五、四二六	一八〇、七三〇	一八八、八二六	三八、三〇〇	一五七、五四〇	一五、一四五	七二、七二七	六、三三八	三〇、一〇一	九八二	四、五〇三	二四一、四八四	四五二、六八七	六九四、一七一
百分率	二六、〇三	二七、二〇	五、五二	二二、六九	二、一八	一〇、四七	〇、九一	四、三四	〇、一四	〇、六五	三四、七九	六五、二一	一〇〇、〇〇

尚當時(十人以上ノ工場四十二年末調)十二歳前後ヲ多數ニ使用スル工場及職工數ノ調査ヲ見ルニ左

ノ如キモノアリ。

業別	職工總數	十二歳未滿總數ニ對スル百分率	十二歳以上十四歳未滿(同上)	十四歳未滿通計(同上)
機械	一六、七四九	一、〇八二（六、五）	一、九一七）二一、四）	二、九九九（一七、八）
硝子	六、六三五	二二〇（三、三）	八五五（一二、九）	一、〇七五（一六、二）
製糸	一八四、三九七	三一五（一、七）	八、八七六（四、八）	九、一九一（六、五）
紡績	一〇二、九八六	一、六六五（一、六）	八、一三八（七、九）	九、八〇三（九、五）
織物	一二七、四四一	八九〇（〇、七）	七、八四五（六、二）	八、七三五（六、九）
印刷製本	一八、五〇六	一〇〇（〇、五）	一、二七七（六、九）	一、五七七（七、四）
計	四五六、七一四	四、二七二（一四、三）	二八、九〇八（五〇、一）	三三、一八〇（六四、四）

（備考）十二歳トアルヲ十三歳ト修正スルト假定シ十二歳未滿ノ人員ヲ對比スレハ左ノ如シ

十二歳未滿	四、二七二
十三歳未滿	一五、八三五

十三歳未滿ノ職工數ハ十二歳以上十四歳未滿ノ職工人員ノ四割ニ十二歳未滿ノ者ヲ加ヘテ算出セリ

歐米各國ノ工場法ニ於テモ職工ノ最低年齡ヲ定メ、此ノ年齡以下ノ者ニ對シテハ工場勞働ヲ禁止スルヲ常トス。是國民敎育及國民衞生上ノ必要ニ基クモノニ外ナラス、彼ノ義務敎育制度ヲ採用セル諸國ニ於テ學齡ノ最終年齡ヲ以テ職工ノ最低年齡ト爲セルカ如キハ、國民敎育普及ノ目的ヲ達スル爲當然ノ措置ナリト謂フヘシ。又幼者ハ衞生上最モ細心ノ注意ヲ要スル者ニシテ、未タ十分發育セサル時ニ於テ工場生活ヲ爲サシメンカ、其ノ勞働條件ハ寬大ナリトスルモ到底健全ナル發達ヲ爲スコト能ハサルヘシ。而シテ斯ル兒童ニシテ益〻其ノ數ヲ增加センカ將來ニ於ケル勞力ノ供給ヲ減少シ、國民ノ生產力ヲ減殺スルノミナラス、延イテ國民全體ノ健康ヲ害スルニ至リ、遂ニ國家ノ存在ヲ殆フスルニ至ル虞アルヘシ。現ニ諸國ニ於ケル工場法制定ノ由來ヲ見ルニ、之カ制定ニ關スル强力ナル主張者ノ一部ハ、陸海軍當局ニ在ルノ事實ヲ以テスルモ其ノ一斑ヲ知ルニ足ルヘシ。試ニ各國工場法ニ就キ職工ノ最低年齡ヲ抄錄スレハ左ノ如シ。

英吉利	十二歳
獨逸	十三歳
佛蘭西	十三歳
和蘭	十二歳
白耳義	十二歳
瑞西	十四歳

墺太利	十四歲
一工場勞働者	十二歲
一一般ノ工業勞働者	十二歲
匈牙利	十　歲
西班牙	十二歲
瑞典	十二歲
諾威	十二歲
露西亞	十二歲
丁抹	十二歲
伊太利	十二歲
新西蘭	十四歲
印度	九　歲
北米合衆國紐育州	十四歲

北米合衆國ハ各州ニ依リテ法律ヲ異ニスルモ、大多數ハ最低年齡ヲ十四歲ト定メタリ。

本邦工場法ニ於テハ前述ノ理由ニ基キ最低年齡ヲ十二歲未滿ト規定セリ。然ルニ十三歲論者中往々十二歲主義ハ小學校令ノ規定ト抵觸スル立法ナリト非難スル者アルモ、法ハ十二歲以上ノ者ニ對シ工場勞働ヲ禁止セサルニ止マリ、小學校令第三十五條ニハ「尋常小學校ノ敎科ヲ修了セサル學齡兒童ヲ雇傭スル者ハ其ノ雇傭ニ依リ兒童ノ就學ヲ妨クルコトヲ得ス」ト規定シ、且令第二十六條ニ於テ「尋常小學校ノ敎科ヲ修了セサル學齡兒童ヲ雇傭スル場合ニ於テハ工業主ハ就學ニ關シ必要ナル事項ヲ定メ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ」ト規定セルヲ以テ、工場勞働ノ自由ヲ認メタルノ一事ハ必シモ學齡兒童ノ就學ヲ阻止スルモノニ非サルナリ。

現行工場法ハ十二歲ヨリ十五歲ニ至ル迄ノ年齡ヲ以テ保護年齡トセリ。明治四十三年十月本法案ニ付、生產調査會ニ諮問シタルトキ男工保護年齡ノ最高限ヲ十六歲トセリ。此ノ點ニ關シテハ極メテ少數ヲ除ク外異見ヲ發表シタルモノナシ。是レ當ニ然ルヘキ所ニシテ本來本邦幼少者ノ身體發育ノ狀態ヲ見ルニ、男女共ニ滿十二歲ニシテ漸ク其ノ體重ハ成年者ノ約半即チ七貫二百匁內外（身長四尺二寸四五分）ニ達シ、之ヨリ十六歲ニ至ル間ニ於テ急速ノ發育ヲ爲シ、體重何レモ十一貫餘（身長男子八尺四分女子八尺四寸四分）ニ發シ爾後發育稍緩徐トナリテ十八歲ニ至リ男子ハ十三貫五百十匁

女子ハ十二貫四百九十匁（身長五尺九寸）ヲ算シ、成年者體重男十四貫二百九十匁、（身長五尺二寸五分）女十二貫九百目、身長男五尺三寸、女四尺九寸一分ト大差ナキニ至ル。故ニ叙上ノ發育狀態ニ照セハ職工保護ノ年齡界限ヲ十八歲以上ト爲スヲ至當ト認ムルモ、工業ノ現況ニ鑑ミ之ニ亞ク程度ノ十六歲ヲ以テ界限ト定メタルモノナリ。

右ニ付テハ左表ヲ一覽セハ尚之ヲ明ニスルヲ得ヘシ。

學生、生徒及兒童、身長、重體、胸圍表（自明治三十三年至大正三年十五箇年間平均）（文部省調査）

年齡	身長 男（尺）	身長 女（尺）	身長 男女ノ差（分）	身長 一歲間ノ差 男（分）	身長 一歲間ノ差 女（分）	體重 男（貫）	體重 女（貫）	體重 男女ノ差（匁）	體重 一歲間ノ差 男（匁）	體重 一歲間ノ差 女（匁）	胸圍（常時） 男（尺）	胸圍（常時） 女（尺）	胸圍 男女ノ差（分）	胸圍 一歲間ノ差 男（分）	胸圍 一歲間ノ差 女（分）	身長ヲ以テ體量ヲ除シタル商 男	身長ヲ以テ體量ヲ除シタル商 女	身長二分ノ一ト胸圍トノ差 男（分）	身長二分ノ一ト胸圍トノ差 女（分）	檢查人員累計 男	檢查人員累計 女
七歲	三、五三	三、四八	四	一五	一五	四、六六〇	四、五〇〇	一六〇	四七〇	四一〇	一、七八	一、七三	五	七	五	一、三二	一、二九	二	(－)一	一、二三四、四四〇	一、一三二、二六二
八歲	三、六七	三、六三	四	一五	一四	五、一三〇	四、九一〇	二二〇	四七〇	四七〇	一、八五	一、七八	七	六	六	一、四〇	一、三五	一	(－)四	一、三三二、三三八	一、二〇五、六六二
九歲	三、八二	三、七七	五	一五	一五	五、六〇〇	五、三八〇	二二〇	五〇〇	五一〇	一、九一	一、八四	七	六	六	一、四七	一、四三	〇	(－)五	一、二九二、〇二九	一、一五五、四六三
十歲	三、九七	三、九三	五	一五	一六	六、一〇〇	五、八九〇	二一〇	五四〇	五九〇	一、九七	一、九〇	七	六	五	一、五四	一、五〇	(－)二	(－)六	一、二六七、五三八	一、〇八九、〇九七
十一歲	四、一三	四、〇八	四	一三	一六	六、六四〇	六、四八〇	一六〇	五九〇	七〇〇	二、〇三	一、九五	八	六	七	一、六二	一、五九	(－)三	(－)九	一、二二六、九六五	九一七、七四八
十二歲	四、二五	四、二四	一	一六	一三	七、二三〇	七、一八〇	五〇	七四〇	一、〇一〇	二、〇九	二、〇三	七	六	一〇	一、七〇	一、六九	(－)四	(－)一〇	一、〇九八、五七三	七五九、四〇四
十三歲	四、四二	四、四六	(女)五	一九	一四	七、九七〇	八、一九〇	(女)二二〇	九九〇	一、〇四〇	二、一五	二、一三	三	九	九	一、八二	一、八四	(－)六	(－)一二	九四〇、五五七	五三〇、四四四
十四歲	四、六〇	四、六〇	〇	二三	一四	八、九六〇	九、二三〇	(女)二七〇	一、三六〇	一、一三〇	二、二四	二、二一	三	一一	一一	一、九五	二、〇一	(－)六	(－)七	七九七、七七五	三八一、七六四
十五歲	四、八三	四、七四	九	二一	一〇	一〇、三二〇	一〇、三六〇	(女)四〇	一、五三〇	一、〇一〇	二、三五	二、三三	三	一〇	一〇	二、一四	二、一九	(－)七	(－)五	四九四、六六九	一八五、二八三
十六歲	五、〇四	四、八四	二〇	一四	四	一一、八五〇	一一、三七〇	四八〇	九八〇	六五〇	二、四六	二、四二	四	九	七	二、三五	二、三五	(－)六	〇	三八九、〇六三	一三一、四一五
十七歲	五、一八	四、八八	三〇	七	二	一二、八三〇	一二、〇二〇	八一〇	六八〇	四七〇	二、五五	二、四九	六	六	五	二、四八	二、四六	(－)四	五	三三一、一九七	八一、五六八
十八歲	五、二五	四、九〇	三五	四	〇	一三、五一〇	一二、四九〇	一、〇二〇	四九〇	二七〇	二、六一	二、五四	七	五	三	二、五七	二、五五	(－)二	九	二五四、九四三	四三、八〇〇
十九歲	五、二九	四、九〇	三九	一	一	一四、〇〇〇	一二、七六〇	一、二四〇	二九〇	一四〇	二、六六	二、五八	九	三	一	二、六五	二、六〇	一	一三	一七五、一四七	二〇、七九六
二十歲	五、三〇	四、九一	三九	一	一	一四、二九〇	一二、九〇〇	一、三九〇	一五〇	〇	二、六九	二、五八	一一	一	(－)二	二、七〇	二、六四	四	一三	一三三、八二四	八、九八三
廿一歲	五、三二	四、九二	三九	〇	一	一四、四四〇	一二、九〇〇	一、五四〇	(－)一〇	(－)四〇	二、七〇	二、五六	一四	〇	〇	二、七三	二、六三	四	一〇	九二、三一三	三、七〇〇
廿二歲	五、三二	四、九三	三八	一	〇	一四、四三〇	一二、八六〇	一、五七〇	(－)一〇	(－)六〇	二、七〇	二、五六	一四	〇	(－)一	二、七三	二、六一	四	九	六八、〇三四	二、〇九三
廿三歲	五、三五	四、九四	三九	〇	(－)一	一四、四二〇	一二、八〇〇	一、六二〇	(－)七〇	(－)一二〇	二、七〇	二、五五	一五	(－)一	〇	二、七一	二、六〇	四	八	四六、八五八	一、〇四八
廿四歲	五、三三	四、九三	四〇	〇	〇	一四、三五〇	一二、六八〇	一、六七〇	(－)五〇	〇	二、六九	二、五五	一四	〇	(－)三	二、七〇	二、五八	三	九	三二、二〇一	五五六
廿五歲	五、三三	四、九三	四〇	—	—	一四、三〇〇	一二、六八〇	一、六二〇	—	—	二、六九	二、五二	一七	—	—	二、六九	二、五八	二	六	二三、六四四	一八三

本表ニ於テ七歲ト稱スルハ六年一日以上滿七年マテヲ指スモノトス以下各年齡之ニ準ス○「男女ノ差」ノ欄(女)印ハ女子カ男子ニ優レルヲ示シ、符號ナキハ男子カ女子ニ優レルモノナリ○「一歲間ノ差」ノ欄ニ記入シタルハ當該年齡ノ者ト一歲年長者トノ間ニ於ケル比較差ニシテ(－)印ハ卽チ一年間ノ減少量ヲ示シ符合ナキハ增加スルモノナリ○「身長二分ノ一ト胸圍トノ差」ノ欄(－)印ハ身長二分ノ一ヨリ胸圍ノ小ナルモノヲ示シ符合ナキハ胸圍ノ大ナルモノナリ○二十六歲以上ハ檢查人員少ナキヲ以テ之ヲ省ク

尚又精神機能ノ發達モ身體ノ發育ニ竝行スルモノニシテ、十六歲未滿ノ者ニ在リテハ未タ自衞ノ概念完カラス、故ニ危險物又ハ有害料品ノ取扱等ニ付テモ亦之ヲ保護スル必要アル所以ナリ。

四十三年案カ十六歳ヲ以テ最高限ト爲シタル理由以上述フルカ如シ。然ルニ生產調査會ニ於テハ、之ヲ十五歳ニ修正スヘキモノナリトノ意見ヲ答申セリ。其ノ理由トスル所ハ我國ニ於テ滿十五歳ト云ヘハ卽チ「數ヘ年」ニテ十七歳ニ達スル者尠カラス、男子十七歳ニ達スレハ古來ノ慣習ニ依リ所謂一人前ト見ルヘキモノナレハ、必シモ之ヲ十二歳近クノ者ト同一視スル必要ナシト謂フニ在リタリ。惟フニ幼少年職工保護ノ程度ヲ二ニ區別シ、幼年工及少年者ノ別ヲ設ケサル以上ハ此ノ意見モ亦一應ノ理由アルノミナラス、當時ノ統計ニ依レハ十五歳以上十六歳未滿ノ男工ノ數ハ約七八千人ニ過キス。而シテ男工ノ筋力又ハ技能ヲ要スル工業ニ在リテハ、法律ノ制限ヲ俟タスシテ從來十六歳以上又ハ十七歳以上ヲ最低年齡ト定ムルヲ例トセルヲ以テ、此ノ修正ヲ採用スルモ實際上ニ於テハ大ナル影響ヲ生スヘキモノニ非ストシ、議會提出ノ際ニハ此ノ趣旨ヲ以テ修正シ議會亦之ニ對シテ何等論議スル所ナカリシナリ。

各國ノ立法例ヲ按スルニ保護ノ程度ニ依リテ職工ヲ數種ニ分類セリ。而シテ其ノ分類方法ニ大凡三種アリ。

第一　一八九〇年ノ伯林國際會議ノ決議ニ基ケル分類方法ニシテ同決議ハ十二歳ヲ以テ最低年齡ト爲シ職工ヲ五種ニ分類セリ。卽チ

(一)十二歳以上十四歳未滿ノ幼年工　之ニ對シテハ一日六時間以上ノ勞働ヲ禁シ、又半時間ノ休憩時間ヲ與ヘ徹夜業日曜勞働ヲ禁シ且不健康ニシテ危險ナル業務ニ從事セシムルコトヲ得ストセリ

(二)十四歳以上十六歳未滿ノ少年工　之ニ對シテハ一日十時間ヲ最高限トシ一時間半ノ休憩時間ヲ與ヘ、徹夜業日曜勞働ヲ禁シ又不健康ニシテ危險ナル業務ニ從事スルコトヲ禁セリ

(三)十六歳以上十八歳未滿ノ少年工　之ニ對シテハ不健康ニシテ危險ナル業務ニ從事スル場合ニハ特別ナル保護規定ヲ設クヘシトセリ

(四)十六歳以上ノ女工　之ニ對シテハ一日十一時間ヲ最高限トシ一時間半ノ休憩時間ヲ與ヘ、徹夜業、日曜勞働ヲ禁シ不健康ニシテ危險ナル業務ニ從事スルコトヲ禁シ又分娩後四週間ハ絕對ニ勞働セシムルコトヲ禁セリ

(五)成年男工　之ニ對シテハ特別保護ノ制ナシ

第二　職工ヲ幼年工、少年工、成年女工及成年男工ノ四種ニ分類スルモノ。

第三　職工ヲ分チテ幼少年工、成年女工及成年男工ノ三種ト爲スモノナリ。多クノ場合ニ於テ幼少年者ニ付テハ男女ヲ區別セスシテ同一保護ヲ加フルモ一定ノ年齢以上ノ者ニハ男女ヲ區別シテ保護ノ程度ヲ異ニセリ。

本邦工場法ハ第三種ノ分類法ヲ採リ、幼年工ト少年工トノ間ニ全ク區別ヲ設ケス之ヲ幼少年工ト爲シ、成年職工ヲ分チテ成年女工、成年男工ト爲シ、成年女工ニハ幼少年工ト仝一保護ヲ與フルコトト爲セルナリ。

第二種ノ分類方法ヲ採用セル國ハ左ノ如シ。

	幼年工	少年工	成年女工	成年男工
英吉利	自十二歳 至十四歳	自十四歳 至十八歳	十八歳以上	十八歳以上
佛蘭西	自十三歳 至十六歳	自十六歳 至十八歳	十八歳以上	十八歳以上
伊太利	自十二歳 至十五歳	女 自十五歳 至二十一歳	二十一歳以上	十五歳以上
丁抹	自十二歳 至十四歳	自十四歳 至十八歳	十八歳以上	十八歳以上
瑞典	自十二歳 至十四歳	自十四歳 至十八歳	十八歳以上	十八歳以上
諾威	自十二歳 至十四歳	自十四歳 至十八歳	十八歳以上	十八歳以上
露西亞	自十二歳 至十五歳	自十五歳 至十七歳	十七歳以上	十七歳以上
西班牙	(男)自十歳至十三歳 (女)自十歳至十四歳	自十三歳至十五歳 自十四歳至十七歳	十七歳以上	十五歳以上
匈牙利	自十二歳 至十四歳	自十四歳 至十六歳	十六歳以上	十六歳以上
獨逸	自十三歳 至十四歳	自十四歳 至十六歳	十六歳以上	十六歳以上
瑞西	自十四歳 至十六歳	自十六歳 至十八歳	十八歳以上	十八歳以上

第三種ノ分類方法ヲ採用セルハ左ノ諸國ナリ。

	幼少年工	成年女工	成年男工
和蘭	自十二歳 至十六歳	十六歳以上	十六歳以上
白耳義	男自十二歳至十六歳 女自十二歳至廿一歳	廿一歳以上	十六歳以上
墺太利	第一種工業 自十二歳至十四歳	十四歳以上	十四歳以上
日本	第二種工業 自十四歳至十六歳	十六歳以上	十六歳以上
	十二歳以上 十五歳未滿	十五歳以上	十五歳以上

三性　男工ハ十五歳未滿ノ者ヲ保護スルモ、女子ニ付テハ十五歳未滿ノ者ハ勿論、年齢ノ如何ヲ問ハス總テ之ヲ幼少年ノ男工ニ準シテ之ヲ保護ス（法第三條、第四條、第七條、第九條、第十條第十一條）此ノ主義ニ關シテハ少數者ノ異論ナキニ非ス、其ノ要旨ハ田舍ニ於ケル日

本ノ女子ハ都會ニ於ケル男子ニ比シテ纖弱ナリト謂フヲ得サルノミナラス、勞働ニ對スル忍耐力ノ如キモ遙カニ男子ヲ凌クニ足ル者アルハ往々ニシテ見聞スル所ナリ、故ニ女子ノ保護年齡ハ之ヲ二十歳未滿トスルヲ以テ至當トスト謂フニ在リ。此ノ說ハ一應理由アルカ如シト雖、女子ノ體質カ男子ニ比シテ强健ナリト謂フヲ得サルコトハ殆ント說明ヲ俟タサル所ニシテ、抵抗力薄弱ニシテ過勞ノ弊ニ陷ルノミナラス、一般ニ成年男子ノ如ク意思强固ナラス、外圍ノ事情ニ制セラレ、又ハ各種ノ威力ニ動サレ、自衞スルコト能ハサル場合多ク、且女子固有ノ天職ニ基ク生理上ノ變態竝母體ノ健康狀態カ其ノ子孫ニ及ホス影響等ヲ考慮シ、又他方ニ於テ工場ニ通勤スル女工ハ自ラ家政ノ荒廢、幼兒ノ疾病等ヲ顧ル能ハサルニ至リ其ノ弊ヤ遂ニ家族制度ノ動搖ヲ來タスニ至ルヘキヲ憂フルトキハ未來ニ於ケル國民ノ母ニシテ且主婦タルヘキ女子ヲ十五歳未滿ノ男工ニ準ジテ保護スルノ必要ハ自ラ明カナルヘシ。左レハ此ノ點ニ關シテハ格別ノ論議ナクシテ確定ヲ見ルニ至リタリ。之ヲ諸國ノ成例ニ照スモ成年男工ニ付テハ勞働時間ノ制限夜業禁止等ノ特別保護ヲ設ケタルモノハ尠シト雖成年女工(十六歳以上ノ國アリ又十八

歳以上ノ國アリ)ハ少年工(十四歳以上十六歳未滿又ハ十八歳未滿)ト同一ニ看做シ又幼年工ト少年工トニ區別ヲ設ケサル二三ノ國ニ在リテハ之ヲ幼少年工ト同一ニ看做シテ特別保護ヲ與ヘタリ。尤モ匈牙利、西班牙、瑞典、諾威及露西亞等五六ノ國ニ於テハ婦女ノ保護ニ關シ何等特別規定ノ存スルヲ見ス。(第二編第六章參照)

四病者及產婦　健康ナル幼少者及女子ヲ保護スル以上ハ健康不良ナル職工ニ對シテ、或ハ工場勞働ヲ禁止シ、又ハ之ヲ制限スルハ當然ナリ。是工場法第十二條カ「主務大臣ハ病者又ハ產婦ノ就業ニ付制限又ハ禁止ノ規定ヲ設クルコトヲ得」ト定メタル所以ナリ。而シテ病者殊ニ傳染性疾患ノ職工ノ如キハ本人及工場ノ爲ニハ勿論、公衆衞生ノ上ヨリモ之ヲ禁止スル必要アルコトハ言ヲ俟タス。其ノ他傳染性ノ疾患ニ非スト雖、就業ノ爲病症增惡ノ虞アルカ如キモノニ付テハ其ノ就業ヲ制限スルノ要アリ。是レ則第八條ノ規定ノ存スル所以ナリ曰ク。

工業主ハ左ニ揭クル疾病ニ罹レル者ヲシテ就業セシムルコトヲ得ス但シ第四號又ハ第五號ニ揭クル疾病ニ罹レル者ニ付傳染豫防ノ處置ヲ爲シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

一　精神病
二　癩、肺結核、喉頭結核
三　丹毒、再歸熱、麻疹、流行性腦脊髓膜炎
四　黴毒、疥癬其ノ他傳染性皮膚病
五　膿漏性結膜炎（「トラホーム」）著シク傳染ノ虞アルモノ）其ノ他之ニ準スヘキ傳染性眼病

工業主ハ肋膜炎、心臟病、脚氣、關節炎、腱鞘炎、急性泌尿生殖器病其ノ他ノ疾病ニ罹レル者ニシテ就業ノ爲病症增惡ノ虞アル場合ハ之ヲ就業セシムルコトヲ得ス。

工業主ハ傳染病又ハ重大ナル疾病ニ罹レル者ニシテ其ノ症候消失シタル後ト雖健康ノ回復セサル場合ハ之ヲ就業セシムルコトヲ得ス、但シ醫師ノ意見ヲ徵シ支障ナシト認ムル業務ニ就カシムル場合ハ此ノ限ニ在ラス。

本條第一項ニ所謂著シク傳染ノ虞アル「トラホーム」トハ主トシテ急性ノ症狀ヲ有スルモノヲ指スモノナルヘク又第四號ノ疾病ニ付テハ完全ニ繃帶ヲ施シタル場合第五號ノ疾病ニ付テハ醫師ノ治療ヲ受ケ且通常行フ豫防處置ヲ爲シタル等ノ場合ノ如キハ「傳染豫防ノ處置」アルモノト認メ差支ナカルヘシ。第二項ニ揭ク肋膜炎以下ノ疾病ハ所謂職業病（オキユペーシヨナル、デゼーズ）ヲ主トシ多クハ慢性ノ疾患ニシテ、第三項ニ揭クルモノハ法定傳染病其ノ他生命ニ重大ナル危險アル急性ノ疾病ニ罹リ其ノ恢復期ニ在ルモノナリ。

我工場法規ハ以上ノ如ク病者ノ就業ヲ制限シタルカ、之ニ關スル外國ノ立法例ハ甚タ區々ニシテ、英國ノ如キハ十六歲未滿ノ職工ヲ使用スルモノハ、凡テ工場醫ノ健康診斷書ヲ受クルコトヲ要スト爲シ、獨逸ニ於テハ營業條例中ニハ病者ノ使用禁止ニ關スル規定ヲ設ケス、單行法ニ依リ公衆衞生上危險ナル疾病ノ豫防ニ關スル事項ヲ規定セリ。蓋病者ノ使用ニ付相當ノ制限ヲ設クルコトハ、一般衞生上竝工場ノ衞生及災害豫防ノ見地ヨリシテ、之ヲ等閑ニ付スル能ハサル所ニシテ、殊ニ我國ニ於ケルカ如ク國民ノ衞生狀態不良ニシテ、工場勞働者ニ於テ特ニ劣惡ナル現狀ニ鑑ミ、我工場法規カ斯ノ如キ規定ヲ設ケタルハ最モ事宜ニ適シタルモノト謂ハサルヘカラス、而シテ前記就業禁止病類中ニ於テ其取捨ニ付キ最モ論議ノ存シタルモノハ肺結核及「トラホーム」ナリ。

(一)肺結核ヲ禁止病類中ニ加フルニ付テハ當局者ノ最モ苦慮シタル所ナリト云フ。蓋職工中現ニ結核ニ罹レル者相當ノ比率ニ達セルヲ以テ一旦之カ就業ヲ禁止センカ、一時ニ多數ノ失職者ヲ生スルノ虞アリ、又若就業ヲ禁止セサランカ「工業病ハ即肺結核ナリ」ト云フカ如キ我國ノ現狀ハ永久ニ之ヲ改善匡救スルノ途ナカルヘク、工場ニ結核患者ノ收容ヲ許スハ恰カモ火ヲ薪ニ投スルヲ默過スルト選フ所ナキナリ。本件ニ關シ中央衞生會カ當局者ノ諮問ニ對シ熱心ナル贊意ヲ表シタルモ亦當ニ然ルヘキ所ナリ。然レトモ斯ノ如キ社會的改善ハ一ノ工場法ノミヲ以テ之ヲ能クスヘキニ非ス、工場ヨリ出テタル結核患者ハ或ハ職ヲ他ニ求メ或ハ工場法ノ適用ナキ小工場ニ入リ或ハ他ニ職ヲ求ムル能ハスシテ徒ラニ工場法ノ無慈悲ヲ恨ミツツ窮民ノ群ニ投スルモ有ルヘク、斯ノ如キハ社會政策上斷シテ之ヲ看過スヘキニ非ス。肺結核療養所ニ關スル現行法律ハ人口三十万以上ヲ有スル大都市ニ對シテハ肺結核療養所ノ設置ヲ強要シ、其ノ他公私ノ慈惠的療養所ニ對シテハ相當ノ國庫補助金ヲ下附スルコトヲ定ムト雖、六大都市中尚未タ其ノ施療ヲ開始シタルモノ無ク僅カニ數箇ノ私設療養所ヲ存スルニ過キス（大正六年五月現在）左レハ今後現行法律ニ甚ク施設ノ完成ヲ期スルト共ニ尚其ノ範圍ヲ擴張シテ結核患者ノ救護療養ヲ期スルハ目下ノ急務タルヘシ。

(二)「トラホーム」ノ最モ恐ルヘキ眼疾ナルコトハ言ヲ俟タス、然ルニ不幸我國ニ於テ其ノ病勢ノ旺盛ナル甚タ憂フヘキモノアリ。而シテ該患者ノ最モ多數ナルハ工場タルヲ免レス、粉塵纖芥中ニ於テ勞働ニ從事スルモノニ於テ殊ニ然リトス、甚キニ至リテハ工場ノ職工中半數以上之ニ罹サルルモノアリト謂フ。然レトモ工場法規ヲ以テ一切ノ「トラホーム」患者ノ使用ヲ禁止スルトキハ一時ニ多數ノ失業者ヲ生シ、爲メニ由々敷社會問題ヲ惹起スルノ虞アルカ故ニ「トラホーム」ニ付テハ著シク傳染ノ虞アルモノニ限リ其ノ就業ヲ禁止スルコトトシ、此ノ場合ト雖、適當ナル傳染豫防ノ處置ヲ施シアル者ニ付テハ忍ンテ其ノ職業ヲ許スコトトシ、以テ經濟上ノ激動ヲ避ケタリ。然レトモ漸次ニ如上ノ程度ノモノヲモ禁止スルノ方針ヲ確立スヘキモノナルヤ論ナキ所ナリ。中央衞生會ニ於テモ此ノ點ニ付テハ相當論議ノ存シタル所ナルカ、我國工場ノ現狀ニ鑑ミ已ムヲ得サルモノトシテ暫ク現行制度ヲ容認スルコトト爲リタルモノナリト云フ。

之ヲ要スルニ他ノ疾患ハ暫ク之ヲ措クモ肺結核及「トラホーム」ノ如キハ一種ノ貧民病トモ稱スヘキモノニシテ、工場法ハ其ノ害毒ヲ社會ノ生產階級ニ屬スル職工ノ社會ヨリ一掃スルコトヲ目的トスルモノナリ、故ニ一面ニ於テハ其ノ失職ヲ憫ミツツモ尙之ニ對シテ就業ノ制限ヲ加フルノ止ムヲ得サルモノアリ。左レハ工業主タル者豫メ此等恐ルヘキ疾患者ノ工場ニ入ラサル樣十分ノ注意ヲ怠ラサルト共ニ、後ニ「工場ノ設備」ノ部ニ於テ詳論スヘキ此種ノ衞生設備ヲ完全ニシ、以テ自他ノ利益ヲ增進シ併セテ人道ノ爲盡スコトヲ期セサルヘカラス。

著者曾テ工場ヲ巡視シテ某纖維工場ノ病室ヲ過リ、一患者ノ經過記錄ヲ點檢スルニ中ニ一寄宿女工ノ發熱三十八度以上ニシテ初メテ肺結核トシテ數日前ニ入院シタルヲ見ル、惟テ之ヲ管理者ニ問フ、管理者曰ク寄宿舍ノ監督者モ氣付カス、又本人モ自覺セス、連日身體ノ倦怠ヲ覺ヘ時ニ咳嗽ノ頻發スルノ故ヲ以テ診療ヲ乞ヒタルモノナルカ時機稍後レタルノ感アリ云々。ト著者ハ此ニ於テ工場主タル者ハ、其ノ職工ヲ工場ニ收容スル前十分ノ健康診斷ヲ爲シ、健全體ニ非サレハ苟モ入場ヲ許ササルノ方針ヲ格守スルト共ニ、入場後モ三ケ月又ハ少クモ春秋二期ニハ健康診斷ヲ爲シ、無智ノ職工ノ自覺セサル重患ヲ未發ニ豫防スルノ急務ナルヲ叫スルノ止ムヲ得サルヲ覺ヘタリキ。惟フニ此ノ患者ハ數箇月前ヨリ既ニ肺結核ニ罹リ、其ノ間一床二人ノ寢床ニ於テ幾人ニ對シ其ノ病毒ヲ傳ヘタルヤ知ルヘラス。刀刃ヲ以テスル殺人ハ人之ヲ殘忍ト呼フ、而カモ工場管理者カ當ニ盡スヘキ義務ヲ等閑ニ付シタルカ爲、理義ヲ解セサル幼少年工又ハ女工カ疾病ニ罹リ若ハ死亡スルモノニ對シテハ世人之ヲ顧ル者少キカ如シ。斯ノ如キ社會狀態ノ下ニ工業ノ健全ナル發達ヲ圖ルコト實ニ難シト云フヘシ、余輩ハ此ノ點ニ關シ本邦工業主カ今後大ニ改善ノ實ヲ擧クルニ努力センコトヲ熱望シテ止マサルナリ

產婦ノ攝生ハ最モ注意ヲ要スルモノナルニ拘ラス、往々產後ノ恢復ヲ竢タスシテ工場ニ出勤スル者アルヲ以テ、分娩後一定ノ時期ヲ限リ工場勞働ヲ制限シ、又ハ之ヲ禁止スルハ國民ノ保健政策上最モ必要ノ措置ナリト謂フヘシ。此ヲ以テ施行規則第九條ハ、工業主ハ產後五週日ヲ經過セサル者ヲシテ就業セシムルコトヲ得ス、但シ產後三週日ヲ經過シタル後醫師ノ意見ヲ徵シ支障ナシト認ムル業務ニ就カシムル場合ハ此ノ限ニ在ラス、ト規定シテ產婦ノ就業ヲ禁止シ若ハ之ヲ制限

セリ。産トハ正規分娩ト早産トヲ云フモノニシテ流産ヲ包含セス。而シテ就業禁止ノ期間ニ付テハ各國其ノ制ヲ一ニセス、少ナキハ三週間ニシテ多キハ六週間ニ及ヘリ。（第二編第六章參照）瑞典、諾威ノ如キハ此ノ期間最モ長キノミナラス、尙分娩前二週間ノ工場勞働ヲ禁止セリ、又瑞西ニ於テハ分娩ノ前後ヲ通シテ八週間ノ就業ヲ禁シ分娩後少クトモ六週間ハ工場勞働ニ從事スルコトヲ得ストセリ。一八七六年英國ニ於ケル工場法調査委員會ノ報告ニ依レハ工業都市ニ於テ死亡率ノ非常ニ大ナル原因ニ種々アリト雖、就中最大ナルモノハ女工カ分娩後間モナク工場勞働ニ從事スルカ爲ナリト謂フ。蓋シ之カ爲ニ女工ハ自己ノ健康ヲ害スルノミナラス、幼兒ノ保育ニ關シ十分ノ注意ヲ爲スコト能ハスシテ其ノ死亡ヲ見ルコト多ケレハナリ。左レハ工場法ニ於テ產婦ニ對シ其ノ勞働ヲ禁止シ又ハ之ヲ制限シ得ヘキコトヲ規定セシハ至當ノ事ト云フヘシ。

然レトモ我工場法ニ於ケル此ノ禁止又ハ制限ハ分娩後ニ於テノミ行ハルルモノニシテ、分娩前ノ者ニ及ハス。實ハ此ノ姙婦ニ關スル特別保護ヲ認メサリシコトハ衞生學者其ノ他ヨリ非難ヲ受ケタル所ナルモ、姙婦ハ產婦ニ比シテ工場勞働ノ苦痛ヲ自覺シ易ク從テ自制スル場合多カルヘク、又出產ノ期ヲ定メ難キ場合アルヘキヲ以テ、出產前一定ノ期間ヲ劃シテ禁止又ハ制限ヲ行フコトハ取締上容易ナラサルモノアルカ故ニ此ノ點ハ工場主ノ注意ニ依賴シ、法律ヲ以テ之ヲ禁止セサルコトニ決定シタリ。元來出產ニ關シテハ勞働者ノ家計上特別ノ費用ヲ要スルニモ拘ラス、其ノ前後ニ於テ長ク勞働ヲ禁止又ハ制限スルコトハ著シク勞働者ノ經濟狀態ヲ困難ナラシムルモノニシテ其ノ實行容易ナラサル規定ナリ。故ニ其ノ實行ヲ確實ナラシムル爲ニハ他面ニ於テ之カ救濟ノ方法ヲ講セサルヘカラス。獨逸ニ於テハ分娩ヲ以テ一種ノ疾病ト看做シ、疾病保險ニ依リテ之カ救濟ヲ行ヒ、丁抹工場法ニ於テハ婦女カ分娩後勞働ヲ禁止セラレタル爲窮民救助院ニ入ルモ、之カ爲ニ窮民救助ヲ受ケタル者カ被ルヘキ權利剝奪ノ規定ヲ適用セスト定メタリ。

施行規則第八條及第九條ニ於テ病者竝產婦ノ就業ノ制限又ハ禁止ニ付準則ヲ定メタリト雖、是レ通常ノ場合ヲ基礎トシタル一般的標準ニ過キス。各個ノ場合ニ於テハ職工ノ體格、健康狀態若ハ工場ノ作業狀態ノ如何ニ依リ、既ニ述タル場合

ノ外尚病者又ハ産婦ノ就業ヲ制限若ハ禁止スルヲ必要トスル場合少カラサルヘシ。是則第十條カ地方長官ハ前二條ニ掲クル場合ノ外工業主ニ對シ病者又ハ産婦ノ就業ノ制限又ハ禁止ヲ命スルコトヲ得ト規定シ、以テ病者竝産婦ノ保護ニ遺憾ナキヲ期シタル所以ナリ。

第二項　時間ニ關スル制限

幼少年工及女工ニ對シテハ就業時間ニ關スル制限ヲ行フ、就業時間ニ關スル制限ハ之ヲ分ツテ三種トナス(一)定時間以上ノ勞働禁止(二)休憩、休日ノ强制(三)中夜勞働ノ禁止之ナリ。

一十二時間制限　凡ソ過長ノ勞働時間ハ業務ノ如何ニ係ラス衞生上有害ナルコトハ固ヨリ言ヲ俟タス、殊ニ工場勞働ニ於テ其ノ弊害顯著ナリトス。換氣不完全ニシテ空氣濕潤ニ、塵埃飛散シ、加フルニ器械ノ騷響囂々タル場內ニ在リテ過長ノ勞働ヲ爲シ不知不識ノ間ニ其ノ心身ノ健全ヲ害スルコト實ニ大ナリ。成年男工ニ在リテハ其ノ身體精神共ニ成熟シ自由ノ意思ヲ以テ外部ノ强制ニ抵抗シ自衞ノ途ヲ圖ルコトヲ得ンモ、幼少者及婦女ニ至リテハ其ノ心身共ニ薄弱ニシテ抵抗力ニ乏シキカ爲其ノ健康ヲ害スルコト尠カラス。斯ノ如ク此ノ種ノ職工ニ對シテハ其ノ衞生上特ニ保護ヲ要スルモノアリ、是工場法第三條ニ於テ工業主ハ十五歲未滿ノ者及女子ヲシテ一日ニ付十二時間ヲ超エテ就業セシムルコトヲ得ス[ト規定シタル所以ナリ。之ヲ英獨諸國ノ工場法立法ノ沿革ニ稽フルモ、孰レモ先ツ幼少者及婦女子ノ保護ヲ以テ起リ、幼少者及婦女子ノ保護ハ就業時間ノ制限ト使用ノ禁止トヲ以テ始マル。一八〇二年ノ英國最初ノ工場法タル「徒弟ノ健康及道德法」カ徒弟ヲシテ十二時間ヲ超エテ就業セシムルコトヲ禁止シ、一八四四年ノ工場法ハ八歲未滿ノ者ノ使用禁止シ、八歲以上十三歲未滿ノ幼年工ノ就業時ハ一日九時間一週四十時間ヲ超ユルコトヲ得サルコト、十三歲以上十八歲未滿ノ者及女子ノ就業時間ハ一日十二時間一週六十九時間ヲ超ユルコトヲ得サルコト、且此ノ種ノ職工ニ對シテ自午後八時半至午前五時半ノ間ニ於ケル就業ヲ禁止シ、且一時間半ノ休憩時間ヲ與フヘキコトヲ定メ、爾後數次ノ改正ヲ經テ一九〇一年改正ノ現行工場法ノ規定ヲ見ルニ至レリ。獨逸ニ於テモ一八三九年初メテ工場法ヲ制定シテ九歲未滿ノ幼年工ノ就業ヲ禁止シ、九歲以上十六歲未滿ノ幼年工ノ十時

間以上ノ勞働禁止、毎日一時間半以上ノ休憩時間、毎日五時間以上ノ就學、毎日曜日ノ休日等ニ關スル規定ヲ設ケ以テ幼少者ノ工場勞働ニ制限ヲ加ヘタリ。一八四五年ニハ一般的ノ營業條例ヲ以テ其ノ範圍ヲ擴張シ、爾來數次ノ改正ヲ經テ現行營業條例ノ規定ヲ見ルニ至レリ。(第二編第一章乃至第四章參照)

以上ノ如キ沿革ヲ有スルヲ以テ各國ノ現行工場法ハ概ネ就業時間ノ制限ニ付幼年工及少年工ニ對シテ別異ノ制限ヲ附シ居レリ。成年女工ニ對シテハ諸國概ネ制限ヲ設クルモ稀ニハ全ク之ヲ設ケサルモノアリ。而シテ成年男工ニ對シテハ何等ノ制限ヲ附セサルモノ多數ニシテ只例外トシテ制限ヲ設クルモノ數國アリ、今左ニ各種ノ職工ニ付テ各國ノ規定セル就業時間ノ制限ヲ略述セン。

幼年工ニ對スル就業時間ノ制限ハ六時間乃至十時間ヲ通例トス。英國ニ於テハ幼年工ノ就業時間ニ付一種ノ特例ヲ設ケ、午前若ハ午後ニ於テ六時間ヲ限リ勞働ヲ許ス所ノ方法即チ半日制及隔日ニ十二時間ノ勞働ヲ許ス所ノ方法即チ隔日制ノ二種ノ方法ヲ定メ、尚纖維工場、手工場及家内工場(家内工場ニ付テハ半日制ニ限ル)ニ依リテ多少其ノ適用ヲ異ニシ各工場主ヲシテ任意ニ其ノ一ヲ撰擇セシムル制ヲ採レリ。

獨逸、丁抹、諾威、匈牙利、瑞典等モ亦六時間ヲ以テ其ノ制限トセリ。佛蘭西、白耳義、伊太利等ノ諸國ハ大概十時間乃至十二時間トシ、唯西班牙一國ノミハ一日五時間以上ノ勞働ヲ禁止セリ。

少年工ニ對スル制限ハ西班牙ノ八時間及白耳義ノ十二時間ヲ別トシ各國共ニ十時間乃至十一時間ナリ。

成年女工ニ對スル制限ハ各國ノ法律ニ於テ少年工ニ對スルモノト殆ント其ノ趣ヲ一ニセリ、唯露西亞、匈牙利、瑞典等五、六ノ國ニ於テハ何等制限的規定ヲ設ケス。

成年男工ニ對スル制限ニ付テハ議論甚タ多ク其ノ利害未タ明ナラス。學者中工場法ヲ以テ成年男工ニ對スル勞働時間ヲ制限スルハ之ニ依リ勞働效率ノ增進ヲ圖ラントスルニアリトシ、或ハ「ブレンタノー」教授ノ言ヲ引キ或ハ「シュルツゲバーニッツ」ノ英國木綿工業ニ於ケル實地研究及「エルンスト、アベー」教授ノ「ツアイス」工場ニ於ケル實驗等ヲ引例シテ論證スルモノアリト雖、前述ノ如ク本法ニ於ケル勞働時間ノ制限ハ主トシテ健康上及社會政策上ノ必要ニ基クモノニシテ、直接ニ個人經濟上ノ目的ヲ有スルモノニ非サルコト明ナリ。斯ノ如ク積極的ニ勞働ノ

能率ヲ增進セシムルコトヲ目的トスル時間ノ制限ノ如キハ全ク工業主ノ自由意志ニ任セテ可ナルヘク、法律ヲ以テ之ヲ規定スルノ理由ヲ見出ス能ハサルナリ。單ニ衞生上ノ目的ヨリスルモ成年男工ハ幼少者婦女ト異リ、自衞力ヲ有シ、其ノ自由意志ニ依リテ工業主ト適當ナル勞働時間ノ契約ヲ締結シ得ルヲ以テ、强テ法律ヲ以テ干渉スルノ必要ナク寧ロ其ノ自由契約ニ一任スルノ勝レルニ若カサルナリ。（第六章第一節參照）

左レハ各國ノ工場法ニ於テモ成年男工ノ勞働ニ對シテハ一般的制限ヲ設ケタルハ墺太利、瑞西、新西蘭等少數ノ國ニ止マリ、其ノ他ノ諸國ハ唯特種ノ場合若ハ特殊ノ業務ニ限リ制限規定ヲ設クルコトトシ、一般的ノ業務ニ於テハ全ク自由契約ニ一任セリ。例ヘハ英國ニ於テハ千九百八年ノ法律ヲ以テ鑛山勞働者ニ八時間半ノ勞働制限ヲ加ヘタル外全ク無制限トシ、佛蘭西ニ於テハ幼少者婦女ト共ニ勞働スル場合ニ限リ成年男工モ亦同一ノ制限ヲ受クルモノト爲セリ。又新西蘭ニ於テハ一週四十八時間ヲ超ユル勞働時間ニ對シテハ特別賃銀ヲ要求シ得ヘキコトヲ定メタリ、獨逸ニ於テハ何等制限的規定ナシ、猶詳細ハ第二編第六章ニ於テ之ヲ表示スヘシ。

次ニ我工場法ハ此ノ問題ニ付如何ナル主義ヲ採リシカヲ概論セン。抑モ一時ニ筋骨ヲ勞セサル種類ノ勞働ハ疲勞ヲ來スコト急激ナラサルヲ以テ自然長時間ニ亙リ之ヲ繼續スル傾アルヲ免レス、其ノ結果ハ年月ノ經過ト共ニ漸次身體ノ發育ヲ害シ、不知不識ノ間ニ各種ノ疾病ニ侵サレ易キ體質ヲ馴致スルモノナリ。製鑛業、機械工業等鐵關係ノ工業少ク、纖維工業（製絲、紡績、織物等）ノ盛ナル我國ニ於テ勞働時間ノ十二時間以上ニ亙ルモノ尠カラサルハ實ニ之ニ起因スルモノナリ、本邦工場ノ實況ヲ見ルニ多數ノ婦女ヲ使用シ、此等婦女幼少者ト成年工トノ勞働時間ニ差別ヲ設ケス、十一二時間ノ勞働ヲ爲サシムル所ハ必ス多數ノ幼少者ヲ使用シ、此等婦女普通ニシテ、工場ノ種類ニ依リ十五時間以上ノ勞働ヲ爲サシムル所尠カラス。其ノ甚シキニ至リテハ一日十七時間以上（朝五時ヨリ夜十時マテ）ノ勞働ヲ爲サシムルモノアリ。本邦職工ノ勞働狀態ハ外國ニ於ケルカ如ク嚴正ナル規律ナキモノ多キヲ以テ、其ノ心身ヲ勞スルコト比較的大ナラサルカ如キ觀アルニ拘ラス、工場勞働ヲ永續スル者少ク、其ノ出入ノ頻繁ナルハ前ニモ述ヘタルカ如ク、勞働時間ノ過長ニシテ數

箇月勤續ノ後ハ、體力ノ到底之ニ耐ヘサルニ至ルコトモ其ノ原因ノ一タルコト疑ヲ容レス。故ニ工場法ハ工業ノ種類又ハ業務ノ性質如何ヲ問ハス、何人モ最長ト認ムヘキ十二時間ヲ以テ勞働時間ノ限度ト爲シ、全國ヲ通シテ一齊ニ之ヲ遵守セシメントシ、工業主ニ對シテハ此ノ最長限ノ範圍内ニ於テ、適宜ニ操業ノ種類、職工ノ年齡及體質等ノ如何ヲ顧ミ必要ナル斟酌ヲ加フルコトヲ希望シタルナリ。乃チ歐米諸國ニ於テ唱導シ來レル所ノ八時間勞働ノ問題ハ我國ニ於テハ十二時間問題トシテ久シク論議セラレタリ、今之ヲ立案ノ沿革ニ徵スルニ二十年案ニハ年齡十四歲未滿ノ者ニ對シ六時間以上、十七歲未滿ノ者ニハ十時間以上ノ勞働ヲ禁止シ、最モ嚴格ナル案ヲ立テタリ。然ルニ三十一年案ハ單ニ十四歲未滿ノ者ニ對シ十時間以上ノ勞働ヲ禁止スルニ止メタリ。三十五年案ハ十六歲未滿ノ者及女子ニハ十二時間以上ノ勞働ヲ禁止スルヲ以テ原則トシタルモ、勅令ヲ以テ十箇年ノ猶豫期間ヲ設定シ、勞働輕易ナル工場ニ在リテハ施行後五箇年間、十五時間迄ヲ許シ、其ノ後ノ五箇年間ニ於テハ十三時間ニ短縮シ、十年後ニ於テ十二時間ノ原則ニ立チ戻ルヘキ旨ヲ定メタリ。然ルニ四十二年案以後ノ諸案ハ斷然十二時間制限ヲ初メヨリ施行スヘキコトヲ定メ、製糸工場ノ如キ特殊ノ工場ニ限リ主務大臣ニ於テ二時間以内ノ延長ヲ特許シ十四時間迄ノ勞働ヲ爲サシムルコトヲ得ルノ主義ニ改メタリ。然ルニ生產調查會ハ此ノ特許ノ期間ヲ永久ニスルヲ不可ナリトシ、之ヲ十五年ニ制限スルノ意見ヲ發表シ、政府及議會ノ容ルル所トナリ、斯クシテ現行法ノ規定ヲ見ルニ至リシナリ。

十二時間ノ勞働ハ、決シテ短シトセス、此ノ如キ長時間ノ勞働ヲ許スハ諸國其ノ例稀ナリ然ルニ本邦ニ於テハ製糸業又ハ織物業ノ如キ從來ノ慣行上往々十五、六時間以上ニ亙リテ作業ヲ爲スモノアリ。特ニ製糸業者ニシテ冬期間休業スルモノノ如キハ、十七時間以上ニ亙ル場合ナキニ非ス、是ニ於テカ此等ノ當業者ノ多數ハ擧テ此ノ制限ニ反對シ、特ニ製糸業者ノ一部ハ第三條第二項ニ依リ十四時間迄ノ勞働ヲ特許サルヘキモノナルコトヲ示サレタルニ拘ラス、最後迄反對ヲ繼續シタリ。其ノ主張ノ要領ハ生糸工業ハ作業ノ性質職工ニ何等ノ危險ナク、又衞生上有害ト爲スヘキ理由ナシ、殊ニ冬期間ハ休業スルモノニ對シ現狀ヲ少シニテモ變革スルハ事業上著シキ打擊ヲ與フルモノナリト謂フニ在リ。此ノ意見ニ對シテ

ハ製糸女工カ水蒸氣充滿シテ體溫ノ調節ヲ阻止セラレタル場所ニ於テ、身體ヲ屈曲シテ深呼吸ヲ爲スヲ得サル狀態ニ在リテ、長時間操業スルコトハ健康上有害ナルコトヲ反覆論證說明シタリト雖、遂ニ其ノ說ノ撤回ヲ見ルニ至ラサリシカ如シ。製糸業者ノ外十四時間又ハ十三時間ヲ以テ原則ト爲スヘシトノ意見ヲ發表シタルモノハ三四ノ商業會議所ノミニシテ、十二時間ノ勞働ハ過長ナルヲ以テ之ヲ八時間ニ短縮スヘシトノ意見ハ帝國教育會ヨリ發表セラレタリ。

法案ノ議會ニ提出セラルルヤ、議會ニ於テハ十二時間ノ原則ニ對シテハ格別ノ論議ナカリシモ、大日本蠶糸會ノ發表シタル意見ヲ容レ、第八條ニ季節ニ依リ業務繁忙ナル事業ニ付テハ、工業主ハ一定ノ期間ニ付豫メ行政官廳ノ許可ヲ受ケ、其ノ期間中一年ニ付百二十日ノ割合ヲ超エサル期間就業時間ヲ一時間以內延長スルコトヲ得ル旨ノ規定ヲ新ニ挿入シタリ。(第四項參照)

我工場法ハ一九〇二年英國最初ノ工場法カ徒弟ニ對シテ初テ十二時間制限ヲ設定シタルトキヨリ年ヲ經ルコト大凡一百年ナリ。而シテ我國ニ於テハ此ノ十二時間制限ニ對シテ尙幾多ノ例外規定ヲ設ケ、此ノ例外規定ニ對シテスラ尙之カ年限ノ延長ヲ迫ツテ止マサラムトス。試ニ思ヘ吾人成年ノ男子スラモ一日十二時間工場內ニ於テ極メテ單調ナル役務ニ服スルニ於テハ必スヤ歸宅後身體ハ疲レテ綿ノ如クナルヘシ、而シテ女工ニ對シテハ尙ヨリ以上ノ勤勞ヲ要求セムトス。彼等職工ハ所謂年少氣銳最モ競爭心ニ富ミ且賃錢ヲ得ルニ急ナルヲ以テ、必スシモ之ニ對シテ反對セサルノミナラス却テ之ヲ歡迎スヘシ。而シテ工業主ハ之ヲ奇貨トシ工場ノ管理、勞働ノ節制ニ依リ勞働效率ヲ增進セムトスルカ如キ研究ハ之ヲ後ニシテ徒ラニ時間ノ延長ノミヲ希望ス、余輩ハ實ニ我工業發達ノ前途尙悠遠ナルヲ思フテ浩嘆ヲ禁スル克ハサルナリシ公平ナル判斷ニ依リ勞働節制ノ利益ナルコトヲ實驗セラレンコトヲ熱望ニ堪ヘサル所ナリ。

「エコノミスト」誌上(一九一六年十月二十八日)ニ於テ同社ノ一通信員ハ我工場法及工場勞働ニ關スル短評ヲ揭ケタリ。論者ノ言フ所必シモ悉ク正鵠ヲ得タルモノニ非スト雖、其ノ所論亦他山ノ石トシテ傾聽ノ價値ナキニ非サルヲ以テ左ニ之ヲ抄錄ス。

日本ノ工場ニ於ケル勞働者ノ狀態ハ歐米先進國ニ比スレハ著シク劣等ニシテ

百年以前ノ英國ニ比スヘキモノナリ。猶ホ日本人ノ勞働振リハ緩慢ニシテ不規則ナルヲ特長トナス。日本ニ於テハ、一九〇九年初メテ具體的ニ工場法ノ制定ニ着手セリ。爾來政府ノ提出シタル工場法案ハ、工場法ノ制定ヲ以テ自己ニ不利益ナリトスル工業主側ノ斷然タル反對ノ爲メ幾度カ撤回セラレ且修正セラレ、遲延ニ遲延ヲ重ネタル後六年前遂ニ　場法ハ議會ヲ通過シ、本年九月一日ヨリ漸ク實施セラルルニ至レリ。然ルニ工場法ノ原案ハ骨拔キトナシ現行工場法ハ僅ニ原案ノ殘影ヲ止ムルニ過キサルナリ。十歲ヨリ十二歲迄ノ幼者ハ其ノ勞働時間ヲ六時間ニ制限セリ、少年工及女工ニ對スル勞働時間ハ初ハ一日ニ付十四時間次ニハ十三時間、最後ニ於テハ十二時間トシテ十五年以上ノ期間ヲ期シ漸次ニ之ヲ減少セントス。日本ニ於テハ常ニ此ノ種ノ長年月ニ亙ル延長ヲ爲スハ吾人ノ屢々見ル奇怪ナル現象ニシテ其ノ效果ノ豫期ノ如ク擧ケ得ヘカラサルヤ論ヲ俟タサル處ナリ。休日ハ一ケ月僅カニ二回ヲ存スルノミニシテ一日ノ勞働時間中休憩時間ハ半時間乃至一時間ニ過キス。此ノ休日及休憩時間ノ不充分ナルコトハ寧ロ殘忍ト言フヘク而カモ善ク之ヲ甘受スルヲ得ハ日本人ノ國民性ニシテ若シ此ノ國民性徹セハ日本ハ少ナクトモ平時ノ商工戰ニ於テハ遂ニ英米人ノ敵ニ非スト主張セラル。事情斯クノ如キヲ以テ日本ノ工場法ハナキニハ優レル位ノモノナリ。

奚ソ其ノ批評ノ酷烈ナルヤ、余輩ハ多少心ニ平カナラサルヲ得スト雖、言フ者罪ナシ聽ク者戒メサルヘカラス」、余輩ハ我國工業主中今尙就業時間ノ制限ヲ悅ハサル者モ他日飜然自覺スヘキ時期ノ到來スヘキヲ信ス、時間問題ニ付テハ第六章ニ於テ之ヲ詳論セリ、參照アランコトヲ望ム、尙此ノ點ニ付テハ特ニ當業者ニ於テ十分ノ研究ヲ悉サレンコトヲ切望ス。我工場法ハ兎モ角一日ノ就業時間ヲ制限シタリ、所謂「一日ノ就業時間」トハ如何ナルコトヲ意味スルカ其ノ解釋ニ付多少ノ說明ヲ要スルモノアリ、英國工場及手工場法ノ如キハ午前何時ヨリ午後何時ト規定スルヲ以テ何等ノ疑義ヲ生セス、獨逸帝國營業條例ハ本邦工場法ト等シク單ニ何時間以上就業セシムルコトヲ得スト規定シ、成年男工ニ付テハ勞働時間ノ始期及終期ヲ就業規則中ニ記載セシメ（營業條例第百三十四條乙）女工及少年工ニ付テハ勞働時間及休憩時間ノ始期及終期ヲ警察署ニ屆出シメ少年工ニ付テハ之ヲ見易キ場所ニ揭示

セシム、(昏業條例第百三十八條)我工場法ノ規定ハ大體ニ於テ獨逸ノ規定ト相似タリ。一日ノ就業時間トハ各曆日(法第五條及第六條ニ依リ交替作業ヲ爲ス場合ハ連續シタル二十四時間)ニ付職工カ工場ノ主タル作業ハ勿論之ニ關係アル作業卽チ作業場ノ掃除、機械ノ掃除又ハ注油等作業開始ノ爲必要ナル準備ニ着手スル時點ニ始マリ、斯ノ如キ作業竝之ニ關聯シタル一切ノ勞務(後始末ヲモ含ム)ニ服セサルニ至リタル時點ニ終ルモノニシテ休憩時間ヲ包含スルコト勿論ナリ。(法第七條)從テ就業ノ始期及終期ハ實際ニ於テハ概ネ工場ニ入リタル時點及工場ヲ退出スル時點ト一致スルモノト解スヘシ。

就業時間ノ計算ハ法第三條ノ文理解釋ノミヨリスルトキハ、各職工ニ付別個ニ之ヲ爲シ得サルニ非ラサルカ如シト雖、斯クテハ到底就業時間ノ制限ニ對スル監督ヲ行フニ由ナク法第三條ノ規定ハ空文ニ終ルヘシ、是則第十二條カ「工業主ハ就業時間休憩時間、及休日ニ關スル事項ヲ工場内ノ見易キ場所ニ揭示スヘシ」ト規定シ工業主ヲシテ休憩及休日ニ關スル事項ト共ニ豫メ就業時間ヲ確定シテ之ヲ公示スルコトヲ要求シタル所以ナリ。就業時間及休憩時間ハ單ニ一日何時間又ハ何時間以內トシ、又ハ午前八時乃至九時ヨリ午後八時乃至九時ニ至ルト揭示スルカ如キハ本條ノ趣旨ニ反スルモノニシテ、午前何時ヨリ午後何時ニ至ルト各明確ナル時點ヲ定ムルコトヲ要スルモノトス。尙工業主カ一旦右揭示ヲ爲シタル以上ハ臨時ニ之ヲ變更スルコトハ、萬已ムヲ得サル事由アル場合ニ於テ數日前ニ之ヲ揭示シタルトキノ外之ヲ行ハサルヲ可トス、然ラサレハ無用ナル誤解ヲ來シ思ハサル迷惑ヲ受クルコトナシトセサレハナリ。

尙職工カ同一日ニ二箇所以上ノ工場ニ於テ就業スル場合ニハ、就業時間ハ各工場ニ於ケル就業時間ヲ通算スルコトヲ要ス例ヘハ甲工場ニ於テ既ニ八時間ノ勞働ヲ爲シタル職工ハ、乙工場ニ於テハ四時間以上就業セシムルコトヲ得ス(法第三條第三項)此ノ場合ニ於テハ各工業主ハ職工名簿記載心得(七)ノ(イ)ニ依リ他ノ工場ニ於ケル就業時間ヲ職工名簿ニ記入スルコトヲ要ス、此ノ就業時間中ニハ工場法ノ適用ヲ受ケサル「工場」ノ就業時間ヲモ包含スルコトハ規定ノ精神ニ依リテ明ナリ。英、獨諸國亦家內工場ノ取締ニ關シ之ト同趣旨ノ規定ヲ有スルコト旣ニ述ヘタル所ノ如シ。(第三節第六項參照)尙數工業主ノ使用シタル時間ヲ合算シ法規違反ヲ構成スル場合ハ其ノ所罰ニ付稍困難ナル問題ヲ生スル場合アルヘシ、今之ヲ詳論スルノ遑ナ

シト雖、要スルニ職工使用ノ時ノ前後如何ニ拘泥セス故意ノ有無ニ依リ各工業主ニ付決定スヘキモノト信ス

二休日及休憩ノ強制

長時間ノ連續就業ハ心身ノ疲勞ヲ來シ、職工ノ健康ヲ害スルハ勿論製品ノ產額及出來榮ニ影響ヲ及ホスヘキヲ以テ一定ノ休憩時間及休日ヲ與フルノ要アルハ言ヲ俟ス。而シテ本邦ノ工場中既ニ此ノ休日、休憩ノ制度ヲ實行セルモノ多シト雖、中ニハ終日連續シテ職工ヲ使役シ、而モ一日ノ休暇ヲモ與ヘス、職工カ病氣其ノ他ノ事由ニ依リ休業セントスルモ、尙之ニ就業ヲ強制スルカ如キ事例ナキニ非ス。是幼少年者及婦女ニ對シテ休憩及休日ヲ與フヘキ旨ヲ規定スル必要アル所以ナリ。之ヲ外國ノ事例ニ徵スルニ幼少年者及女子ニ對シテハ五六時間ノ勞働ニ對シ一時間乃至二時間ノ休憩ヲ與フルヲ通則トスルモ成年男工ニ對シ休憩時間ヲ與フルコトヲ强制スル所ハ極メテ稀ニシテ墺太利瑞西、印度等二三ノ例アルノミ。

定期休業日ニ關シテハ西班牙、伊太利等二三ノ例外アルモ各國概ネ其ノ軌ヲ同

フシ、幼年工、少年工竝成年女工ニ對シテハ祭日ハ勿論毎週必ス一日ノ休暇ヲ與フルコトヲ强制シ居レリ、然レトモ成年男工ニ對シテハ或ハ之ヲ强制スル所アリ或ハ之ヲ强制セサル所アリテ二者相半ハスルモノノ如シ、但シ英國ノ如キハ法律ヲ以テ之ヲ强制セサルモ、國民ノ慣習ニ基キテ日曜休業ハ自ラ行ハレツツアリ、然レトモ之ヲ以テ直ニ本邦ニ適用スルヲ得サル事情アリ。我國工場中休日又ハ休憩時間ノ制ヲ設クルモノニ在リテハ、毎月二日ノ休日ヲ與フルコトト爲シ、休憩時間ハ十時間ノ勞働ニ對シテ約三十分以上、十二時間ノ勞働ニ對シテハ約一時間ト定ムルモノ多シ、依テ此ノ現狀ニ鑑ミ、其ノ最下限ヲ以テ全國一般ノ工場ニ强要セントス。卽チ婦女幼少者ニ對スル休日ハ普通ノ場合ニ於テハ毎月少クトモ二回トシ、職工ヲ二組ニ分チ交替ニ夜間就業セシムルモノ及二組以上ノ交替法ニ依ラシテ法第五條第二號ノ如ク夜間ノミ就業セシムルモノハ、其ノ時間ノ長短ニ拘ラス、心身ノ疲勞大ナルヘキヲ思ヒ、此等ニ對シテハ毎月少クトモ四回ノ休日ヲ與フヘシト定メタリ、休日ハ曆ニ從ヒ毎回一日ノ休日ヲ與フルヲ要スルヤ又ハ連續シタル二十四時間以上ヲ以テ足ルヤニ付テハ曆ニ依ルモノト解セサルヘカラス、(英國

（工場法第三十四條、獨逸營業條例第百五條乙參照）但シ現行法ノ解釋ニ關スル從來ノ成例ニ徴スルトキハ一箇月四回ノ休日ヲ與フル場合ニ於テハ連續セル二十四時以上ト解シ差支ナカルヘキモ此ノ場合ト雖、曆ニ依ルヲ以テ最モ法ノ精神ニ副フモノタルコトハ疑ヲ容レス、工業主ハ可成此ノ解釋ニ從フコトヲ努メサルヘカラス。休日ハ一日及十五日トスル如ク相當ノ間隔ヲ保タシメ二回ノ休日カ相接近セサルコトヲ要ス、地方ノ祭日、工場ノ紀念日等ヲ之ニ流用スルカ如キハ豫メ揭示ヲ爲ス等相當ノ手續ヲ以テ行フトキハ違法ニハ非スト雖、毎月ノ休日ハ成ルヘク一定スルヲ可トス、英國工場法ノ如キハ日曜日ノ外祝祭日ノ休業ヲモ强要セリ。（英國工場法第三十條）法第七條ハ又休憩時間ハ一日ノ就業時間カ六時間ヲ超ユルトキハ少クトモ三十分、十時間ヲ超ユルトキハ少クトモ一時間ノ休憩時間ヲ就業時間中ニ於テ設クヘキコトヲ規定セリ、而シテ此ノ休憩時間ハ就業時間中ニ適當ニ配置スルコトヲ要シ、之ヲ就業時間ノ前後兩端ニ置クコトヲ許サス、例ヘハ就業時間カ十二時間ナルトキハ食事時間ヲ三十分トシ他ノ三十分ハ之ヲ折半シ、前後各六時間ノ中間ニ十五分宛ノ休憩時間ヲ設ケ又就業時間カ十時間以內ナルトキハ始業後五時間前後ニ於テ三十分ノ休憩時間ヲ設クルカ如キハ其ノ一例ナリ。（法第七條第一項）

休日ニ關シテハ製絲業者ノ一部ヨリ異議ヲ申出タリ、其ノ理由トスル所ハ冬期間休業スルカ如キ業態ニ在リテハ、職工ハ此ノ休業期間自由ニ心身ヲ休養スヘキヲ以テ、營業上急速ノ作業ヲ要スル時期ニ於テ休日ヲ與フルカ如キハ生產額ヲ少カラシムルノ結果ヲ生シ、事業ノ利潤ヲ減少セシメ、延テ本邦ニ於テ最モ重要ナル產業タル製絲業ノ基礎ヲ殆クスルモノナリト謂フニ在リ。右ハ從來永年ノ慣行、ニ基キ立論セル所ニシテ先入主ト爲リテ又拔クヘカラサル論者少カラス、反復ノ辯明モ容易ニ其ノ主張ヲ撤回セシムル能ハサル場合アリタリ、然レトモ議會ニ於テハ此ノ點ニ關シテハ別段ノ論議ナクシテ之ヲ通過セシメタリ。

猶又職工ヲ二組以上ニ分チ交替ニ夜間就業セシムル場合ニ於テハ、夜（又ハ午前）ノ組ニ屬スル職工ハ疲勞其ノ他衞生上ノ不利益大ナルヲ以テ、本條ニ於テハ十日ヲ超エサル期間以內ニ各組ノ就業時間ヲ相互轉換スヘキコトヲ命シタリ、（法第七條第二項）而シテ工業主ハ則第十二條ニ依リ就業時間ノ轉換ニ付テハ休日及休憩ニ關スル事項ト共ニ工場內ノ見易キ場所ニ揭示スルコトヲ要スルモノトス。（則第十二條）

三　中夜業ノ禁止

幼少者及女子ノ保護ハ單ニ就業時間ノ制限、休憩時間及休日ノ強要ノミヲ以テ足レリトセス。假令十二時間ヲ超エサル勞働ナリトスルモ、何人モ睡眠ヲ採ルヘキ安靜ナル夜間殊ニ深夜ヲ徹シテ勞働シ、四周喧噪ニシテ安眠ヲ妨害スヘキ晝間ニ睡眠セントスルカ如キハ實ニ睡眠不足ヲ來シ易キノミナラス、身體ノ新陳代謝ニ最モ必要ナル日光ノ作用ヲ受クルコトヲ妨ケ、食事其ノ他ノ關係ニ於テモ健康上著シキ障害ヲ受クルヲ免レス。殊ニ身體ノ發育未タ十分ナラサル幼少者及抵抗力薄弱ナル女子ニ對シテハ其ノ影響最モ大ナリトス。

加之徹夜業ハ啻ニ之ニ從事スル職工ノ健康上害アルノミナラス、該職工ニシテ母タル場合ニハ彼等ノ小兒保育ヲ妨害スルモノナリ、卽テ徹夜業ヲ爲スコト久シキニ及ヘハ、母體ハ次第ニ衰弱シ終ニ貧血症ニ陷リ乳量漸次減少シ小兒ノ營養ハ益々缺乏スルニ至ルヘシ、假令晝間ハ托兒所ニ托スルコトヲ得ヘシトスルモ、夜間ニ於テハ此ノ種ノ設備ナキヲ以テ小兒ハ一層可憐ノ狀況ニ陷ルヘシ。佛國工場監督官「ラガー」氏ノ報告ニ依レハ徹夜業ヲ爲ス女工ハ早產ヲ爲スコト多ク、幸ニ月滿テテ分娩スルモ其ノ兒童ハ二歲以下ニテ死亡スル者多シ、此ヲ以テ某地方ノ職工ハ徹夜業ヲ稱シテ「小兒ヲ喰フモノ」ト云ヒツツアルヲ聞ケリト謂フ。

以上ノ事實ヲ綜合スルニ徹夜業カ幼少年者竝婦女ニ對シテ衞生上有害ナルコトハ固ヨリ言ヲ俟タス。又徹夜業カ業務上ノ危害ノ原因タルコトハ苟モ工場生活ヲ知レル者ノ周ク認ムル所ナリトス、是徹夜業ニ於テハ職工ハ氣力弱ク、注意力薄ク、加フルニ屢睡魔ノ襲フ所トナリ、不知不識ノ間ニ機械其ノ他ノ裝置ノ危險ナル部分ニ觸レ危害ニ罹ルヲ免レサルナリ。尙社會風敎ノ點ヨリ徹夜業ヲ觀察スルモ其ノ弊ヤ實ニ言フニ忍ヒサルモノアリト聞ク、更ニ又晝夜交代ノ就業方法ヲ採レル工場ニ在リテハ夫ハ晝間ノ勞働ヲ了リ薄暮家ニ歸レハ妻ハ已ニ夜業ノ爲ニ工場ニ赴キ、妻ニシテ翌朝家ニ歸ランカ夫ハ更ニ工場ニ赴カサルヲ得ス、斯ノ如キ生活ニ於テハ家庭圍欒ノ快樂ヲ望ムコトヲ得ス、風紀ノ維持ヲ期シ難キ場合ヲ生スルモ亦已ムヲ得サル所ナルヘシ、工場法第四條カ、工業主ハ十五歲未滿ノ者及女子ヲシテ午後十時ヨリ午前四時ニ至ル間ニ於テ就業セシムルコトヲ得ス」ト規定シテ幼少者及女子ノ中夜業ヲ禁止シタルハ固ヨリ當然ノコトナリ。此ノ點ニ

關スル諸外國ノ立法例ヲ見ルニ夜業禁止ノ範圍ハ我工場法ニ比シ皆頗ル廣汎ニシテ、例ヘハ英國ノ如キハ纖維工場ニ於テハ此ノ範圍ヲ午後七時ヨリ午前六時迄、非纖維工場ニ於テハ午後八時ヨリ午前六時迄トシ、獨逸ニ於テハ午後八時ヨリ午前六時迄、佛國ニ於テハ午後九時ヨリ午前五時迄（第二編第六章參照）ト爲スノ類ニシテ幼年工ニ對シテハ各國等シク之ヲ禁止シ、少年工及女工ニ對シテハ少數ノ例外ヲ除キ之ヲ禁止セリ、特ニ瑞西ノ如キハ成年男工ニ對シテモ原則トシテ之ヲ禁止セリ。斯ノ如ク歐洲諸國ハ孰レモ皆國法ヲ以テ婦女幼少者ノ夜間勞働ヲ禁止セルノミナラス、一九〇一年及一九〇五年職工保護ニ關スル萬國會議ヲ瑞西「ベルン」市ニ開催シ條約ノ規定ヲ以テ幼少年者及女子ノ夜業ヲ禁止スルコトト爲シ歐洲各國概ネ之ニ加盟セリ。然ルニ我工場法ノ規定ハ單ニ夜業ノ範圍ヲ午後十時ヨリ午前四時ニ至ル迄トシ禁止ノ時間ヲ極メテ僅少ノ範圍ニ止メタルノミナラス、法第五條カ廣汎ナル例外規定ヲ設ケ、且法第六條ノ例外規定（例外規定ニ付テ八第四項參照）ニ依リテ十五年間ノ猶豫期間ノ存スル等諸外國ノ立法例ニ比シ甚タ寬裕ナル所アルモ第一期ノ立法トシテハ洵ニ已ムヲ得サル所ナルヘシ。

第三項　就業制限

一　概論

幼少者及女子ハ危險ヲ自覺セサル爲、又ハ操業ニ熟達セサル爲、或ハ動作活潑機敏ナルヲ得サルカ爲、或ハ監督者ノ不注意ニ因リ災害ニ罹ルノ虞アルヲ以テ、危險ナル業務ニ從事セシメサルコトヲ要ス。一九一一年英國ニ於ケル工場ノ災害調査委員會ノ報告ニ依レハ、十四歲未滿ノ者ハ獨立ニ作業セシムルトキハ殆ント自衞的ノ注意力ヲ缺キ災害ノ犧牲トナルコト極メテ頻繁ニシテ二十歲未滿ノ者モ尙成年者ニ比シ輕卒ニシテ沈着ヲ缺クヲ常トスト謂フ、尙斯ノ如キ注意及智識不足ナル者ヲシテ衞生上有害ナル業務ニ從事セシムルコトヲ禁止スルノ要アリ。

之ヲ沿革ニ徵スルニ此ノ趣旨ノ條項ハ二十年案ニ於テ既ニ之カ規定ヲ設ケタリ、卽チ農商務大臣ハ職工ノ使用法カ健康又ハ品行其ノ他經濟ノ發達ヲ害スト認ムルトキハ、特別ノ制限ヲ加ヘ又ハ禁止スルコトヲ得ト規定セリ。三十一年案ニ於テハ婦女及十四歲未滿ノ男子竝女子ニ關シテ規定シ、略同樣ノ規定ヲ設ケ、三十五年案ニ於テハ十六歲未滿ノ者ニ對シ、爾後ノ諸案總テ此ノ精神ヲ一貫セリ。

卽チ法第九條ニ於テ工業主ハ十五歳未滿ノ者及女子ヲシテ運轉中ノ機械若ハ動力傳動裝置ノ危險ナル部分ノ掃除注油檢査等ヲ爲サシムルコトヲ禁止シ併セテ運轉中ノ機械若ハ動力傳導裝置ニ調帶、調索ノ取付ケ若ハ取外シヲ爲サシムルコト其ノ他一般ニ危險ナル業務ニ就カシムルコトヲ禁止セリ。

法第十條ハ十五歳未滿ノ者ヲシテ毒藥劇藥其ノ他有害料品又ハ爆發性ノ料品ヲ取扱フ業務及著シク塵埃、粉末ヲ發散シ又ハ有毒瓦斯ヲ發散スル場所ニ於ケル業務其ノ他危險又ハ衞生上有害ナル場所ニ於ケル業務ニ就カシムルコトヲ禁止セリ。而シテ法第十一條ハ亦此ノ種ノ業務ノ內特ニ有害ナルモノニ付テハ女子ノ就業ヲモ禁止スルコトヲ認メ以テ幼少年者竝女子カ危險又ハ有害ナル業務ニ從事シテ不測ノ災害ニ罹リ、又ハ其ノ健康ヲ傷害スルコトヲ免レシメンコトヲ爲メ、尙法第十二條ハ產婦竝病者ニ對シテモ一定ノ制限ヲ設ケ以テ其ノ健康ヲ維持セシメンコトヲ期シタリ。

危險又ハ衞生上有害ノ業務ニ對シ幼少者及女子ノ就業ヲ制限シ又ハ禁止スルハ諸外國ノ立法例ノ等シク認ムル所ナリ、而シテ其ノ立法ノ內容ハ精粗必スシモ一ナラスト雖、多クハ法律中ニ概括的規定ヲ設ケ細目ハ之ヲ命令ニ讓ルヲ常トス、獨逸、佛蘭西等卽チ是ナリ、英國ハ法律中ニ稍詳細ナル規定ヲ設ケタリ今參考ノ爲其ノ梗概ヲ揭クハ左ノ如シ。

獨逸營業條例第百三十九條甲第一號ハ、聯邦參議院ハ職工ノ健康又ハ風規上特ニ危險ノ虞アル事業ニ付女子又ハ幼少者ノ使役ヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得」ト規定セリ。是固ヨリ常時十人以上ノ職工ヲ使用スル事業ノミニ對スル取締法ニシテ此ノ概括的規定ニ基キ聯邦參議院ハ多クノ命令ヲ發シタリ、尙同國ニ於テハ別ニ一九〇三年幼者保護法ナル單行法ヲ制定シ常時使用スル職工ノ數十人以上ナルト否トヲ問ハス又職工ヲ使用セサル業務（第三節第六項參照）ヲ列記シ此等ノ業務ニ付幼者ノ使用ヲ禁止シタリ。

英國工場法ハ第十三條ニ於テ

(一)蒸汽力、水力又ハ其ノ他ノ機械力ニ依リテ機械ノ運轉スル間ハ左ノ場所ノ掃除ニ幼年工ヲ使役スルコトヲ得ス

(イ)機械ノ各部

(ロ) 工場ノ上部ニ取付ケタル動力傳動裝置以外ノ機械ノ下ニ於ケル場所

(二) 機械カ蒸汽、其ノ他ノ機械力ニ依リテ運轉スル間ハ其ノ機械ノ危險ナル部分ノ掃除ニ少年工ヲ使役スルコトヲ得ス、監督官カ工業主ニ對シテ危險ナル旨ヲ指示シタル部分ハ反對ノ證明アルマテハ危險ナル部分ト推定ス

(三) 工場ニ於テ製造用ノ機械ヲ運轉セシムルカ爲運轉中ナル動力傳動裝置ハ少年工又ハ女工ヲシテ之ヲ掃除セシムルコトヲ得ス

(四) 本條ヲ遵守セスシテ幼年工、少年工又ハ女工ヲシテ掃除ヲ爲サシムル者ハ本法ニ違反シタルモノト看做ス

ト規定シ、尙同第十二條第三項ニ於テハ女工、少年工、幼年工カ蒸汽力、水力其ノ他ノ機械力ニ依リテ運轉中ナル自動機械ノ固定セル部分ト運轉部分トノ間ニ於テ就業スルコトヲ禁止シ、又同第七十六條乃至第七十八條ニ於テハ

(一) 濕浸ナル業務ノ禁止

濕浸紡績事業ヲ行フ工場ニ於テハ職工ノ濕氣ヲ受ケサル樣十分ナル裝置ヲ施シタル場所ノ外女工、少年工及幼年工ヲ使用スルコトヲ得ス又湯ヲ用フル場合

ニ於テハ蒸汽ノ浸入セサル樣十分ナル裝置ヲ施シタル場所ノ外保護職工ヲ使用スルコトヲ得ス

(二) 有害ナル業務ノ禁止

(1) 工場及手工場ニ於テハ左ニ記載セル事業ヲ營ム部分ニハ少年工及幼年工ヲ使用スルコトヲ得ス

(イ) 水銀法ニ依ル鏡面ノ鍍業

(ロ) 白鉛ノ製造

(2) 硝子ヲ溶解シ又ハ之ヲ燒キ戻ス事業ヲ爲ス部分ニハ少年工又ハ幼年工ヲ使用スルコトヲ得ス

(3) 次ニ記載セル事業ニハ十六歲未滿ノ女工ヲ使役スルコトヲ得ス

(イ) 飾ノナキ煉化又ハ瓦ノ製造又ハ仕上ケ

(ロ) 鹽ノ製造又ハ仕上ケ

(4) 工場又ハ手工場ニ於テハ左ニ記載セル事業ヲ營ム部分ニハ幼年工ヲ使用スルコトヲ得ス

(イ)金属ヲ乾燥磨砕スル業務
(ロ)摺附木ニ頭薬スル業務

(5)本條ノ適用ヲ受クル工場又ハ手工場ニハ本條ニ依ル禁止事項ヲ掲示ス可シ

(三)食事ノ禁止

(1)工場又ハ手工場ニ於テハ次ニ記載セル部分ニハ食事ノ爲又ハ食事時間内ニ女工又ハ少年工ヲ留置クコトヲ得ス

(イ)硝子製造所ニ於テ原料ヲ混和スル場所
(ロ)鉛硝子製造所ニ於テ研磨、截斷又ハ琢磨作業ヲ營ム場所
(ハ)燐寸製造所ニ於テ製造又ハ手工ヲ營ム一切ノ場所(軸木ヲ割ル場所ハ之ヲ除ク)
(ニ)陶器製造所ニ於テハ浸漬、乾燥又ハ陶器磨研ノ作業ヲ爲ス一切ノ場所

(2)本條ノ規定ニ違反シタル工場又ハ其ノ一部ニ於テ女工、少年工又ハ幼年工ニ食事ヲナサシメ又ハ食事時間中之ヲ留置キタルトキハ本條例ノ規定ニ違反シテ使用シタルモノト看做ス

(3)本條ノ適用ヲ受クル工場又ハ手工場ニハ本條ニ依ル禁止事項ヲ掲示ス可シ

(4)工場、手工場又ハ其ノ一部ニ於ケル職業ノ性質上本條ニ掲ケサルモノト雖内務大臣カ其ノ場内ニ於テ食事ヲ爲スコトヲ健康ニ害アルモノト認メ且特別命令ヲ發スルノ至當ナルコトヲ認メタルトキハ右ノ工場、又ハ其ノ一部ニ本條ノ禁止規定ヲ適用スルコトヲ得(一八九八年内務省令ヲ以テ穀撰選別、活鑄造等二十餘種ノ業務ヲ指定セリ)

(5)前項ニ依リテ本條ノ禁止規定ヲ適用スル工場、手工場又ハ其ノ一部ニ付職工ノ健康保護ノ爲之ヲ適用スルノ必要ナキコトヲ内務大臣ニ於テ認メタルトキハ特別命令ニ依リテ其ノ取消ヲ爲スコトヲ得此ノ取消ハ他ノ命令ヲ發スルコトヲ妨クルコトナシ

ト規定シテ有害業務ニ對スル保護職工ノ就業ヲ禁止又ハ制限セリ、其ノ他皮年男工ニ對シテ適用セラルヘキ共通ノ制限規定亦頗ル多シト雖、之ニ關シテハ法第十三條ノ說明ニ讓リ茲ニハ之ヲ略ス。

二法第九條ニ依ル就業制限(危險業務ノ就業制限)

本條ハ主トシテ機械ニ因ル危險アル業務ニ就クコトヲ禁止シタルモノニシテ其ノ運用ニ付テハ主務大臣ニ於テ命令ヲ以テ其ノ業務ノ範圍ヲ明確ニシ適用上

疑義ナカラシメンコトヲ期シタリ、(法第十一條)而シテ則第五條ハ法第十一條ニ依リ法第九條ノ業務ノ範圍ヲ左ノ如ク規定シタリ、以下順次之カ說明ヲ爲スヘシ。

(一)原動機、電氣機械其ノ他ノ機械又ハ動力傳導裝置ニ附屬スル勢輪(フライホイール)、曲柄(クランク)、連接桿(コンネクチングロッド)、聯桿器(ユニヴァーサルジョイント)、喞子桿、發電機ノ「コンミユテーター」、轉子、銳利ナル刃物、齒輪、調帶車、車軸、車軸接手(カップリング)又ハ之ニ準スヘキ危險ナル部分ヲ其ノ運轉中ニ掃除、注油、檢査又ハ修繕スル業務

【說明】　勢輪、曲柄、連接桿、聯桿器、喞子桿等ハ孰モ原動機ノ一部ニシテ原動機ノ運轉ト共ニ高速度ノ回轉、上下運動又ハ水平運動ヲ爲スカ故ニ過テ之ニ打タルルコトアル時ハ重大ナル災害ヲ惹起ス。發電機ノ「コンミユテーター」ノ掃除ニ際シテハ發電機ノ「ブラシユ」其ノ他危險ナル部分ニ接觸シ感電スルノ危險アリ。轉子、齒車及調帶車ニ付テハ指手及着衣ヲ卷込マルルノ危險アリ特ニ女子ハ頭髮ヲ捕ヘラレ不測ノ災害ニ罹リ生命ヲ失フコト少カラス。車軸、車軸接手ノ楔子(キー)、壓螺旋ノ頭部、車軸接手ニ用ヒタル釘(ボルト)ノ頭部等ノ突出部分カ車軸ト共ニ回轉スル爲、此ノ突出部分ニヨリ打撲傷ヲ受ケ、又突出部分カ着衣ニ觸ルル時ハ車軸ニ卷キ込マルルノ危險アリ。鋭利ナル刃物トハ切斷機ノ刃物ノ類ヲ云フ。而シテ此等ハ孰レモ原動機、電氣機械其ノ他ノ機械又ハ導力傳導裝置ノ一部分ヲ爲スモノニシテ其ノ危險ハ多クハ其ノ運轉中之ニ接觸スルニ起因スルカ故ニ運轉中ニ十五歲未滿ノ者及女子ヲシテ掃除、注油、檢査又ハ修繕ヲ爲サシムルコトヲ禁止シタルモノナリ。準スヘキ部分トハ例ヘハ諸機械ノ均鍾ノ上下道、打印(プレス)機又壓穿(パンチ)機、摩擦(フリクション)圓錐、鼓形(ドラム)輪、調整器ノ球等其ノ部分甚タ多カルヘシ。運轉停止中ノ機械ニシテ運轉中ノ原動機ニ聯續セルモノノ注油又ハ掃除ニ付テハ本項ニ於テ之ヲ禁止セスト雖、斯ノ如キ場合ニ對シテモ可成其ノ掃除注油等ヲ爲サシメサルコトトナスヘク、萬已ムヲ得サルトキハ不意ニ運轉ヲ開始スルノ虞ナキ樣十分ノ制動方法ヲ施スノ要アルヘシ。

(二)危險ナル方法ニ依リ運轉中ノ機械又ハ動力傳導裝置ニ調帶、調索ノ取付ケ又ハ取外シヲ爲ス業務

【說明】　危險ナル方法トハ安全ナル調帶移動裝置又ハ掛外用釣桿等ヲ使用セ

スシテ調帶ノ掛外ヲナスカ如キヲ云フ、故ニ安全ナル帶調移動裝置ニ依リテ調帶ノ掛外ヲ爲サシムルハ差支ナキモノトス。調帶ヲ直接手ニ依リテ移動シ又ハ掛外ヲ爲スハ數々危害ノ原因トナルモノニシテ、單ニ取扱中ノ調帶車ニ頭髮、手指、着衣等ヲ卷込マルルノ危險アルノミナラス、之ニ近接セル齒輪、調帶車等ニ依リテ傷害ヲ被ルコト少ナシトセス。

(三)汽罐ノ焚火、給水弁、阻汽弁ノ開閉又ハ安全弁ノ取扱

【說明】汽罐ノ焚火ヲ爲ス者ハ常ニ汽罐ノ現狀ヲ檢査シ其ノ汽壓、水量等ニ付細密ナル注意ヲ爲スコトヲ要ス、然ルニ幼少未熟ノ者ヲシテ之ヲ取扱ハシメ、汽罐ノ故障アルニ氣付カス又ハ焚火ノ方法適當ナラサル爲、汽罐ノ一部ニ過度ノ高熱部分ヲ生シ、又汽壓ノ昇騰甚シキニモ拘ラス之ヲ知ラスシテ過度ノ焚火ヲ爲シ、或ハ罐水ノ減少セルニ氣付カスシテ焚火ヲ繼續シ、或ハ罐水ノ激減セルヲ發見シテ驚キテ急ニ給水弁ヲ開キ俄カニ冷水ヲ供給スルカ如キ、又ハ阻汽弁ヲ開クニ當リテ排水ヲ排除スルコトヲ怠リ、爲ニ水撃（ウオーターハンマー）ヲ起シ又ハ安全弁ノ作用ヲ障害スルカ如キ取扱ヲ爲スコトアル時ハ何レモ汽罐又ハ汽管破裂ノ原因トナリ重大ナル災害ヲ惹起スルノ虞アリ。

(四)發電機、電動機ノ抵抗器若ハ變壓器ノ取扱又ハ高壓電線ノ接續

【說明】電氣ニ依ル危險ハ導體ノ附近ニ近寄リタル爲火花ノ飛來ルト導體ニ接觸シタル爲感電スルトノ二種アリ、而シテ其ノ身體ニ及ホス損傷ハ火傷ト電撃トナリ、電氣的ノ危險ハ電壓高キモノニ多ク電壓ノ低キモノニ少キヲ常トスレトモ僅カニ百十（ヴオルト）ノ電壓ニシテ尚人命ヲ損ヒタルノ實例ナキニ非ス、茲ニ高壓ト稱スルハ電氣工事規程第三條ニ依ルモノニシテ直流ニ付テハ六百（ボルト）交流ニ付テハ三百（ボルト）ヲ超ユルモノヲ謂フ。英國危險工業取締規則ハ詳細ナル規定ヲ設ケ單ニ保護職工ノミナラス、成年男工ニ對シテモ一定ノ資格アルモノノ外一定ノ作業ヲ爲スコトヲ禁止セリ、我國ニ於テハ電氣業法ノ適用ヲ受クルモノニ付特別規定ノ存スルノ外斯ノ如キ一般的ノ規定ナシ工場法ハ危險ノ最モ大ナルモノニ對シ十五歲未滿ノ者及女子ノ取扱ヲ禁止セリ、但シ完全ニ絕緣シタル手柄ニ依リ低壓小形ノ電動機ノ取扱ヲ爲サシムルカ如キハ必スシモ本號ニ違反スルモノニ非サルヘシ。

(五)鋸機ニ木材ヲ送給スル業務

【說明】　鋸機トハ動力ニ依リ運轉スル鋸ヲ謂フ、木材トハ稍大形ノ木材ヲ云フモノニシテ小形ノ木片ヲ包マス、送給トハ木材ヲ切斷スル爲鋸臺上ノ木材ヲ移動セシムルヲ云フ、前ヨリ押スト後ヨリ曳クトニ關係アルコトナシ、鋸機ノ危險ハ主トシテ其ノ回轉速度ノ甚大ナルニ起因ス、特ニ木材ニ節ノ存スル場合ノ如キ木材ノ破片ヲ飛散セシメ、又ハ木材全部ヲ撥飛ハシ又ハ鋸機自身ノ破損ニ依リ送給者ニ危害ヲ與フルコト多シ。

(六)危險ナル齒輪、調帶車、勢輪、調帶、調索ニシテ完全ナル柵圍其ノ他危害豫防裝置ナキモノ又ハ之ニ準スヘキモノニ接近シテ行フ業務

【說明】　齒車、調帶車、勢輪、調帶、調索ノ危險ナル事由ニ付テハ已ニ述タル所ノ如シ、危險ナル勢輪トハ原動機ニ直接ニ聯絡セラレタル場合、其ノ他强大ナル運動量ヲ以テ廻轉スルモノヲ謂フナルヘク、齒車、調帶車、調帶、調索ハ常ニ危險ナルコト多クシテ如何ナル場合カ特ニ危險ナリヤハ之ヲ豫斷スルコト容易ニアラス。外國法令中ニハ調帶ノ幅一定寸法以上ノモノニ限リ豫防裝置ヲ施スヘシトノ規定ヲ存スルモノアルモ其ノ幅員ハ國ニ依リテ同シカラス、英國工場法第十條ハ此ノ種ノ部分ニ對シテハ悉皆豫防裝置ヲ設クルコトヲ必要トセリ、要スルニ其ノ大及廻轉ノ速度等ニ依リテ稍危險ノ程度大ナリト認ムヘキモノニ付テハ完全ナル柵圍其ノ他ノ危害豫防裝置ナキモノニ接近シテ就業セシムルコトヲ得サルモノト解セサルヘカラス。

(七)完全ナル柵圍其ノ他ノ危害豫防裝置ナキ車軸道、足場其ノ他之ニ準スヘキ場所ニ於ケル業務

【說明】　工場ノ災害中高所ヨリノ墜落ニ依ルモノハ其ノ件數ノ多キノミナラス災害ノ結果ノ重大ニシテ骨折又ハ死亡等慘禍ヲ免レサルヲ常トス、墜落豫防ノ方法トシテハ完全ナル柵圍、手擢ヲ設ケ辷止ヲ施スノ類ヲ謂フナルヘシト雖、實際上全ク危險ノ虞ナキ樣完全ナル豫防裝置ヲ爲スコトハ困難ナル場合少シトセス、斯ノ如キ場合ニ於テハ保護職工ヲ使用スルコトヲ得サルモノトス。（危害豫防方法ニ付テハ第五章第二節及第四節參照）

三法第十條ニ依ル就業ノ制限（危險有害業務ノ就業制限）

法第九條ハ主トシテ機械ニ因ル危險ニ對シテ、幼少者及婦女ノ保護ヲ規定シタレトモ、法第十條ハ主トシテ原料其ノ他ノ材料ニ因ル危險又ハ衞生上有害ナル業務ニ關シ幼少者ヲ使用スルコトヲ禁止シタリ。四十二年案ニ對シ、本條ニ業務ノ種類ヲ具體的ニ列擧スルヲ可トスルノ說アリシヲ以テ、最後ノ公表案ハ之ヲ擧示スルコトヲ努メタルモ、生產調查會其ノ他ハ寧ロ命令ノ指定ニ讓ルヲ可トスルノ意見ヲ提出シ、政府之ヲ容レ、議會亦別段ノ異議ナクシテ通過セリ。左レハ本條ニ付テモ亦前條同樣主務大臣ハ命令ヲ以テ其ノ取締ヲ必要トスル業務ノ種類ヲ定ムルコトトシ則第六條ヲ以テ其ノ業務ノ範圍ヲ左ノ如ク規定シタリ。

一　砒素若ハ水銀又ハ其ノ化合物、黃燐、硫化燐、チアン水素酸、チアンカリウム、フルオール水素酸、硫酸、硝酸、鹽酸、苛性ナトロン、石炭酸其ノ他之ニ準スヘキ毒劇性料品ヲ取扱フ業務

二　「カリウム」、「ナトリウム」、過酸化ナトリウム、「エーテル」、石油ベンヂン、「アルコホル」、二硫化炭素其ノ他之ニ準スヘキ發火性又ハ引火性ノ料品ヲ取扱フ業務

三　火藥、爆藥又ハ火工品ヲ取扱フ場所ニ於ケル業務

四　金屬、鑛物、土石骨、角、甲、獸毛、棉、麻、藁等ノ塵埃、粉末ヲ著シク飛散スル場所ニ於ケル業務

五　砒素、水銀、黃燐、鉛、「チアン」、水素酸、「フルオール」、「アニリン」、「クローム」、若ハ「クロール」又ハ其ノ化合物其ノ他之ニ準スヘキ有害料品ノ粉塵、蒸氣若ハ瓦斯、又ハ酸性瓦斯ヲ發散スル場所ニ於ケル業務

六　多量ノ高熱物體ヲ取扱フ業務又ハ金屬、鑛物、土石類ノ熔融若ハ煆燒ヲ爲ス高熱ノ場所、高熱ノ乾燥室其ノ他之ニ準スヘキ場所ニ於ケル業務

本條ニ依リ危險若ハ有害ナルモノトシテ保護職工ノ就業ヲ制限スヘキ工場ノ種類、就業ノ制限ヲ受クヘキ作業場、有害ノ狀況程度等ヲ例示スレハ左ノ如シ。

品名	主タル用途	取締ル可キ工場ノ種類	人體ニ有害ナル程度
砒素	動物制製用	砒素及砒素化合物製造工場	工場ニ於ケル幼少者使用禁止ノ部分
砒素化合物	煙火用、製藥用、顏料用	動物制製工場、煙火製造工場、製藥工場、顏料製造工場	砒素瓦斯發散ノ場所砒素及砒素化合物取扱場所	砒素中毒
水銀	電解裝置用、鏡製造用、計量器製造用、金屬精煉用、アマルガム製造用	電解工場、鏡製造工場、計量器製造工場、金屬精煉工場、アマルガム製造工場	水銀蒸氣發散ノ場所水銀及水銀化合物取扱ノ場所	水銀中毒
水銀化合物				

一	黄燐	燐寸製造用	燐寸製造工場、燐製造工場	燐蒸氣發散ノ場所
	硫化燐	燐合金用	燐合金製造工場	燐寸工場中黄燐ノ調合花付、乾燥室
	チアン水素酸	鍍金用	チアン水素酸及チアン化合物製造工場、電鍍工場	チアン瓦斯發散ノ場所
	チアン化合物	金精煉用	金精煉工場	チアン化合物取扱ノ場所
	フルオール水素酸	硝子ノ腐蝕、非化アンチモニー製造用	硝子工場、染料工場	弗化水素瓦斯ノ發散スル場所、容器取扱
	硫酸	過燐酸石灰肥料製造用、アルカリ製品製造用、硝化セルローズ製造用其ノ他各種工業原料	人造肥料製造工場、各酸類製造工場、アルカリ工場、硝化セルローズ製造工場	焚硫爐煎熬室、硝化セルローズ製造作業室其ノ他酸性瓦斯發散ノ場所
	硝酸			
	苛性カリ	石鹸、製紙原料其ノ他各種工業用原料	製紙工場石鹸製造工場	煎熬室
	苛性ナトロン			
	石炭酸	染料、ピクリン酸、撒里矢兒酸製造用	染料製造工場、製薬工場	製造作業室
	カリウム	實驗用	カリウム製造工場	製造作業室
二	ナトリウム	過酸化ナトリウム、チアンナトリウムノ製造	ナトリウム製造工場	同上
	過酸化ナトリウム	酸化劑、過酸化水素製造	製藥工場	爆發、發火
	アルコホール	諸種ノ溶劑	セルロイド、人造絹絲アニリン色素ノ製造工場	引火
	エーテル	脂肪、油、蠟製造用	脂肪、油、蠟製造工場	爆發、引火ノ危險
	石油ベンヂン	擬革、コロヂオン製造用其ノ他ノ溶劑	コロヂオン製造工場擬革製造工場	製造作業室
	硫化炭素			製造作業室
三	火藥燥藥	軍用、鑛山用土木工事用	火藥製造工場	製造作業室
	火工品	軍用、鑛山用、煙火	火工品製造工場	製造作業室
	金屬	鐵粉	鐵製機器具	鍍金工場	乾燥研磨室	呼吸機關鼻目耳等ノ傷害
	鑛物	燐礦石	肥料	肥料製造工場	粉碎室	同
	土石	陶磁器	陶磁器	陶磁器原料、粉砕工場陶磁器工場	粉碎室	同

四	骨角ノ類例	硝子琺瑯器原料	硝子、琺瑯	原料粉碎工場、硝子工場	粉碎室、配合室	同
		セメント	工事用	セメント製造工場	粉碎室、篩別室	同
		骨角細工		ブラツシ、裝身具其ノ他ノ製造工場	鉋削作業室	同
	襤褸藁		製紙原料	製紙工場	撰別室又ハ截斷室	呼吸機關鼻耳目等ノ傷害、傳染病ノ感染ノ虞
	獸毛		ブラシ織布原料	ブラシ製造工場毛織物工場	撰別室又ハ梳解室又ハ截斷場所	同
	綿、古綿		綿絲綿織布硝子綿原料	製綿工場、紡績工場、織布工場、硝化綿製造工場	製造工場ノ製錦室、紡績工場ノ混綿室、織布工場ノ起毛室、硝化綿製造工場ノ撰別室	同
	麻、古麻		製紙原料織布用	製紙工場、段通製織工場麻織布製織工場	撰別室截斷室梳解室	同
	鉛及鉛化合物		顔料合金原料	酸化鉛製造工場、鉛合金製造工場、鉛精煉工場	加熱鎔融ノ場所煆燒爐	鉛中毒
	亞鉛及亞鉛化合物		顔料、合金、鍍亞鉛ノ原料	亞鉛華製造工場、亞鉛合金製造工場、亞鉛精煉工場鍍亞鉛工場	加熱鎔融ノ場所煆燒爐	亞鉛中毒

五	フルオール		フルオール、水素酸ニ同シ		
	アニリン		染料ノ原料	アニリン製造工場	製造作業室	アニリン中毒
	クローム及クローム化合物		顔料鞣皮酸化劑原料	クローム顔料其ノ他ノクローム化合物製造工場、鞣皮工場	クローム及クローム化合物製造作業室又ハ取扱場所	クローム中毒鼻腔ノ傷害
	クロール瓦斯		晒粉鹽素酸加里原料	晒粉製造工場鹽素酸加里製造工場	クロール瓦斯發散ノ場所	呼吸機關鼻目耳等ノ傷害
六	多量ノ高熱物ヲ取扱フ場所ノ例	熔融セル金屬	鑄物ノ鑄造	鑄物工場	鑄込ヲナス場所	火傷及目ノ傷害、耳病皮膚病筋又ハ睫ノ斷裂
	金屬鑛物、土石類ノ熔融又ハ煆燒ヲナス高熱ノ場所ノ例	鐵	鋼鐵ノ製造	製鐵工場	銑鐵ヲ熔融シ製鋼作業ヲ爲ス場所	同
		硝子	硝子製造	硝子製造工場	原料ノ熔融ヲ爲ス場所	火傷、負傷、皮膚病
		礦石	冶金	金屬ノ製造	礦石ノ煆燒ヲ爲ス場所	同
	高熱ノ乾燥室ノ例	紙繭鑄型	乾燥	印刷工場、繭ノ乾燥場鑄物工場	乾燥室	疲勞、食欲減退消化器疾患

有害瓦斯ノ有害限度ハ其ノ瓦斯ノ種類ニ依リテ異ルハ勿論、人ニ依リテモ亦相同シカラスト雖、參考ノ爲、レーマン氏ニ依リ主ナルモノ二十三種ニ付其ノ有害限度ヲ表示スレハ左ノ如シ。

有害瓦斯ノ有害限度表

容量‰又ハ一リートル中ノ瓱	急激致死量	半時間乃至一時間内ニ危篤ノ疾病若ハ療法ナキ癈疿ヲ起ス量	半時間乃至一時間ハ重キ障害ナクシテ耐ヘ得ラルヘキ量	數時間ノ作用ヲ受クルモ極メテ僅微ノ症候ヲ起スニ過キサル量
鹽素	約0.三‰	一.五—三.〇‰	〇.二五以下‰	〇.〇一‰
瓦斯	三.〇瓱	〇.四—〇.五‰	〇.〇五‰	〇.〇三瓱
亞硫酸	〇.三‰	〇.四—〇.六瓱	〇.一瓱	〇.一—〇.二瓱
硝酸	三.〇瓱	〇.一二—〇.一五‰	〇.〇五—〇.一‰	〇.〇四‰
青酸	約0.一‰	約〇.一五—〇.二〇‰	〇.〇二五—〇.〇五‰	〇.〇一—〇.〇二‰
炭酸	三〇.〇瓱	二.五—三.〇‰	〇.三‰	〇.一‰
アムモニア	約0.一‰	〇.〇四—〇.〇五‰	〇.〇一‰	〇.〇〇五—〇.〇一‰
クロール及ブロームヨード	三.〇瓱	〇.〇五—〇.〇六‰	〇.〇一‰	〇.〇〇五—〇.〇一‰
燐化水素	三.瓱	〇.〇一—〇.〇二‰	〇.〇一‰	〇.〇〇五‰
三クロール燐	三.瓱	〇.〇一—〇.〇二‰	〇.〇一‰	〇.〇〇五‰
砒水素	一.〇—二.〇‰	〇.〇二—〇.〇三‰	〇.〇一‰	〇.〇〇五‰
化水素	一.〇—二.〇‰	〇.〇二—〇.〇三‰	〇.〇一‰	〇.〇〇五‰
硫化ベンヂン	一.〇—二.〇‰	〇.〇二—〇.〇三‰	〇.〇一‰	〇.〇〇五‰
硫化ベンツオール	二.五—三.〇瓱	〇.〇四—〇.〇六瓱	〇.〇二瓱	〇.〇一瓱
硫化炭素	一〇.〇—一二.〇瓱	約〇.〇五—〇.〇六瓱	〇.〇二五瓱	〇.〇一瓱
四クロール炭素	二〇〇.〇—二五〇.〇瓱	約〇.〇七—〇.〇八瓱	〇.〇三瓱	〇.〇一五瓱
クロロフオルム	二〇〇.〇瓱	〇.〇七—〇.〇八瓱	〇.〇三瓱	〇.〇一五瓱
四クロールエタン	二〇.〇—二四.〇瓱	〇.〇七—〇.〇八瓱	〇.〇三瓱	〇.〇一五瓱
酸化炭素	一.〇—二.〇‰	〇.一二—〇.一五‰	〇.〇五‰	〇.〇二‰
アニリン及トルイヂン	〇.五—〇.七五‰	〇.一五—〇.二‰	〇.〇六‰	〇.〇二五‰
ニトロベンツオール	三〇.〇—四〇.〇瓱	〇.一五—〇.二‰	〇.〇六‰	〇.〇二五‰
ニトロクロールベンツオール	一〇.〇—一二.〇瓱	〇.一五—〇.二‰	〇.〇六‰	〇.〇二五‰

本條ハ幼年工ノ就業制限ヲ主眼トスルモ、尚特ニ危險又ハ衞生上有害ナル第五號及第六號ノ業務ニ對シテハ十五歳以上ノ女子ニ付テモ其ノ就業ヲ禁止セリ。（法第十一條、則第七條）

本條ニ所謂火藥、爆藥、火工品トハ銃砲火藥取締法施行規則ニ所謂火藥、爆藥及火工品ヲ指スコト既ニ述ヘタル所ノ如シ。【註】而シテ銃砲、火藥取締法ト工場法令トカ競合スル場合ニ於テハ兩法令ハ各獨立ニ働クモノトス、蓋シ兩法令ハ共ニ其

ノ目的ヲ異ニシ其ノ間主從ノ關係ナキカ故ナリ。

【註】

銃砲、火藥取締法施行規則第二條ニ依ル火藥、爆藥、及火工品ノ定義ハ左ノ如シ。

火藥　硝酸鹽類ヲ主トスル有煙火藥、純硝化纖維素ヲ主トスル無煙火藥又ハ純硝化纖維素ト「ナイトログリセリン」トノ結合物ヲ主トスル無煙火藥

爆藥、雷酸鹽ノ類、雷汞ノ類其ノ他ノ起爆劑「ナイトログリセリン」及之ヲ主トスル爆發藥（各種「ダイナマイト」ノ類）、硝酸アムモニヤ若ハ鹽酸鹽類ヲ主トスル爆發藥又ハ爆發用ノ用途ニ供スル棉火藥、芳香系列ノ硝化物及之レヲ主トスル混和物（「ナイトロベンジン」、「ナイトロナフタリン」、「ナイトロリユオール」、「ピクリン酸」及ピクリン酸ヲ主トスル混和物ノ類）

火工品、實包、空包、藥筒、藥包、彈藥筒、丸藥若ハ爆藥ヲ裝塡シタル彈丸若ハ水雷、雷管、信管、爆管、門管、緩燃導火線（一尺ノ燃燒時高十秒以上ヲ要スルモノ）速燃導火線又ハ煙火其ノ他火藥若ハ爆藥ヲ使用シタル火工品但シ玩具用普通火工品ヲ除ク（工場法施行規則第六條ノ適用ニ付テハ本項但書ヲ削ル）

雷管又ハ信管ヲ裝置シタル導火線ハ雷管又ハ信管ト見做ス

四　病者及產婦ノ就業制限（第一項參照）

第四項　就業制限ニ關スル例外規定

一　概論　工場法規ニ例外規定ノ多キコトハ世論ノ批難ヲ受ケタル點ノ一ナリ、然レトモ大凡生產ノ業態多シト雖其ノ操業狀態ノ複雜且多端ナルコト工業ニ如クモノナカルヘシ。斯ノ如キ性質ヲ有スル工業ニ關シ規定ヲ設クルニ際シ、各業態ノ間ニ甚シキ不權衡ノコトナカラシムルト共ニ工業ノ現狀ニ對シ急激ナル變動ヲ與ヘサラントスルニハ、幾多ノ例外ヲ設クルヲ要スルハ良ニ已ムヲ得サルモノアリ。英國ノ如ク諸種ノ工業ニ對シ特殊ノ規定ヲ設クル立法例ニ於テモ尙數多ノ例外規定ヲ存スルヲ見ルモ、我國工場法規ニ例外規定ノ多キ必スシモ難スルニ足ラサルノミナラス却ツテ之ヲ是認スヘキ理由ノ存スルモノアルヘシ。

英獨諸國ノ立法例ニ稽フルニ(一)法第二條ニ關スル其ノ但書及同條第二項ノ例外規定（十歲以上十二歲未滿ノ者ノ就業）及(二)法第三條ニ關スル同條第二項ノ例外規定（業務ノ種類ニ依ル一般的時間延長）ノ如ク寬大ナル除外例ヲ認ムルコトナシ、然レトモ其ノ他ノ除外例ニ至リテハ孰レモ相當ノ範圍ニ於テ之ヲ認容セリ。

獨逸　ニ於テハ業務ノ非常ニ繁劇ナル場合ニ於テハ行政官廳ノ許可ヲ受ケ二週間以内ニ限リ十六歲以上ノ女子ノ就業時間ヲ十二時間迄延長スルコトヲ許サル、但シ一曆年内一事業主ニ對シテ其ノ事業ノ全部又ハ一部ニ付合計四十日以上ノ許可ヲ與フルコトヲ得スト爲シ、且上級官廳ノ特許ヲ得タルトキハ一回ノ日數ヲ二週間以上又一箇年ノ日數ヲ五十日以内ノ範圍ト爲スコトヲ得（營業條例第百三十八條甲）天災又ハ變災ニ依リ平常ノ操業ヲ休止シタルトキハ上級行政官廳ハ四週間ヲ限リ保護職工ノ就業時間、休日、休憩ニ關スル例外ヲ許スコトヲ得、四週間ヲ超ユルトキハ帝國宰相之ヲ許ス急迫ノ場合竝變災豫防ノ爲ニスル場合ニ於テハ下級行政官廳ハ二週間ヲ限リ其ノ例外ヲ許可スルコトヲ得（營業條例第百三十九條）

獨逸營業條例第百三十九條甲ハ尙聯邦參議院ニ左ノ如キ權限ヲ附與セリ

(一)（本問題ニ無關係ナルニ依リ省略）

(二)間斷ナキ火力ヲ用ヒ又ハ事業ノ性質上規則正シキ晝夜ノ操業ヲ要スル工場、各組ノ勞働時間ヲ均一ニ分ツコト能ハス又ハ就業カ一定ノ季節ニ制限セラレタル工場ニ對シテハ就業時間、及休憩時間ニ付テ例外ヲ許可スルコト（後段參照）

（院ノ公示シタル業務參照）

(三)業務ノ性質上又ハ職工ノ關係上利益ナリト認メタルトキハ、一定ノ營業ニ對シ幼者ノ爲ニ規定シタル休憩時間ヲ短縮シ又ハ之ヲ廢止スルコトヲ許可スルコト（同上）

(四)例年一定ノ時期ニ於テ勞働力ノ增加ヲ必要トスル事業ニ對シ、一曆年内四十日ヲ限リ一日ノ就業ヲ十二時間以内トシ、土曜日ニハ之ヲ八時間以内トシ且終業後ノ休憩時間カ連續十時間ヲ下ラサル範圍ニ於テ、夜業及休憩ニ關スル制限規定ノ例外ヲ許可スルコト、此ノ場合ニ於テハ其ノ休憩時間ハ午前十時ヨリ午後五時迄ノ時間ヲ包含スルコトヲ要ス（同上）

(五)原料ノ腐敗又ハ製品ノ不結果ヲ防ク爲夜業ノ必要アル事業ニ對シ、一曆年内六十日以内ヲ限リ前項ニ揭クル終業後ノ休憩時間ヲ一日八時間半迄減下シ得ヘキ制限ヲ以テ、夜業及休憩ニ關スル第百三十七條第一項乃至第四項ノ規定ニ付例外ヲ許可スルコト（同上）

第二號ノ場合ニ於ケル毎週ノ就業時間ハ十四歲未滿ノ幼者ニ對シテハ三十六

時間、十四歳以上十六歳未満ノ幼者ニ對シテハ六十時間、女子ニ對シテハ五十八時間ヲ超ユルコトヲ得ス、又夜業ハ二十四時間中十時間以内トシ且各組ニ分チテ交替就業スル場合ニ於テハ、其ノ各組ニ對シ一回若ハ數回ノ休息ヲ與ヘ、其ノ休憩時間作業及夜間業ハ毎週交替セシムヘシ

第三號ノ場合ニ於テハ各就業時間ノ間ニ一回若ハ數回ニ通計一時間以上ノ休憩時間ヲ與フルニ非サレハ幼者ヲ六時間以上使役スルコトヲ得ス

第四號ノ場合ニ於テハ一日ノ就業時間カ一箇年間ノ就業日ニ於ケル就業時間ヲ平均シ法定ノ制限ヲ超エサルトキハ一箇年間四十日以上五十日以内ノ範圍ニ於テ制限外ノ使役ヲ許スコトヲ得

聯邦參議院ノ決議ヲ經テ制定シタル諸規定ハ其ノ有効年限ヲ限ルコトヲ要シ、又特定ノ區域ヲ限リ公布スルコトヲ得、右ノ諸規定ハ帝國官報ニ於テ之ヲ公布シ且次期ノ帝國議會ニ之ヲ提出シ其ノ承認ヲ求ムヘシ

獨逸營業條例中ノ例外規定大凡右ノ如シ尙獨逸ニ於ケル此等例外規定ニ關スル解釋及實際上ノ取扱ヲ略述スレハ左ノ如シ

(一)　第百三十八條甲ニ依リ業務ノ非常ニ繁劇ナル場合ニ於ケル時間ノ延長

(甲)　聯邦諸州中「非常ニ繁劇ナル場合」ノ認定ニ關シ認定標準ヲ示スモノハ「パイエルン」、「ヴユルテンブルク」及「バーデン」等ニシテ其ノ內容ハ概ネ大差ナク左ニ揭クルモノハ其ノ大要ナリ。

(1)　一年ノ內一定ノ期間ニ於テ業務ノ特ニ繁忙ナル業務(Saisonindustrie)(製造高豫知シ難ク、爲ニ非常ノ繁忙ヲ來ス場合ニ限ル)

(イ)　夏期及冬期ノ需要品ヲ製造スルモノ

諸種ノ纖維工業、乾菓子、裝飾品、刺繡、色染、印刷、麥藁帽子工場等

(ロ)　祭日ノ用品ヲ製造スルモノ

耶蘇降誕祭、懺悔祭、復活祭、寺院開基祭等ノ祭日ニ用フル品物ノ製造工場

(ハ)　砂糖製品、「チコレート」、「ビスケツト」菓子、板紙細工、假面、玩具、香水、寶石、書籍印刷、製本及造花等ノ諸工場

(2)　原料カ腐敗ノ虞アルモノ、隨時ノ注文ニ依リテ製造スルモノ、原料ノ供給ノ豫定セラレサルモノハ(1)ニ準ス

(3)一定ノ季節ノミニ作業ヲ爲ス季節工業(Kampagnie-industrie)
甜菜糖、キクヂサ、甘藍及菓實ノ罐詰、魚類ノ燻製、露天ノ晒場、諸種ノ煉瓦工場
(4)季節工業以外ノ工業ニ付テハ非常ニ繁忙ナルコトカ豫知シ難キ場合及重大ナル經濟上ノ事由ニ依ル場合ニ限ルモノトス、此ノ種ノ事由アリト認ムヘキ重ナル場合ヲ例示スレハ左ノ如シ
(イ)原料カ腐敗又ハ變質ノ虞アルモノニシテ其ノ供給カ非常ニ多キトキ、例ヘハ
肉ノ罐詰
澱粉工場ニ於テ馬鈴薯カ腐敗ノ虞アルトキ
(ロ)交通機關ノ狀況ニ依ルモノ
寒氣ノ急ニ加ハリタル爲速カニ航海ヲ終了スルノ必要アリ、從テ貨物ヲ豫定ヨリモ早ク積込ム必要アルトキ
(ハ)公益關係ニ依ルモノ
航海カ意外ニ早ク從テ船舶ニ積込ム貨物ヲ急速ニ調製スル必要アルトキ
軍事上ノ必要ニ依リ多量ノ軍需品ヲ供給スル必要アルトキ
鐵道ノ必要ニ依リ時間表ヲ急速ニ印刷スルノ必要アルトキ
(ニ)豫期セサル障碍ニ因リ引渡期限ニ間ニ合ハサルトキ
(ホ)注文品カ引渡ノ延期ヲ許サス而シテ他ニ注文品ヲ調達スルノ途ナキトキ、但シ注文引受ノ當時ヨリ引渡ノ不能ナルコトヲ豫知シ得ル場合ハ此ノ限ニ在ラス

右ハ單ニ例示ニ過キスト雖、一般ニ事業ノ非常ナル繁忙カ工業主ノ意思ニ依ル場合又ハ其ノ所置ノ不適當ナルニ因ルモノニシテ、且工業主ノ利害ノミ、關係シ公益又ハ他人ノ重大ナル私益ニ關係セサルトキハ許可ヲ與ヘサルヘキモノトス

(乙)普露西ニ於テハ本條ノ適用ニ付テハ斯ノ如キ標準ヲ示スハ却テ誤解ヲ生スルノ虞アリ、且日常百般ノ業態ニ對シ豫メ標準ヲ一定スルカ如キハ到底不可能ニシテ、寧ロ當該官廳ノ適當ナル認定ニ一任スヘキモノトシテ斯ノ如キ標準ヲ定メス

(二)第百三十九條ニ依リ實際上天災又ハ變災トシテ取扱ハルルモノヲ例示スレハ左ノ如シ

水ノ缺乏、洪水、大風、地震、土地ノ陷落、火事、工場ノ崩壞、爆發(「ターピン」、蒸氣機關又ハ主要ナル動力傳導裝置ノ破損等

天災又ハ變災ハ必スシモ工場全部ニ起ルコトヲ要セス其ノ一部分ニ起リタル場合ヲモ含ム

(三)第百三十九條甲ニ依リ聯邦參議院ノ公示シタル業務左ノ如シ。(同條第一項中)

(二)ニ付テハ　目下指定業務ナシ

(三)ニ付テハ　石炭坑、亞鉛及鉛ノ精鍊場、硝子及煉瓦工場、製糖、製材及鋼材鍛造工場ニ對シ特別規定ヲ設ケタリ

(四)ニ付テハ　例年一定ノ時期ニ於テ勞働力ノ增加ヲ必要トスル事業卽チ乾酪製造業、牛乳殺菌業、蠣及野菜ノ貯藏業(此ノ規定ハ「ベルン」會議ノ結果第五項ノ場合ノ外適用ナキコトトナレリ)

(五)ニ付テハ　原料ノ腐敗又ハ製品ノ不結果ヲ防ク爲夜業ノ必要アル事業卽チ

乾酪製造業、牛乳殺菌業、蠣及野菜ノ罐詰及貯藏、魚類ノ貯藏業

英國ニ於テモ保護職工ノ就業制限ニ對シ諸種ノ例外ヲ設ケタリ、卽チ工場法第四十九條乃至第五十三條ニ於テ保護職工ノ就業時間ニ關スル例外規定ヲ設ケ、第五十四條乃至第六十條ニ於テ夜業ニ關スル特別規定ヲ設ク、其ノ大要ハ左ノ如シ

(甲)就業時間ノ延長

(一)女子ヲシテ非常ニ繁忙ナル業務ニ就カシムル場合

(1)此ノ除外例ヲ適用スヘキ非纖維工場、手工場又ハ其ノ一部及倉庫業ニ於テハ、土曜日又ハ之ニ代ルヘキ日以外ノ日ニ於テ、女工ノ就業時間ヲ午後六時ヨリ午後八時又ハ午前七時ヨリ午後九時、又ハ午前八時ヨリ午後十時迄ト爲スコトヲ得但シ左ノ條件ニ從フ可シ

(イ)女工ニハ其ノ就業時間中ニ於テ二時間以上ノ食事時間ヲ與ヘ且其ノ中ノ半時間ハ午後五時以後タル可シ且

(ロ)一週間ニ付三日ヲ超ヘテ前項規定ノ全時間女工ヲ使役スルコトヲ得ス

(ハ)定時間外ノ就業ハ工場又ハ手工場ニ在リテハ十二ケ月ニ付合計三十日ヲ超ユルコトヲ得ス、而シテ此ノ三十日ノ計算ニハ女工ノ定時間外ニ就業シタル總テノ日ヲ合算ス可シ(時間延長ニ付テハ第百五十一條ノ特別規定ニ依リ職工名簿ヲ區別スル等一定ノ條件ニ依リ工場ノ一部ヲ獨立セル工場ト看做サルルコトアリ)

(2)此ノ除外例ハ附則第二ニ特定セル非繊維工場、手工場及其ノ一部竝倉庫業ニ之ヲ適用ス、但シ手工場又ハ其ノ一部ニ於テ少年工又ハ幼年工ヲ使役セサルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス(女工ノミヲ使用スル手工場ニ付テハ第二十九條ノ特別規定アリ)

(3)内務大臣カ非繊維工場、手工場又ハ其ノ一部ニ於テ製造及手工ノ原料氣候ノ爲敗壞ノ虞アルカ、同歸的ノ季節若ハ意外ノ情況ニ依リ業務ノ繁忙ヲ來シタル爲、此ノ除外例ニ規定セル方法ヲ以テ女工ヲ使役スル必要ヲ認メ、且之カ爲ニ其ノ健康ヲ害セサルコトヲ認メタルトキハ、特別命令ニ依リテ右ノ工場、手工場又ハ其ノ一部ニ此ノ除外例ノ適用ヲ許可スルコトヲ得

附則第二及内務大臣ノ特別命令左ノ如シ

附則第二

(1)製造加工ノ原料カ天候ノ爲敗壞スル虞アル非繊維工場及手工場

(イ)亞麻打柔工場
(ロ)煉瓦又ハ無飾瓦ノ製造工場
(ハ)露天ニ於テ作業スル製綱場
(ニ)露天晒布又ハ土耳其赤染ヲ行フ工場
(ホ)膠製造場

(2)同歸的ノ季節ニ依リ業務ノ繁忙ヲ來ス非繊維工場及手工場

(イ)活版印刷工場
(ロ)製本工場
(ハ)石版工場
(ニ)機械罫線工場
(ホ)薪木截斷場

(ヘ)「ボンボン」(菓子ノ名)及降誕祭贈物製造場
(ト)暦本製本場
(チ)戯畫(「ヴアレンタイン」)製造場
(リ)狀袋製造場
(ヌ)清涼飲料水製造場
(ル)骨牌製造場
(3)豫見スヘカラサル事情ニ依リ注文遽ニ輻輳スル虞アル業務ヲ行フ非纖維工場及手工場
(イ)着物仕立場
(ロ)室內用掛布製造場
(ハ)造花工場
(ニ)玩具箱製造場
(ホ)「ピスケツト」製造場
(ヘ)請負染色業

(4)工場(纖維工場又ハ非纖維工場)又ハ手工場ノ一部ニシテ倉庫トシテ使用セラレ製造工程ヲ行フコトナク專ラ物品ノ研磨、整理、包裝又ハ荷造ヲ爲スモノ

一九〇八年內務大臣ノ特別命令　左ノ業務ニ就カシムル場合ニ限リ女子ヲシテ本條ニ依リ一般ノ時間制限ヲ超エ就業セシムルコトヲ得、此ノ場合ニ於テハ作業場ノ氣積一人ニ付四百立方呎以上タルコトヲ要ス

(1)板紙製造
(2)壁紙以外ノ紙ノ色附及「エナメル」附
(3)紙及書翰袋ノ浮出印刷
(4)郵便切手、郵便端書及切手付狀袋
(5)「クリスマス」及新年用「カード」及「コサック」(菓子名)製造
(6)肉「パイ」、潰肉、及「クリスマス」腸詰ノ製造、
(7)麥酒ノ瓶詰
(8)清涼飲料水瓶用箱ノ製造
(9)菓實ノ罐詰用瓶ノ洗滌

(10) 牛酪ノ製造及混和竝乾酪ノ製造
(11) 煙火ノ製造
(12) 糸又ハ布ノ艶出ハ仕上、鉤著、疊又ハ包裝（但シ「ランカシアイア」及「チエシヤイア」ニテハ此等ノ作業ノミヲ行フ工場ニ適用ス
(13) リボン」織業ニ附屬シテ行フ撚絲、絲卷、又ハ管卷
(14) 卓布、床布其ノ他家庭用布ノ製造及之ニ附屬スル作業
(15) 花束、花環其ノ他生花生葉ヲ材料トスル物品ノ製造

(二) 女子ヲシテ腐敗ノ虞アル物品ヲ取扱フ業務ニ就カシムル場合

(1) 此ノ除外例ヲ適用スヘキ工場、手工場及其ノ一部ニ於テハ、土曜日又ハ之ニ代ルヘキ日ノ外ノ日ニ於テ女工ノ就業時間ハ、午前六時ヨリ午後八時又ハ午前七時ヨリ午後九時迄ト爲スコトヲ得、但シ左ノ條件ニ從フ可シ
(イ) 食事時間二時間以上ヲ與ヘ且其ノ內半時間ハ午後五時以後タル可シ
(ロ) 女工ハ一週間ニ付三日ヲ超ヘテ前項規定ノ全時間使役スルコトヲ得ス
(ハ) 定時間外ノ就業ハ工場又ハ手工場ニ在リテハ十二ケ月內ニ合計五十日ヲ超ユルコトヲ得ス且此ノ五十日ノ計算ニハ女工ノ定時間外ニ就業シタル總テノ日ヲ合算ス可シ

(2) 此ノ除外例ハ次ニ揭ケタル工場、手工場及其ノ一部ニ之ヲ適用ス

(イ) 菓物罐詰製造所
(ロ) 魚類ノ罐詰及晒乾
(ハ)「コンデンスミルク」製造所

(3) 內務大臣カ非纖維工場、手工場又ハ其ノ一部ニ於テ製造及手工ノ原料タルヘキ物品及材料カ久シク保存ニ堪ヘサルコトヲ理由トシテ、此ノ除外例ニ規定スル方法ヲ以テ女工ヲ使役スルノ必要ヲ認メ、且之カ爲ニ其ノ健康ヲ害セスト認メタルトキハ、特別命令ニ依リテ右ノ工場、手工場又ハ其ノ一部ニ此ノ除外例ノ適用ヲ許可スルコトヲ得（此ノ命令ハ未タ發布セラレス）

(三) 保護職工ヲシテ仕事ヲ完成スルノ要アル業務ニ就カシムル場合

(1) 此ノ除外例ヲ適用スヘキ工場、手工場又ハ其ノ一部ニ於テ、女工少年工又ハ幼年工ノ就業時間終了ノ際製造工程完了セサルトキハ、土曜日又ハ之ニ代

ヘタル日以外ノ日ニ於テ三十分以内就業時間ヲ延長スルコトヲ得

前項ノ延長時間ハ女工、少年工又ハ幼年工ノ一週間ニ於ケル就業時間ノ全數ニ加算シテ本法ノ許可シタル時間數ヲ超ユルコトヲ得ス

(2)此ノ除外例ハ次ニ掲ケタル工場及手工場ニ之ヲ適用ス

(イ)晒布所及染物所

(ロ)活版所

(ハ)少年男工ヲ夜業ニ使役セサル製鐵所

(ニ)少年男工ヲ夜業ニ使役セサル鑄造所

(ホ)少年男工ヲ夜業ニ使役セサル製紙所

(3)内務大臣カ非繊維工場、手工場又ハ其ノ一部ニ於テ、工業ノ性質上製造工程ノ完了スル時間ヲ確定スルコトヲ能ハサルモノニ付、此ノ除外例ヲ適用スルモ女工、少年工及幼年工ノ健康ヲ害スルコトナシト認メタルトキハ、特別命令ヲ以テ此ノ除外例ヲ適用スルコトヲ得(此ノ命令ハ未タ發布セラレス)

(四)女子及少年工ヲシテ水力ヲ使用スル工場ニ於テ就業セシムル場合

内務大臣カ水力ヲ使用スル工場ニ於テ旱魃又ハ霖雨ノ爲事業ヲ中止スルノ虞アリト認メタルトキハ、適當ナル條件ヲ設ケ午前六時ヨリ午後七時迄女工、少年工ノ使用ヲ許可スヘキ特別命令ヲ發スルコトヲ得、但シ本條例ニ規定シタル食事時間ヲ減少シ又ハ土曜日若ハ之ニ代ヘタル日ニハ使用スルコトヲ得ス。又旱魃ノ爲中止ノ虞アルトキハ、霖雨ノ爲中止ノ虞アルトキハ十二箇月ニ付九十六日ヲ、霖雨ノ爲中止ノ虞アルトキハ十二箇月ニ付四十八日ヲ超ヘテ此ノ除外例ヲ適用スルコトヲ得ス、又如何ナル場合ニ於テモ前十二箇月間ニ損失シタル時數ヲ超ユルコトヲ得ス(一八八二年發布内務省令ハ水力ノミヲ使用スル工場ニ限リ、一定ノ條件ヲ付シ最近十二箇月内ニ損失シタル時間ヲ恢復スル爲、本條ニ依ル時間延長ヲ許ス)

(四)女子及少年工ヲシテ土耳古紅色染業及屋外晒布業ニ就カシムル場合

土耳古紅色染ノ工程ニ中ニ起ル不意ノ自然燃燒ニ依リ、又ハ屋外ニ於テ晒布作業中天候ノ異常ナル影響ヲ受ケテ生スル損害ヲ防止スル爲必要ナル場合ニ於テハ、土曜日又ハ之ニ代ヘタル日ヲ除キ女工又ハ少年工ヲ就業時間以外ニ使用スルコトヲ得

乙夜業

(一)十四歳以上ノ少年男工ノ夜業

(1)此ノ除外例ヲ適用スヘキ工場及手工場ニ於テハ左ノ條件ヲ遵守スルトキハ十四歳以上ノ少年男工ヲ夜業ニ使用スルコトヲ得

(イ)就業時間ハ引續キ十二時間ヲ超ユヘカラス始業終業ノ時刻ハ本條例ノ規定ニ從ヒタル掲示ニ依ルヘシ

(ロ)食事時間ニ關スル本篇ノ規定ハ其ノ時刻ニ關シ必要ナル變更ヲ爲スコトヲ得ルモ尙之ヲ遵守スヘシ

(ハ)夜業ニ使用スル少年男工ハ就業時間ノ前後十二時間以内ニ之ヲ使用スルコトヲ得ス

(ニ)二週間ニ付六夜以上、又ハ鎔鑛業若ハ製紙業ニ於テハ七夜以上使用スルコトヲ得ス、但シ職工ヲ三組ニ別チ交替ニ就業セシムル場合ニ於テ各組トモ引續キ二交替分ノ間隔ヲ置キ就業スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

(ホ)鎔鑛所、製鐵所、活版所又ハ製紙場ニ於テハ本法附則第七第一編(第二節參照)ニ記載セル工場ノ業務ニ關スル作業ノ外ハ夜間就業セシムルコトヲ得ス

(2)土曜日ノ就業時間及少年工ヲ全祭日又ハ半祭日ニ使用スルコトニ關シテ規定セル本法ノ規定ハ此ノ除外例ニ依リ晝夜交替ニ使用スル少年男工ニハ之ヲ適用セス

(3)此ノ除外例ハ次ノ工場ニ之ヲ適用ス

(イ)鎔鑛所

(ロ)製鐵所

(ハ)活版所

(ニ)製紙場

(4)内務大臣カ非纖維工場、手工場又ハ其ノ一部ニ於テ其ノ事業ノ性質上十六歳以上ノ少年男工ヲシテ徹夜ノ就業ヲ爲サシムルコトヲ要シ、且此ノ使用カ少年男工ノ健康ニ害ナキコトヲ認メタルトキハ、特別命令ニ依リ右工場、手工場又ハ其ノ一部ニ十六歳以上ノ少年男工ノ使役ヲ許可スルコトヲ得(一九〇三年發布内務省令ニ依リ一定ノ條件ヲ以テ十六才以上ノ少年男工ノ夜業ヲ許サルル工場下ノ如シ。(一)發電所(二)陶器工場(三)反射爐(四)鐵ノ薄板及鐵線亞鉛

（鑛工場）

(二)硝子工場ニ於ケル十四歳以上ノ少年男工ノ夜業

硝子製造業ニ在リテハ左ノ條件ヲ遵守スルトキハ其ノ事業ニ慣行トナレル時刻ニ十四歳以上ノ少年男工ヲ使用スルコトヲ得

(イ)一週間ニ付總計六十時間ヲ超ユルコトヲ得ス

(ロ)就業時間ハ就業回數カ毎週四回ナレハ十四時間、五回ナレハ十二時間、六回ナレハ十時間ヲ超ユルコトヲ得ス、慣習ニ從ヒ回數尚多キトキハ一回ノ就業時間ハ尚少キヲ要ス但シ毎週ノ回數ハ九回ヲ超ユルコトヲ得ス

(ハ)一回ノ就業時間以上ノ時間ヲ隔ツルニ非サレハ使用スルコトヲ得ス

(ニ)半時間以上ノ食事時間ヲ其ノ間ニ置クコトナクシテ五時間以上引續キ使用スルコトヲ得ス

(ホ)日曜日ニハ使用スルコトヲ得ス

(三)新聞紙ノ印刷工場ニ於ケル十六歳以上ノ少年男工ノ夜業

一週間ノ內二夜以內新聞ノ印刷業ヲ營ム工場又ハ手工場ニ於テハ十六歳以上ノ少年男工ヲ使用スル場合ニ於テハ一週間ニ付二夜以內ヲ限リ成年男工ト同樣ニ夜業ニ使用スルコトヲ得、但シ二十四時間ニ付十二時間以上使用スルコトヲ得ス、前記ノ外就業時間ノ延長及夜業ニ關スル例外規定ノ適用ヲ受ク場合ニ對スル設備其ノ他ニ關スル條件ヲ定メタルモ玆ニハ之ヲ略ス（工場及手工場法第五十八條）

(丙)事變ニ際シ公益上必要アル場合ニ於ケル特別規定（工場及手工場法第百五十條）

事變ニ際シ公益上必要アルトキハ、內務大臣ハ命令ヲ以テ期間ヲ限リ其ノ指定シタル範圍內ニ於テ、官立工場及手工場若ハ命令ニ依リテ特定セル契約ノ下ニ政府ノ爲ニ就業スル業務ヲ營ム工場又ハ手工場ニ對シ、本法ノ適用ヲ除外スルコトヲ得

以上記述スル所ニ依リ英獨諸國カ何レモ相當ノ範圍ニ於テ除外例ヲ認メ、法令ノ規定ヲシテ業務ノ實際ニ適合セシメツツアルコトヲ知ルニ足ルヘシ、我工場法ニ於テハ時間ノ原則的制限ノ基準ヲ工場中最モ長時間ニ亙ルモノニ採リ、之ヲ「十二時間」ト爲シタルヲ以テ別ニ幾多ノ例外規定ヲ設クト雖、此等ノ規定ハ可成之ヲ

嚴正ニ解釋スヘキハ當然ニシテ、萬一之ヲ廣義ニ解釋セハ工場法ハ遂ニ何等時間ノ制限ヲ定メタルモノニ非ルモノト爲ルヘシ。況ンヤ英國及獨逸ノ例外規定カ女子ト幼少年者トヲ區別シ、幼少年者ニ付テハ例外規定ノ及フ範圍ヲ狹カラシムルニモ拘ラス、我工場法ノ例外規定ハ悉ク保護職工全般ニ及フモノナルニ於テヲヤ、之レ我工場法ノ施行上工業主ニ於テ最モ留意スヘキ事項ノ一ナリト信ス、左ニ我工場法ノ規定ニ論及スヘシ。

現行法ノ例外規定　(一)年齡制限(法第一項二條)ニ關スルモノ(二)就業時間(法第三條)ニ關スルモノ(三)中夜業禁止(法第四條)ニ關スルモノ及(四)前記三箇條ニ對スル一般的例外ノ四種トスルコトヲ得ヘク左ニ其ノ大要ヲ說明スヘシ

二年齡制限(法第二條)ニ關スル例外

(一)法第二條ニ原則トシテ十二歲未滿ノ者ノ工場勞働ヲ禁止シタリト雖、法律ノ實施ト共ニ直ニ十二歲未滿ノ者ノ使用ヲ禁止スル時ハ、十二歲未滿ノ者ニシテ現ニ就職中ノモノハ之ヲ解雇スルノ已ナキニ至リ、職工及工業主中意外ノ不便ヲ感スルモノナキヲ保セサルヲ以テ、本法施行ノ際十二歲以上ノ者ニシテ現ニ使用中ノ者ヲ引續キ使用スル場合ニ限リ其ノ使用ヲ繼續スルコトヲ認メタリ。(法第二條第一項但書)此ノ場合ニ於テハ則第三十八條ニ依リテ地方長官ニ屆出ツルコトヲ要ス、而シテ其ノ業務ノ種類ニ付テハ特ニ輕易ナル業務ニ就カシムヘシトノ規定ナシト雖、則第五條及第六條ニ揭クル危險又ハ有害ナル業務ニ就カシムルコトヲ得サルハ勿論トス、此ノ例外規定ハ工業主ノ既享ノ自由ヲ尊重スルノ趣意ニ出ツル一時ノ經過的ノ規定トス。

(二)十歲以上十二歲未滿ノ者ノ就業ノ許可　十歲以上ノ者カ危險又ハ衞生上有害ナラサル場所ニ於テ、特ニ輕易ナル業務ニ從事スル場合ハ必スシモ其ノ就業ヲ絕對的ニ禁止スルノ必要ナキ場合アルヘキヲ思ヒ、法第二條第二項ハ行政官廳ハ作業ノ種類、場所其ノ他ニ付條件ヲ附シ十歲以上ノ者ノ使用ヲ許可スヘキコトヲ定メタリ、而シテ十歲以上十二歲未滿ノ職工ヲ新ニ使用セントスルモノハ、則第二條ニ依リ地方長官ニ許可ノ申請ヲ爲スコトヲ要ス、而シテ此ノ場合ニ於テ地方長官ハ大正五年農商務省訓令第十號第一條ニ依リ

(一)菓子、卷煙草、黃燐ヲ使用セサル燐寸(黃燐ヲ使用スル燐寸ニ付テハ工場法施行後二年間ヲ限リ之ヲ輕易ナル業務トシテ

取扱フコトヲ妨ケス）、刷子又ハ鉦鈸ノ製造工場ニ於ケル函詰、綴附、包裝又ハ標紙ノ貼付

二紙函又ハ燐寸函製造工場ニ於ケル函貼

三印刷製本又ハ製紙工場ニ於ケル紙ノ折疊又ハ帶封掛

四生絲製造工場ニ於ケル屑物ノ處理

五繊物工場ニ於ケル筬通、綜絖通、絲ノ手繰又ハ管卷

ニ限リ又ハ同第二條ニ依リ地方ノ狀況ヲ斟酌シ、第一條ニ揭クルモノノ外豫メ農商務大臣ノ許可ヲ受ケタル一定ノ業務ニ限リ、其ノ實況ヲ審査シタル上差支ナシト認メタル時ハ、同第三條ニ依リ少クトモ左ノ條件ヲ附シテ之レヲ許可スルモノトス。

(一)一日ノ就業時間ハ六時間ヲ超エサルコト

(二)一日ノ就業時間カ三時間ヲ超ユルトキハ就業時間中ニ三十分以上ノ休憩時間ヲ設クルコト

(三)毎月四回以上ノ休日ヲ設クルコト

業務其ノ物ハ輕易ナリト雖工場設備其ノ他四圍ノ狀況カ危害ヲ生シ又ハ衞生上有害ノ虞アルモノハ、則第五條及六條ニ該當セサル場合ト雖十二歳未滿ノ者ヲ使用スルコトハ法ノ精神ニ副ハサルカ故ニ、斯ノ如キ場合ニ於テハ地方長官ハ本條ノ許可ヲ與ヘス、又前記ノ外尚作業場ノ設備機械ノ危險豫防裝置其ノ他諸種ノ條件ヲ附シテ之レヲ許スコトアルヘシ。

地方ノ狀況ニ依リ輕易ナル業務トシテ特定ノ地方長官ノ申請ニ對シ、農商務大臣ノ既ニ認可ヲ與ヘタルモノハ製藥、化粧品、化粧石鹼工場ニ於ケル繰詰、包裝標紙ノ貼付、麻眞田工場ニ於ケル管卷、紙卷煙草用紙吸口製造工場ニ於ケル吸口剌ノ業務等ナリ。

三時間制限（法第三條）ニ關スル例外

(一)法第三條第二項ニ依ル例外　法第二條ハ保護職工ノ就業時間ハ十二時間ニ制限スルヲ原則トスレトモ、第二項ニ於テ業務ノ種類ニ依リ施行後十五年間ヲ限リ就業時間ヲ二時間以內延長シ得ルノ權限ヲ農商務大臣ニ附與シタリ、惟フニ十二時間勞働ノ規定ニ依リ著シキ苦痛ヲ感スル工場ハ尠カルヘシト雖、製絲業及繰

物業業ノ如キ從來ノ慣行上往々十五六時間以上ニ亘ル作業ヲ爲スモノナキニ非ス。本條ノ除外例ハ此ノ種ノ事業ニ對シテハ俄カニ就業時間ヲ短縮スル時ハ其ノ影響輕カラサルヘキヲ認メタルニ依ルヘシ、歐米各國ノ立法例中本條ノ如キ寬裕ナル規定ヲ設ケタルモノナシト雖而カモ第一期ノ立法トシテハ粗ヨリ密ニ入リ寬ヨリ嚴ニ移ルハ誠ニ已ムヲ得サルナリ、而シテ則第三條カ器械生絲製造、輸出絹織物、織物及編物ニ對シ認メタル除外規定左ノ如シ

器械生絲製造ノ業務及地方長官ノ告知シタル工場ニ於ケル輸出絹織物ノ業務ニ付テハ工業主ハ十五歲未滿ノ者及女子ノ一日ノ就業時間ヲ工場法施行後五年間ハ十四時間迄延長スルコトヲ得

織物及編物ノ業務ニ付テハ工業主ハ十三時間迄延長スルコトヲ得

工場法施行後二年間ハ十四時間迄延長スルコトヲ得

器械生絲製造ノ業務トハ動力ニ依リ運轉スル裝置ニ依リ生絲ノ製造ヲ營ムモノヲ謂ヒ、輸出絹織物ノ業務ニ付テハ地方長官ノ告知シタル工場ニ於ケルモノニ限リタルハ、輸出絹織物ノ製織ヲ爲スヤ否ヤヲ明確ニ決定セムコトヲ期シタルニ外ナラス、編物中ニハ「メリヤス」ノ編製ヲ包含スレトモ麻眞田紐ノ編製ヲ含マス、而シテ何レモ業務トアルカ故ニ同一工場內ニ於テ前記以外ノ業務ヲ營ムモノアル場合ニ於テハ時間ノ延長ハ此ノ列記ノ業務ノミニ適用アルモノトス、但シ此ノ列記業務ノ準備工程タル業務カ列記ノ業務ト同一工場內ニ於テ營マルル場合ハ之ヲ列記業務ノ一部ト見做シテ差支ナカルヘシ、例ヘハ生絲製造工場ニ於テ生絲ノ揚返ノ業務ヲ行ヒ、織物工場內ニ於テ主トシテ其ノ織物ニ使用スル目的ヲ以テ撚絲業ヲ營ムカ如キ場合ニ於テハ、揚返ハ生絲製造業ノ一部、撚絲ハ織物業ノ一部ト見做シテ差支ナカルヘシ。

抑工場法第三條第二項ノ規定ノ存スル所以ヲ考フルニ、工場法制定ノ當時ニ於テ工場法第三條ヲ以テ就業時間ヲ十二時間ニ制限セントスルヤ、當時十三四時間ノ就業ヲ普通トシ甚シキハ十七時間ノ長キニ渉リテ就業ノ慣習アル生絲業者及羽二重業者其ノ他ノ輸出絹織物業者ヨリ猛烈ナル反對アリ、若シ十二時間制限ノ原則ヲ貫徹セシメントセハ法案全體ノ運命ヲモ危カラシメントノ形勢ヲ誘致スルノ恐アリ、已ムヲ得ス此ノ種ノ業務ニ限リ十二時間ノ原則ニ對シテ二時間ノ延

長ヲ認ムルノ趣旨ニ外ナラス、從テ第三條第二項ノ規定ニ付テハ綿織物ハ其ノ恩典ニ浴スヘキモノニ非ス、然ルニ工場法施行期日ノ眼前ニ迫リ施行令及施行規則ノ發布ノ將ニ近キニ在ラントスルヤ、時恰カモ歐洲戰爭ノ影響ニ依リ我國絹織物業者ハ豫期セサル多量ノ註文ヲ受ケ業務繁忙ヲ極メ、我綿織物業界ハ過去數年ノ不況ノ域ヲ脫シテ玆ニ一大飛躍ヲ爲サントスルノ時期ニ際會シタリ、此ノ時ニ方リテ工場法ノ施行ニ依リ就業時間ヲ制限セラルル時ハ既ニ契約履行上ノ支障ヲ生スルヲ以テ、法第三條第二項ニ依リ就業時間延長ノ恩典ニ浴セムコトヲ陳情セリ、元來織物業殊ニ絹織物業ハ紡績業ト相俟テ粉塵多ク又濕氣ノ甚シキモノアリ、且主トシテ女子ヲ使用シ職工ノ結核其ノ他ノ疾患ヲ患フルモノ比較的多キヲ以テ工場法ノ最モ嚴格ナル適用ヲ必要トスル種類ノ工業ナリ、諸外國ニ於テモ繊維工業ニ就テハ特ニ細密ナル規定ヲ設クルモノ多シ、故ニ當局者ニ於テハ可成當業者ノ主張ヲ撤回セシメムコトニ努力シタリト雖、若シ此ノ際例外規定ヲ認ムルコトナク法律施行ノ時ニ於テ强テ法令ノ制限ヲ勵行セントスルトキハ多數ノ違反者ヲ出スノ虞モナキニ非ス、而シテ工場法施行ノ初期ニ於テ多クノ違反者ヲ檢擧シ徒ラニ事端ヲ繁カラシムルカ如キハ好マシカラス、又法ノ明文ハ其ノ儘ト爲シ法ノ運用上ニ手加減ヲ加ヘ法規ニ違反スルモノヲ默許スルカ如キハ固ヨリ爲スヘキニ非ス、遂ニ工場ノ實情ト稀有ナル時局ノ影響トニ鑑ミ繊物及編物業ニ對シテ二箇年ヲ限リ就業時間ヲ許可スルコトヲ認容シ、則第三條第二項ニ之ヲ明規スルニ至リタルモノナリト謂フ。

（二）臨時必要アル場合（法第八條第三項）　工場ノ業務臨時多忙ニシテ就業時間ヲ延長スル必要アル時ハ豫メ行政官廳ニ屆出テ、一月ニ付七日ヲ超エサル期間就業時間ヲ二時間以內延長スルコトヲ得、臨時必要トハ現實ニ注文輻輳シテ且人員增加ノ困難ナル場合ヲ含ムヘシト雖見越製造ニ依リテ多忙ナル場合ヲ含マサルヘシ、而シテ必要ノ有無ハ單ニ工場主ノ認定ニ依リテ決定セラルルモノナルカ故ニ、假令屆出ヲ爲シタル場合ト雖、若シ工場主ノ認定ニシテ不當ナル場合ハ法第二十條ノ制裁ヲ免ルルヲ得サルカ故ニ其ノ濫用ハ深ク之ヲ愼マサルヘカラサルナリ。

一月ニ付七日ヲ超エサル期間トハ連續シタル「期間」ニシテ、數回ニ區分シ之ヲ合

算スルコトヲ得サルモノト解スルヲ可トスヘシ。又工場ノ一部ニ付就業時間ノ延長ヲ行フコトヲ得ルヤ、英、獨ノ立法例ハ孰レモ明文ヲ以テ工場ノ一部ニ付時間延長ヲ爲シタルトキハ之ヲ全部ニ爲シタルモノト看做ス（此ノ點ニ關スル英國法ノ工場分割ノ便方ニ付テハ既述ノ如シ）我現行法ハ別ニ明文ヲ設ケサルモ立法ノ精神解釋トシテ之ヲ許ササルモノト解スヘキモノトス。

(三)季節ニ依リ繁忙ナル事業（法第八條第四項）　季節ニ依リ繁忙ナル事業ニ付テハ工業主ハ一定ノ期間ニ付豫メ地方長官ノ認可ヲ受ケ、其ノ期間中一年ニ付百二十日ノ割合ヲ超エサル限リ就業時間ヲ一時間以內延長スルコトヲ得、季節ニ依リ繁忙ナル事業トハ所謂季節工業ニシテ自然ノ天候ニ依リテ支配セラレ原料其ノ他ノ關係ニ依リ一年中ノ一定ノ期間特ニ繁忙ナル業務ヲ云フ、而シテ此ノ要件ニ適合スルモノト認ムヘキモノ概ネ左ノ如シ。

(イ)生絲製造業

(ロ)製茶業

(ハ)果物ノ罐詰ニ關スル業務　尙玉蜂貝、蠣、鰻、彌蛤貝、牡蠣ノ罐詰及松茸ノ罐詰ノ業務モ亦季節ニ依リ繁忙ナルモノト認メラル。

一年ニ付百二十日ヲ超エサル割合トハ、繁忙ナル期間ニ對スル割合ノ義ナレハ約三分ノ一ノ期間中トノ意ナリ、此ノ期間中一日ノ就業時間ヲ一時間宛延長スルコトヲ許サルルモノトス、但シ此ノ場合ニ於テハ其ノ認可ヲ受ケタル期間即チ繁忙ナリトセラレタル期間中ハ、法第八條第三項ニ依リ臨時必要アルノ故ヲ以テ一箇月七日ヲ超エサル期間二時間ノ延長ヲ爲スコトヲ得ス。

四中夜業禁止（法第四條）ノ例外　法第四條ハ原則トシテ保護職工ヲシテ午後十時ヨリ午前四時迄ノ間ニ於テ深夜ノ勞働ニ從事セシムルコトヲ禁止ス、而シテ中夜勞働禁止ノ必要ナル所以ハ已ニ縷述セルカ如シ、然リト雖此ノ規定ニモ亦例外アリ左ノ如シ。

(一)法第五條ノ業務　本條ハ一時ニ作業ヲ爲スコトヲ必要トスル業務ヲ規定ス、元來幼少者及女子ノ夜間勞働ハ之ヲ禁止スヘキモノナリト雖、工業ノ性質上夜間

勞働ヲ爲スニ非サレハ其ノ事業ヲ廢止スルノ止ムナキモノ若ハ廢止スルニ至ラストスルモ技術上顯著ナル障害ヲ受クルモノニ對シテハ夜業ヲ爲スノ特例ヲ認ムルヲ妥當トス、是レ卽チ法第五條カ

一一時ニ作業ヲ爲スコトヲ必要トスル特種ノ事由アル業務ニ就カシムルトキ

二夜間ノ作業ヲ必要トスル特種ノ事由アル業務ニ就カシムルトキ

三晝夜連續作業ヲ必要トスル特種ノ事由アル業務ニ職工ヲ二組以上ニ分チ交替ニ就業セシムルトキ

ニ關シ除外例ヲ設ケタル所以ナリ、此等ノ事業ト雖幼少者及女子ヲ必ス夜間ニ使用セサルヘカラサル理由アルニ非サルヲ以テ、單ニ理論上ノ見地ヨリスルトキハ全然之ヲ禁止スルヲ得サルニ非ス、然レトモ工場法施行後十五年間ハ現在ノ儘ニ据置キ、其ノ後ニ至リテ十四歲未滿ノ幼年者及未成年ノ女子ヲ使用スルコトヲ禁止スルヲ以テ足レリトシ、事業上ノ要求ト取締上ノ必要トノ中間ニ在テ衡平ヲ持セントスルニ在リ、此ノ條項ニ於テ成年女子ノミニ限リ夜業ヲ認メタル理由ハ

(イ)**成年女子ハ未成年女子ヨリモ心身ノ發育比較的完全ナルヲ以テ之ヲ十四歲**

以上ノ男子ト同等ニ取扱フヲ適當ト爲シタルコト(外國ノ立法例中亦此ノ主義ヲ認ムルモノアリ)

(ロ)一時ニ作業ヲ爲スヲ要スル事業ハ原料ノ變敗シ易キモノヲ取扱フ事業ナルヲ以テ、之ニ對シ成年女子中ノ多數ヲ占ムル既婚者ヲ禁制スルハ實情ニ適合セサルモノアルヘキヲ顧慮シタルコトニ在リ、而シテ

法第五條第一項第一號及第二號ニ所謂一時ニ作業ヲ爲スコトヲ必要トスル特殊ノ事由アル業務及夜間ノ作業ヲ必要トスル特殊ノ事由アル業務ノ範圍ハ則第四條ノ規定スル所ニシテ

一魚介ノ罐詰、罎詰、鹽藏、燻製、煮乾其ノ他腐敗又ハ變質ヲ防止スルニ必要ナル業務

果實ノ罐詰又ハ果實酒ノ釀造ニ關スル業務

二新聞紙ノ印刷ニ關スル業務

卽チ是ナリ、(法第五條第二項)

第一號ニ該當スル事業ハ或ル季節ニ限ラレ周歳行ハルルモノニ非ス、而カモ一時ニ急速作業ヲ爲スノ必要アリ、而シテ其ノ作業ハ種々雜多ニシテ枚擧ノ遑ナシ、第二號ノ新聞紙印刷ニ關スル業務ニ於テハ深夜迄ニ印刷ヲ終リ卽時之カ配達準備ヲ爲スノ必要アリ而シテ其ノ業務ノ種類ハ植字、折疊等ナリ。

法第五條第一項第三號ニ屬スル業務ハ製鐵業、硝子業其ノ他繼續燃燒ヲ要スル窯ヲ用フルカ、又ハ一旦中止スルトキハ再ヒ始業スルニ當リ甚シキ技術上ノ困難又ハ損失ヲ惹起スヘキ事業ニシテ、其ノ作業ハ周歳晝夜繼續スルモノヲ豫想シ之ニ對シテ、職工ヲ二組以上ニ分テ交替ニ就業セシムヘキ條件ヲ附シテ夜業ヲ認ムルコトトセルモ、法第六條ニ依リ職工ヲ二組以上ニ分チテ交替ニ就業セシムルモノニ對シテハ、工場法施行後十五年間ハ法第四條ノ適用ナキカ故ニ本號ハ當分ノ間之カ適用ナシ、是レ則第四條ニ於テモ本號ニ相當スル業務ノ範圍ヲ規定セサル所以ナリ。

(二)職工ヲ二組以上ニ分チ交替ニ就業セシムル場合(法第六條)、幼少者及女子ノ夜業禁止ニ對スル例外ハ法第五條ニ於テ之ヲ悉セルノ理ナリ、然ルニ第五條ニ該當セサル事業ニシテ法律制定前ヨリ徹夜業ヲ爲シ來レル事業アリ其ノ最モ主要ナルモノヲ紡績業トス、國家永遠ノ策トシテ夜業ノ得策ニ非サルコトハ旣ニ述ヘタル所ノ如ク又之ヲ次項ニ詳述スヘシト雖、法律施行ノ際ニ當リ直ニ夜業ヲ禁止スル時ハ事業ノ收益ヲ減シ、或ハ失職者ヲ生シ內外ノ販路ニ旣得ノ利益ヲ失ヒ製品ノ價格ニ激變ヲ來スノ虞アルカ故ニ、施行後十五年ヲ期シ工業主ノ準備ノ成ルヲ俟テ夜業ノ禁止ヲ決行セントスルニ在リ。

五就業時間、中夜勞働竝休日及休憩ニ關スル包括的例外規定(法第八條第一項及第二項)

此ノ包括的例外規定ハ各個ノ工場ニ付各別ニ適用セラルル場合ト、一定ノ地域及一定ノ業務ニ對シテ一般的ニ適用セラルル場合トアリ。

(一)一般的例外規定(法第八條第一項)

天災事變ノ爲又ハ事變ノ虞アル爲必要ナル場合ニ於テハ、主務大臣ハ事業ノ種類及地域ヲ限リ就業時間ノ制限、深夜勞働ノ禁止竝休日、休憩時間ノ强制ニ關スル規定ノ適用ヲ停止スルコトヲ得、天災トハ地震洪水、海嘯ノ類ヲ謂ヒ事變トハ戰爭暴動等ヲ謂フ、斯ノ如キ立法ノ精神ハ非常緊急ノ必要ニ應セントスルノ趣旨ニ外

ナラス、而シテ外國工場法ニ於テモ其ノ例少カラサル所ナリ。

保護職工ノ保護ニ關スル規定ハ、平時ニ於テハ之ヲ格守セシムルコトヲ要スルハ勿論ナレトモ、本條ハ天災事變ノ場合又ハ事變ノ起ルヘキ虞アル場合ニ於テハ、此等制限ニ關スル規定ノ適用ヲ一時停止シ得ヘキ變通ノ道ヲ開キタルモノトス。

(二)個別的例外規定（法第八條第二項）

避ク可カラサル事由ニ因リ臨時必要アル時ハ、工業主ハ地方長官ノ許可ヲ得テ一定ノ期間ヲ限リ就業時間ヲ十二時間以上ニ延長シ、休憩時間及休日ヲ減縮又ハ廢止シ或ハ深夜ノ勞働ヲ爲サシムルコトヲ得、尙之ヲ說明スレハ。

(イ)避ク可カラサル事由ノ存スルコト　避クヘカラサル事由トハ、之レヲ主觀的ニ判定スヘキヤ又ハ客觀的ニ判定スヘキヤニ付テハ論議ノ存スル所ニシテ、主觀說ニ從ヘハ最大ノ注意ヲ盡スモ尙避クヘカラサル事由ト解スルヲ要スヘク、客觀說ニ從ヘハ其ノ發生ノ原因カ企業ノ業務執行ノ範圍ニ屬セス、且通常生スル事故ノ範圍ヲ超越シテ大ナル勢力ヲ以テ生スル事件ナリトス。客觀說ヲ可トス、何トナレハ斯ノ如キ例外規定ヲ設ケタル所以ノモノハ、工業主ニ其ノ事業ノ遂行ニ付注意義務ヲ課シタルモノニ非ス、企業ノ執行範圍ニ屬セサル重大事件ニ依リ已ムヲ得サル場合ニ對スル救濟ノ道ヲ講スルヲ主タル目的トスルモノナレハナリ。

例ヘハ工場ニ於テ汽罐ノ破裂アリ其ノ修繕ニハ長日時ヲ要シ、之カ爲ニ甚シク生產能力ヲ殺減セラレ、到底從來ノ就業時間ヲ以テシテハ豫定ノ製造能力ヲ維持スルヲ得サル場合ニ於テハ、此ノ破裂カ工業主ノ注意ニ依リテ避ケ得ヘキモノナリシヤ否ヤハ問フ所ニ在ラス、汽罐ノ破裂ト云フカ如キハ到底企業ニ關スル業務執行ノ範圍ニ屬セス、且通常生スル事故ノ範圍ヲ超越シテ大ナル勢力ヲ以テ生スルモノナルカ故ニ、斯ノ如キハ之ヲ客觀的ニ觀察シ避ク可カラサル事由ニ因ルモノト判定セサルヲ得サルナリ。

(ロ)就業時間ノ制限ニ付除外ノ取扱ヲ受クル臨時ノ必要ノ現存スルコト　假令避ク可カラサル事由ノ存スル場合ト雖、人員ノ補充豫備機械ノ運轉等比較的ニ容易ナル救濟方法アリテ、就業時間ノ制限ニ付除外ノ取扱ヲ受クルノ必要ナキ場合ハ本條ノ適用ヲ受クルコトヲ得サルモノナリ、尙其ノ必要ハ臨時的ノモノニシテ永久的ノモノニ非サルコトヲ要ス。

(ハ)臨時ノ必要ハ前記避ク可カラサル事由ニ起因スルコト　臨時ノ必要ト避ク
ヘカラサル事由トノ間ニハ因果ノ關係ノ存スルコトヲ要ス。
(ニ)一定ノ期間ヲ限リ豫メ地方長官ノ許可ヲ受クルコト　本條ニ依ル除外規定
ノ適用ヲ受ケントスルトキハ、其ノ期間就業時間ヲ延長セントスルトキハ其ノ時
間、休憩時間、休日等ヲ減少又ハ廢止セントスルトキハ減少シタル時間、日數又ハ廢
止ノ事實ヲ具シ豫メ地方長官ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス、許可ナクシテ就業時間、
休憩時間、休日ニ關スル規定ニ違反シタル者ハ、例令避ク可カラサル事由ニ因ル場
合ト雖法ノ制裁ヲ免ルルコトヲ得サルナリ。

本條ノ除外規定ハ機ニ臨ミ變ニ處スルノ途ヲ啓キタルモノニ外ナラサルカ故
ニ、固ヨリ濫リニ許可セルヘキモノニ非サルハ言ヲ俟タサル所ナリ。

第五項　夜業禁止問題

夜業カ職工ノ健康ヲ傷害スルコト甚シク且數々災害誘發ノ原因トナリ、加フル
ニ職工ノ風紀ヲ紊ルノ基ト爲リ、衞生上竝風敎上之ヲ禁止スルハ最モ緊要ノコト
ニシテ諸國ニ於テハ廣ク之レカ禁止ヲ强制シ居ルコトハ既ニ述タル所ノ如シ、而
シテ夜業ハ工場經濟ノ上ヨリ云フモ決シテ有益ノモノト云フヲ得サルコトハ多
クノ研究ト實驗トニ依リ諸外國ニ於テハ廣ク認容セラルル所ナリト雖我國ニ於
テハ此ノ點ニ關スル議論頗ル多岐ナルモノノ如シ、以下工場法制定當時ニ於ケル
本問題ニ關スル研究ノ概要ヲ掲クヘシ事少シク歷史上ノ記述ニ類スト雖本問題
ハ法律ノ明文ヲ以テ夜業禁止ノ實行ヲ猶豫シタル關係上他日再ヒ研究ニ上ルノ
虞ナキニ非サルヲ以テ玆ニ之ヲ記錄スルハ必シモ無用ノ業ニ非サルヲ信ス

本邦ニ於ル工場勞働ノ改善ニ關シ重要ナル問題ノ一ハ幼少年工及女工ノ徹夜
業禁止問題ナルヘシ、而シテ最多數ノ幼少年工、及女工ヲ徹夜業ニ使用スルハ棉絲
紡績業ナリトス、今統計ニ依リ各種工業ニ於ケル十六歲未滿ノ幼少年工及女工ノ
數ヲ示サン(農商務省調査明治四十二年末現在)

工業種別	工場數			合計		
				男	女	計
棉絲紡績業	八、三〇一	十六歲以上	男	五四、八七七	二九〇、七五〇	三四四、六二七
			女			
		十六歲未滿	男	六、〇一九	三八一、二七三	
			女			
		計		六〇、八九六		
				四四二、一六九		

機械及器具工場	一、〇九二	男	四八、三二四	三、五三九	五一、八六三	五四、八一〇		
		女	二、五〇六	四四一	二、九四七			
化學工場	一、五七九	男	三七、一六一	五、五〇七	四二、六六八	六五、九六六		
		女	一七、五五七	七四一	二三、二九八			
飲食物工場	二、三九六	男	四二、六五四	一、一九五	四三、八四九	六五、三〇三		
		女	一七、九八五	三、四六九	二一、四五四			
雜工場	一、九四五	男	三二、三八九	六、一七六	三八、五六五	六二、二三三		
		女	一七、五三一	六、一三七	二三、六六八			
特別工場	一一三	男	三、六二五	一八	三、六四三	三、六九〇		
		女	四七	—	四七			
計	一五、四二六	男	二一九、〇三〇	二二、四五四	二四一、四八四	六九四、一七二		
		女	三四六、三七六	一〇六、三一一	四五二、六八七			

以上ノ統計ニ依レハ我國工場工業ニ從事スル全職工六十九万四千餘人ニ對シ纖維工業ニ從事スル者ハ四十四萬二千有餘ヲ占メ其ノ中女工三十八萬千二百七十三人ニシテ十六歲未滿ノ男工六千十人ナリ、今更ニ纖維工場ノミニ付幼少年工及女工ノ數ヲ見レハ左ノ如シ、

工業種別		十六歲以上			十六歲未滿			計		
		男	女	計	男	女	計	男	女	計
製糸工業		九、〇五八	五五三	九、六一一						
		一六六、八六五	三七、八二二	一七四、七八六						一八四、三九七
紡績工業		一九、四七一	一、八七六	二一、三四七						
		五八、七〇七	二二、九三一	八一、六三九						一〇二、九八六
撚糸工業		八三七	一二二	九五八						
		三、二二二	一、〇六七	四、二八九						五、二四七
織物工業		一五、四三二	二、二一六	一七、六四八						
		八三、五五三	二六、二四一	一〇九、七九三						一二七、四四一
組物工業		一、三一七	二三四	一、五五一						
		二、三二四	八〇五	三、二二九						四、七八〇

此等各種ノ纖維工業中製糸、織物、組物、撚糸等ハ徹夜業ヲ實行スルコト稀ニシテ實際徹夜業ノ廣ク行ハルヽハ紡績工場ナリ、此ニ於テ徹夜業禁止ノ影響ヲ受クヘ

キ業務ハ綿糸紡績業ナリト謂フモ不可ナシ、卽チ幼少年工及女工ノ徹夜業禁止ハ紡績業ニ使役セラルル幼少年工及女工ノ合計八万有餘人ニ關スル問題ニシテ其ノ禁止カ職工ノ衞生及經濟上如何ナル影響アルヤニ付農商務省ハ詳細ノ調査ヲ爲シ綿絲紡績職工事情第三章ニ於テ之ヲ發表セリ、右ハ略十年前ノ調査ニシテ爾後統計ニ著シキ移動アリト雖大體ノ事實ハ今日ニ於テ異ルコトナシ左ニ其ノ大要ヲ摘錄スヘシ。

徹夜業カ衞生上有害ナル事ハ爭フヘカラサル事實ニシテ今某紡績工場ニ就キ調査シタル結果ヲ示セハ左ノ如シ。

（一）〇〇紡績株式會社（第一表）

職工ノ總體量（八十一人）七百九十一貫八百七十匁		六、五四〇、八封度 三九六九、五一基瓦
一人平均　九貫七百七十六匁	八〇、八二封度 三六、六五九基瓦	
夜業一週間後ニ減セシ總量十三貫七百五十匁		一一三、六封度 五一、六二基瓦
一人平均　百七十匁	一、四〇封度 〇、六三八基瓦	
晝業五日後ニ增セシ總量五貫六百二十匁		四六、四二封度 二一、〇七五基瓦
一人平均　六十九匁	〇、二五九基瓦	〇五七封度

以上ハ寄宿女工七十人、社宅幼年女工十一人ニ就キ晝業夜業十二日間ヲ通シテ檢査シタルモノナリ。社宅幼年工ハ寄宿工ト稍生活ノ狀態ヲ異ニスト雖、其ノ數少ナキト、檢査ノ結果其ノ傾向ヲ同フスルヲ以テ附加計算セリ。今前表ヲ案スルニ工女ノ體重ハ夜業時ニ於テ減シ、晝業時ニ於テ增加スルノ經過ヲ示セリ。而シテ總量ニ於テ八貫百三十匁一人平均百一匁（〇、八三封度〇、三七九基瓦）ハ晝業五日間ニ於テ恢復シ能ハサル減量ナリ。

（二）同社（第二表）

總體重（八十三人）九百十四貫三百六十匁		九三、二五封度 四二、三三七基瓦
一人平均　十一貫二百九十匁		二一、五封度 一〇、八七五基瓦
晝業一週間後ニ減セシ總量二貫九百匁		〇、二八九封度 〇、一三一基瓦
一人平均　三十五匁		六四、八封度 二九、四九基瓦
夜業五日後ニ減セシ總量七貫八百九十匁		〇、七八四封度 〇、三五六基瓦
一人平均　九十五匁		

前表ヲ案スルニ總量ニ於テ十貫七百九十匁、一人平均百三十匁（〇、一七四封度　〇、四八七基瓦）ハ晝夜業十二日間ニ於テ減セシ量ナリ、而シテ夜業時ノ減量ハ晝業ニ比シ約三倍ナルヲ見ルナリ。

（三）〇〇〇紡績株式會社

總體重五十九人）五千九百四十四九封（度）　四五、七二二基瓦　十二貫百九十二匁

一人平均　一〇〇、八封度

夜業一週間後ニ減セシ總量七十四、七封度　〇、五七六基瓦　百五十四匁

一人平均　一、二七封度

晝業一週間後ニ增セシ總量六十六封度　〇、五〇八基瓦　百三十五匁

一人平均　一、一二封度

前表モ亦工女ノ體重ハ夜業時ニ於テ減シ、晝業時ニ於テ增加シタルコトヲ示セリ。而シテ總量ニ於テ八、七封度、一人平均〇、一五封度（〇、〇六八基瓦　瓦十九匁）ハ晝業一週間ニ於テ恢復シ能ハサル減量ナリトス。

前陳ノ試驗ニ依リ工女ノ年齡ト體重ノ增減トノ關係ニ就キ審按スル所ニ依レハ、十四五歲以下ノ幼者ハ夜業ノ後ニ體量ヲ減スルコト多ケレトモ、晝業ノ際ニ回復スルコト多ク、十七八歲以上ノ者ハ夜業ニ由リテ減量スルコト少ナケレトモ、晝業ノ後之ヲ回復スルコト亦少キモノヽ如シ。

以上ノ事實ハ大體ニ於テ生理上ノ學說ト相背馳セサルノ結果ヲ示スモノト謂ヒ得ヘシ。

徹夜業カ職工ノ健康ヲ害スルコト上來述ヘタル如シ。今風紀ノ點ヨリ徹夜業ヲ觀察センカ徹夜業カ風紀紊亂ノ一因タルコトハ固ヨリ爭フ可ラサル事實ナリトス、抑モ工場內ノ深夜ハ工場監督ノ最モ不完全ナル時ナリ、某工場ノ女工曾テ語テ曰ク、夜業ハ晝業ヨリモ氣樂ナリ、蓋シ晝業ニ於テハ監督嚴重ナルカ故ニ機械ノ掃除ニ、執業ノ方法ニ十分ノ注意ヲ爲サヽル可ラスト雖、夜業ニ於テハ技師以下ノ見廻リ少キカ故ニ幾分骨ヲ休ムルコトヲ得ヘシト。修飾ナキ該少女ノ言ハ以テ深夜ニ於ケル監督ノ狀況ヲ知ルニ足ル。尤モ工場內ニ於テ非行ヲ敢テスル者ハ稀ナルカ如キモ、監督ノ疎漏ナル深夜ニ於テ其ノ種子ノ蒔カルヽコトアリ。願フニ徹夜業カ風紀紊亂ノ一原因タルコトハ否ム可ラサル處ナ

リ。徹夜業ノ工場經濟ニ及ホス利害ハ交互錯雜セルモノアリ、計數ヲ以テ之ヲ現ハスコト甚タ難シト雖、工場經濟ノ實況ヲ調査シ且當業者ノ所說ヲ參酌シ其ノ要點ヲ擧クレハ左ノ如シ。

(一)機械ノ効果及其ノ保存期間。

徹夜業ヲ行フトキハ職工等ハ機械ノ取扱ニ周到ナル注意ヲ加ヘス殊ニ職工ノ交替ニ依リ晝夜毎ニ機械ノ擔任者ヲ異ニスルヲ以テ、職工ハ自己ノ責任ヲ輕ンシ、自然掃除其ノ他機械ノ取扱ヲ粗忽ニシ、爲ニ毀壞スルコト多シ。又工場主モ完全ニ機械ノ修繕ヲ行フ遑ナク、或ハ之ヲ等閑ニ附シ、或ハ姑息ノ修繕ニ甘ンスルヲ常トス。或ハ曰ク現時我紡績工場ニ就テ概言スレハ紡績機械ハ本來歐米ニ於ケル新式ノモノニシテ他ニ讓ル所ナキモ其ノ取扱ノ不完全ナルカ爲、精鋭ナル機械ハ其ノ生理的ノ運轉ヲ爲サスシテ、病的ノ狀態ニ在リ、是ヲ以テ絲切レ多ク、從テ多數ノ職工ヲ要シ、多重ノ屑物ヲ生ス、必シモ責ヲ原綿ノ良否ノミニ歸ス可ラサルナリト。夫レ或ハ然ラン。而シテ今若シ徹夜業ヲ廢止スルトキハ此等ノ弊害ハ矯正シ得ヘキカ故ニ、大ニ機械ノ効果ヲ增シ、且其ノ保存期限ヲ

長クスルコトヲ得ルヤ言ヲ俟タス。而シテ此ノ場合ニ於テ晝夜交替業ヲ行フニ比シテ如何ナル程度迄保存期限ヲ延長シ得ルヤ、此ノ問題ニ就テハ未タ一定ノ說ナシ、或ハ曰ク徹夜業ヲ廢スルトキハ機械ノ取扱及其ノ保存ニ付周密ナル注意ヲ爲スコトヲ得ルカ故ニ、機械ノ使用時間ノ割合以上ニ其ノ保存期限ヲ延長スルコトヲ得ヘシト、或ハ必スシモ然ラスト云フモノアリ。之ヲ要スルニ晝夜交替業ヲ行フトキハ機械ノ保存期限ハ約十五年內外ナルヘク、今之ヲ晝業ノミトセハ縱令二倍以上ニ達セサルモ多ク之ニ下ラサルヘシ。若シ又假リニ徹夜業ヲ廢止スルモ、夜業ヲ全廢セスシテ晝業ニ加フルニ幾分ノ夜業ヲ爲スモノトセンカ、晝夜交替業ニ比シ機械ノ保存期限ハ大ニ之ヲ延長スルヲ得ルヤ言ヲ俟タス。

(二)製絲額。

徹夜業廢止ノ製絲額ニ及ホス影響ヲ按スルニ、元來晝業ト夜業トハ其ノ勞働時間ハ同一ナルモ、其ノ產額ニ多少ノ差アルヘキモノナリ、是夜業ニ於テハ晝業ニ比スレハ職工ノ缺席多ク、執業監督亦不十分ナルニ因ル。然ルニ今各工場ニ

就テ晝業ト夜業トニ付綿絲ノ生産額ヲ比較センカ、二者ノ間ニ著シキ差異ナキヲ見ン。然レトモ晝業ノ成績ト夜業ノ成績トハ單ニ綿絲ノ生産額ノミヲ以テ論定シ難キモノアリ。何トナレハ紡績ノ業タル原綿ヨリ管絲ニ至ル迄數多ノ工程ヲ經數晝夜ノ日時ヲ費スヲ以テナリ。今假ニ粗紡精紡ノ兩部ノミニ就テ之ヲ述ンニ、夜業ニテ製出スル處ノ管絲ハ、晝間ニ製セラレタル粗紡篠ノ精紡機ヲ經タルモノニシテ、其ノ産額比較的多ク、夜間ニ作ラレタル粗紡篠ハ晝業ノ精紡機ニ用キラルヽヲ以テ、其ノ成績比較的不良ナル場合多シ。抑モ夜業ノ製品ノ粗雜ニ流ルヽハ獨リ精紡ニ於テノミ然ルニアラス、粗紡其ノ他ノ前工程ニ於テモ亦然リ。而シテ此等前工程ノ良否ハ粗紡等ニ於ケル製品ノ産額及品質ニ最大ナル關係ヲ有スルモノナリ。此故ニ夜業ニ於テ粗雜ニ製シタル半製品ヲ晝業ニテ使用スルカ爲ニ、自ラ晝業ノ粗紡篠及管絲ノ製出額ヲ減スルコトアルヘク、又晝業ニテ作ラレタル比較的良好ノ半製品ヲ夜業ニ使用スルカ爲ニ、夜業ニ於ケル此等ノ製出額ヲ增加スルカ如キ事情モアルヘシ。要スルニ現時ノ晝業生産額ヲ以テ夜業廢止後ニ於ケル晝業ノ生産額ト同一視スルコト能ハサル

ナリ。

夜業廢止後ニ於ケル晝業ノ生産額ハ、晝夜交替業ヲ行フ場合ニ於ケル晝業ノ生産額ニ比スレハ、幾分ノ增加ヲ來スヘキハ言ヲ俟タス。其ノ原因ノ重ナルモノヲ擧シカ機械ノ取扱及修繕ニ一層ノ注意ヲ加ヘ得ヘキヲ以テ機械ヲシテ完全ナル活動ヲ爲サシメ、其ノ効果ヲ增スヲ得ヘシ。蓋シ夜業ニ於テハ機械ノ取扱亂暴ニ流レ、注意ノ周到ナラサル爲、其ノ破損ヲ來ス場合多シ、且其ノ修繕ニ就テモ晝夜交替業ヲ行フトキハ之カ爲ニ執業時間ノ幾分ヲ殺カサルヘカラスト雖、徹夜業廢止セラルレハ此ノ憂ナシ。若シ夫ノ職工ノ勞働効果ニ至リテハ下ニ述フルカ如ク徹夜業ヲ廢止スルトキハ其ノ身體精神ヲ强健ナラシメ、其ノ缺勤數ヲ減シ、且熟練工ヲ養成シ得ル望ミアルヲ以テ、勞働ノ効果ハ大ニ增加スヘシ。此ノ外晝夜交替業ヲ行フ場合ニハ交替ニ際シ兩番ノ職工其ノ業務引繼ヲ疎漏ニスルノ弊アリ。或ハ殊ニ自己ノ仕事ノ結果ヲ多クセンコトニ汲々トシテ引繼後ノ執業ノ便否ヲ顧ミサルコトナキニ非ス。以上各種ノ弊害ハ皆夜業廢止ニ依リテ除去セラルヘキヲ以テ一面連續的ノ仕事ヲ間歇的ニ行フトキハ

朝夕業務ノ開始及終業ノ際多少ノ不便損失アリト雖此等ハ實ニ微々タルモノニシテ結局時間割當產額ノ增加ヲ見ルヘキ望アリ。

然ラハ則チ今夜業ヲ廢止シ晝業ノミト爲スモ其ノ生產額ハ半減セサルヤ必セリ。明治三十三年七月紡績聯合會ノ夜業廢止ニ關スル決議ヲ率スルニ、夜業ヲ廢止スルカ然ラサレハ四割ノ休錘ヲ爲スヘシト定メタリ、即チ夜業廢止後ニ於ケル晝業ノ生產額ヲ六割ト推定シタルモノナルヘシ。夜業廢止ノ後ハ前陳ノ如ク諸般ノ改良ヲ爲シ得ルノ餘地アルヲ以テ、必スヤ六割以上ニ達スヘキハ勿論當業者中或ハ六割五步ノ產額ヲ得ヘシト云ヒ、或ハ七割ニモ達スヘシト云フモノアリ是レ必スシモ誇大ノ說ニ非サルヘシ。

夜業廢止ノ場合ニ於テ晝業生產額ノ增加スルコト斯ノ如シ、今夜業ノ全部ヲ廢止セス、唯之ヲ一定ノ時間ニ限リ、徹夜業ノミヲ廢スルトキハ其ノ遞減時間ノ長短、執業ノ方法及監督ノ奈何ニ依リテハ、其ノ產額ハ現今ノ晝夜業生產額ト大差ナキヲ得ルノ望ナキニアラス。

(三)製品ノ品質。

徹夜業ニ於テハ職工及其ノ監督者モ亦睡魔ニ襲ハレ、心身共ニ疲勞シ、周密ナル注意ト精勵ナル氣力ヲ以テ業ニ從フコト能ハサルヲ以テ、製絲ノ品質粗雜ニ流ルヽヲ免レス。加之晝業ノ製品モ亦徹夜業ニ於ケル打綿梳綿粗紡等ノ前工程ヲ經タルモノヨリ成ル爲其ノ品質ニ影響スルコト少シトセス、故ニ徹夜業ヲ繼續スル以上ハ到底精巧ナル綿絲ヲ製造スルコトヲ得サルナリ。現今內外ニ於テ需用スル本邦綿絲ノ種類ハ主トシテ太絲ニ屬シ、之カ用途モ亦概ネ手繰機ニ上スニアルヲ以テ、其ノ品質ノ選擇餘リニ嚴ナラサルモ、漸次世人ノ嗜好昂進シ、細絲ノ需用益々增加シ、且機械織布業ノ進步スルニ至レハ、其ノ品質ノ選擇ハ蓋シ今日ノ比ニ非サルヘシ。今ノ時ニ於テ豫メ之ニ備フルハ本邦紡績業者ノ一大急務ニ屬ス、而シテ徹夜業ノ廢止ハ實ニコレカ一方法ナリト謂ハサル可ラス。

(四)職工及監督者。

現今我國紡績工場ニ使用スル職工數ハ一萬錘ニ對シ晝夜交替業ニテ男女總計凡七百人ヲ要セリ。然ルニ若シ假リニ晝業ノミトスレハ果シテ幾何程ノ職

工ニテ能ク其ノ用ヲ滿タスコトヲ得ルヤ、是レ大ニ研究ヲ要スル問題ナリトス。

或ハ曰ク晝業ノミト爲スモ少クトモ現今ノ半數以上ノ職工ヲ要スヘシ、蓋シ晝夜交替業ナレハ仕事ノ融通ヲ計リ、職工ノ繰合セヲ爲スコトヲ得ルノミナラス、殊ニ或種ノ職工ニ就テハ夜業廢止ノ場合ニ於テモ、其ノ員數ヲ減スヘキモノニ非サレハナリト。本調査員ノ見ル所ニ依レハ晝夜交替業ニ要スル職工ノ多クモ半數ヲ以テスレハ以テ晝業ノミノ場合ヲ支持スルニ足ルヘシ、何トナレハ現今紡績工場ニ多數ノ職工ヲ要スル所以ノモノハ、主トシテ機械ノ不調子ト職工ノ出入頻繁ニシテ訓練ノ遑ナキトニ由ル、而シテ機械ノ不調子ト職工ノ出入トハ徹夜業ノ廢止ニ依リ大ニ之ヲ匡救シ得ル見込アレハナリ。今假ニ歐米ノ紡績工場ニ於ケル職工數ト我職工數トヲ對比スルニ其ノ間甚シキ徑庭アリ。例ヘハ英國「オルドハム」ニ於テ「ミユール」精紡機七萬錘ヲ有シ、四十手ヲ紡出スル工場ニ於テハ混綿部ヨリ精紡部迄ノ職工數百六十一人ニシテ一萬錘僅ニ二十三人ノ割合ナリ。然ルニ本邦ニ於テ「リング」精紡機ヲ以テ二十手以下太絲又ハ三十手四十手等ノ中細絲ヲ紡出セル所、及「リング」精紡機若ハ「ミユール」精紡機又ハ兩機ヲ混用シ、六十手又ハ八十手ヲ紡出セル工場ニ於ケル混綿部ヨリ精紡部迄ノ職工數ハ一萬錘ニ付八九十人乃至百八九十人ニシテ、三倍五歩乃至八倍餘ナリ、是レ製造綿絲ノ細太原綿ノ良否等種々ノ原因アルヘキモ職工ノ種類及勞働效果ノ多寡等ハ其ノ一大原因ニシテ歐米紡績工場ノ職工ハ恰モ積年ノ訓練ヲ經タル常備軍ノ如ク、我紡績工場ノ職工ハ猶烏合ノ衆ノ如シ、乞フ其ノ事情ヲ詳設セン。

我國紡績職工ノ出入ハ極メテ頻繁ニシテ平均一箇年間ニ殆ト全數ノ交替ヲ見ル。例ヘハ大阪地方ニ於テ千人ノ職工ヲ有スル工場ニ於テハ年々出入各千二百人ニ達シ從テ年々千二百人ヲ募集セサルヘカラサルヲ常トシ、殊ニ募集後一、二箇月ノ間ニ退場スル職工甚タ多シ。抑モ紡績職工ノ出入ノ頻繁ナル抑ノ如キハ何ニ因ル乎、固ヨリ各種ノ理由アルヘシト雖、紡績工場ニ於ケル徹夜業ハ其ノ重ナル一原因ト謂ハサルヘカラス。或ハ女工ノ婚姻ヲ以テ出入ノ主因タルカ如ク思惟スル者アルモ、是レ未タ事ノ眞相ヲ究メサルノ說ナリ。職工殊ニ女工ノ多クハ職工募集員若ハ職工紹介人ナル者ノ甘言ニ欺カレ、工場ニ來ルモ

已ニ一度職工トナレハ、生活ノ狀態全ク異リ、殊ニ徹夜業ノ如キハ全ク彼等ノ家鄉ニ於テ夢思セサル所ナリ。夜間睡魔ノ爲ニ襲ハレ暫ク安息セントスルモ機械ノ運轉ト監督ノ鞭韃ハ、彼等ヲ脅迫シテ一刻モ安キ思ヲ爲スコトヲ許サス、二六時中追々トシテ職ニ堪ヘサルカ如キモノアリ。然ルニ晝間ハ到底彼等ヲシテ熟睡ヲ遂ケ、機能ノ恢復ヲ爲サシムルコト能ハス、是レ實ニ新來ノ職工ヲシテ急遽復タ行李ヲ理メテ望鄉ノ嘆ヲ發セシムル至大ノ原因ナリトス。此ニ於テカ彼等ハ忽チ退場シ遂ニ散シテ四方ニ行クモノ比々概皆然リ。或ハ職工ノ内ニハ却テ徹夜業ヲ喜フモノアルカ如シト雖、是唯身體ノ强健ナル場合ニ於ケル一時限ノ事ニシテ、久シカラスシテ彼等ハ遂ニ其ノ健康ヲ害シ已ムナク工場ヲ去ルニ至ルハ屢見聞スル所ナリ。今若シ徹夜業ヲ廢センカ職工ノ出入ハ現今ノ如ク頻繁ナラスシテ、勤續期間ハ一般ニ延長セラレ、比較的少數ノ職工ヲ以テ却テ良好ノ成績ヲ得ルノ望アルヤ疑ナシ。

元來我國ノ職工ハ出入頻繁ナルノミナラス、不時ノ缺席者多ケレハ工業主ハ所要ノ職工數ニ對シ、大抵一割乃至一割五分ノ豫備員ヲ設ケサルヘカラサルハ事實ナリ、是レ蓋シ訓練ヲ經サル烏合無規律ノ衆ナルニ由ルト同時ニ、徹夜業等ニ依リテ心身ヲ疲憊セルヲ以テ、已ムナク缺席シテ一日ノ安息ヲ貪ルニ非サルナキヲ得ンヤ。此ノ故ニ徹夜業ヲ廢止シテ其ノ健康ヲ保全シ、規律ヲ正クセハ此ノ缺席數ヲ減少シ、無用ノ豫備員ヲ廢止スルヲ得ルヤ言ヲ俟タス。

徹夜業ト職工衞生トノ關係ハ先ニ述フル處ノ如ク、徹夜業ノ存在スル限ハ到底健全ナル職工ヲ得ル能ハサルハ固ヨリ疑ヲ容レサル處ナリ。抑モ健全ナル勞働ハ實ニ諸般工業發達ノ要件ナリ、殊ニ紡績工業ノ如キ機械的工業ニ於テハ職工ハ精巧ノ勞働ヲ爲スヨリモ、寧ロ規律的ニ機敏ニ立廻ハルノ必要アリ。之ヲ例セハ絲切レタルトキハ直ニ發見シテ之ヲ接キ、不正ノ篠アレハ之ヲ除キ、異種ノ絲アレハ之ヲ區別スルカ如ク、職工活動ノ範圍ハ力役若ハ技巧ニ非スシテ規律ト機敏トニ在リ。而シテ此ノ規律アル機敏ナル勞働ハ極テ健全快活ナル精神ノ働作ヲ要シ、到底心身相副ハサルカ如キ者ニ望ム能ハサルナリ。

要之ニ徹夜業ヲ廢止センカ職工ノ勤續年限ヲ延長シ、且其ノ缺席度數ヲ減少スヘシ。加之職工ノ訓練ト體力ノ健全ヲ促シ、機械ノ整調ヲ來シ、由テ以テ其ノ

功程ヲ增加スヘキコト蓋シ些少ニアラサルヘシ。又徹夜業ヲ廢止シテ職工數ヲ減少スルニ當リテハ比較的强健ニシテ訓練アル職工ヲ撰擇シ得ルノ便宜アルハ多言ヲ要セサルナリ。

以上ハ主トシテ職工ノ數ト其ノ勞働效果ニ就テ述ヘタリ。而シテ其ノ結果トシテ職工費ニ如何ナル影響アルヘキヤヲ按スルニ、各工場ニ於テ晝夜交替業ヲ行フトキハ職工賃ノ多キノミナラス、職工募集費寄宿舍ノ補助費又ハ足止メ策トシテ種々ノ雜費ヲ要スルコト少シトセス。然ルニ徹夜業ヲ廢止センカ此等ノ費用ハ漸次減少スヘキヤ疑ナシ。尤モ職工一人ノ受取ルヘキ賃銀ハ勞働效果ノ增進ト共ニ多少之ヲ增加セサル可カラサルニ至ルヘシト雖、前述ノ如ク諸雜費ヲ減少シ、且勞働效果ヲ增加スルヲ以テ、製絲一梱ニ對スル賃金其ノ他職工諸費ハ現今ニ比シ減少ヲ見ルニ至ルヘシ。

右述フル所ハ職工ト徹夜業トノ關係ナリ。而シテ技手以下下級ノ工場監督者ニ就テハ職工ニ關シテ陳ヘタル論定ヲ適用スルモ大差ナカルヘシ。且現今紡績工場ニ使用スル下級監督者ニハ無教育ニシテ機械ノ性質ヲ解セサル者甚タ多シ。又往々其ノ部下ヲ統御スルニ當リ自儘勝手ノ振舞ヲ爲シ、眞ニ工場ノ監督ニ忠實ナラサル者アリ、故ニ若シ能ク之ヲ刷新セハ大ニ工場ノ管理ヲ改善スルコトヲ得ヘシ。此ノ場合ニ於テ支配人、工場長其ノ他ノ事務員等ニ至リテハ之ヲ半減スルコト能ハサルヘシト雖、工場整理ノ方法ニ依リテハ多少ノ減員ヲ見ルコトヲ得ヘク、徹夜業ノ廢止ニ依リ監督者ヲ精撰スルコトヲ得ルノ利益ハ固ヨリ爭フ可ラサル處ナリ。

(五)原棉及屑物。

現今十六手乃至二十手ノ太絲一梱三百斤ヲ製スルニ、原棉凡ソ三百五十斤乃至三百六十斤ヲ要シ、其ノ差ハ屑物トナリ、又ハ塵埃トシテ散失スルモノナリ。今若シ徹夜業ヲ廢止スルトキハ屑物散失ノ割合ニ如何ナル影響ヲ及ホスヘキカニ就テハ或ハ大ニ之ヲ減スヘシト謂ヒ、或ハ必スシモ然ラスト謂フ者アリテ當業者ノ說一定セサルモ、現今晝夜交替業ノ爲機械ノ修繕行屆カス、職工ノ氣力乏シク、感覺鈍ク、產額及品質ニ於テ夜業ハ勿論、晝業ノ成績迄モ影響ヲ蒙リ居ルコト前ニ陳述シタルカ如キ狀況ナリ。元來屑物ノ多寡ハ原料ノ良否ニ因ルモ、

同一ノ原料ヲ以テシ、而モ屑物ノ多キハ主トシテ絲切ノ多キニ由リ、絲切ノ多キハ機械ノ不調子ニ基ク、而シテ機械ノ不調子ハ氣候ノ關係アリト雖其ノ取扱ノ粗漏及修繕掃除ノ不行屆ニ原因ス。機械學者ノ說ニ依レハ紡績機械ナルモノハ其ノ据付及取扱完全ナルトキハ、道理上粗紡精紡ニ至リ絲ノ切ルヽコトナキモノナリ。實際歐米ノ諸工場ニ於テ少數ノ職工ヲ以テ操業シ得ルハ絲切ノ少ナキニ由ルモノニシテ我邦ノ紡績工場ニ於テ絲切ノ多キハ主トシテ機械取扱ノ不完全ナルニ由ルト謂フ。故ニ若シ徹夜業ヲ廢止シ、機械ノ取扱修繕等ヲ叮嚀ニシ、職工ノ氣力ヲ增シ、感覺ヲ銳敏ニセンカ屑物ノ額大ニ減少スルコト言ヲ俟タス。尤モ一度機械ノ運轉ヲ中止シ、工場内冷却スルトキハ翌朝仕事始ノ際機械カ順調トナル迄絲切多シト言フハ事實ナリ、然レトモ是レ唯一時ノ事ニ過キス、且工場内ニ暖房其ノ他ノ裝置ヲ設ケ、場内ノ溫度水分等ヲ適度ニスルニ於テハ大ニ此ノ絲切ヲ防クコトヲ得ヘシ。又當業者中或ハ曰ク徹夜業ヲ廢止セハ現今充分整理セル工場ニ於テハ大ナル影響ナシトスルモ、夜間散亂セル棉カ油浸ミテ、油綿トナルコトハ大ニ減少シ得ヘシト。要スルニ原棉及屑物減少ノ點ニ於テハ徹夜業ノ廢止ハ利益アルコト疑ヲ容レス。而シテ屑物散失ノ減少ハ假令僅少ノ割合ナリトスルモ紡績業ノ經濟上ニハ至大ノ關係ヲ有スルモノナリトス、何トナレハ綿糸ノ原價ハ原棉ノ代價其ノ大部分ヲ占ムルモノナレハナリ。例ヘハ百斤二十五圓ノ原棉三百五六十斤工費十五六圓ヲ用キテ一梱ノ綿絲ヲ製造シ得タルニ、假ニ三百四五十斤ノ原棉ヲ用キテ製造シ得ルコトヽナリ、原棉五斤乃至十斤ヲ節約シ得ルニ至ランカ、一梱ノ原價ニ於テハ直ニ二圓内外ノ差違ヲ生スヘシ。況ンヤ屑絲ノ如キハ絲ノ形ヲ爲ス迄ニ幾多ノ工程ヲ經タルモノニシテ、原棉代價ノ外幾多ノ工費ヲ要シタルモノナルニ於テオヤ。故ニ徹夜業廢止ノ爲屑物散失ノ減少ニ及ホスヘキ影響如何ハ徹夜業ノ利害ヲ論スルニ當リ、輕視スヘカラサル問題ナリトス。

(六)石炭及工場消耗品。

徹夜業ヲ廢止スルトキハ綿絲一梱ノ生產ニ要スル石炭消費額ニ多少ノ損失アルコトヲ免レサルモノノ如シ。然レトモ假ニ多少ノ損失ヲ免レストスルモ、其ノ消費額ヲ綿絲ノ原價若ハ其ノ工費總額ニ比スルトキハ、或者ノ想像スルカ

如ク重大ナル關係ヲ有セサルノミナラス、元來燃料ハ機關師竝火夫等ノ注意ノ如何及運轉機械ノ整調ヲ欠クト否トノ事情ニ依リ、其ノ消費額ニ影響スルコト大ナルヲ以テ、徹夜業ヲ廢止シテ工場一般ノ監督ヲ周密ニシ、其ノ整理ヲ見ルニ至ラハ石炭消費額ニ於テモ、却テ節約シ得ルノ見込ナシトセス。

徹夜業ノ廢止ト石炭消費額トノ關係ニ就テ、或ハ曰ク紡績工場ニ於テ晝夜業ヲ繼續セサルトキハ、一旦使用汽罐ヲ冷却セシムルヲ以テ、翌朝ニ至リ再ヒ必要ノ壓力ヲ生スル迄ニハ、相當ノ燃料ヲ費サヽンヤ可ラス、又夜業ヲ廢止スルモ火災保險ノ契約ノ爲ニ常ニ消防用トシテ一箇ノ汽罐ヲ有効壓力以上ニ保持セシメ置サルヘカラス、此等ノ事情ノ爲要スル所ノ石炭消費額ハ蓋シ些少ニアラサルヘシ。或ハ曰ク徹夜業ヲ廢止スルトキハ工場内ニ於テ適度ノ溫度ヲ保持スルコト能ハサレハ、翌日ノ仕事ニ於テ絲切其ノ他ノ故障ヲ生スルコト多ク、之ニ對シテ暖房ノ方法ヲ施ストキハ爲ニ石炭ノ消費ヲ增スヘシト。然リ而テ此等ノ事情ノ爲徹夜業廢止ニ依リ損失スヘキ石炭消費額ハ何程ノ割合ナルヘキヤト云フニ至リテハ何人ト雖斷言ニ苦ム所ナリ。凡ソ紡績工場ニ於ケル石炭消費額ハ一萬鍾ノ工場ニテ一日二十四時間ニ約貳萬斤内外ニシテ、製絲額一日太絲約二十五、六梱ト假定セハ大ナル過ナカラランカ。而シテ石炭ノ價格一萬斤ニ付二十五圓トセハ、一梱ニ對スル燃料費ハ貳圓内外ト爲ルヘシ。今徹夜業廢止ノ爲、夜間ノ埋火及翌朝焚出ニ要スル所ノ額ヲ石炭ノ所要總額ニ對シ一割ト假定シ、一日十二時間ノ製絲額ヲ十五梱若ハ十五梱半ト假定センカ、一梱ニ對スル燃料費ハ却テ多少ノ減少ヲ見ルヘシ。（或工場ニ於テ實驗シタル所ニ依レハ夜業ヲ廢シ一日十二時間操業シタル場合ニ於テ埋火及焚出ニ要スル額ハ嚴冬ノ候ト雖其ノ所要石炭額ノ七厘ニ出ツルコトナカリシト謂フ）又夜間ノ暖房ニ要スル石炭ノ量ハ今之ヲ推算シ難シト雖、假ニ此等ノ所要額ヲ合シ一晝夜ノ二萬斤ニ對シ、一日十二時間ニ六割卽チ一萬二千斤ヲ要ストスルモ、製絲額ニシテ晝夜業ノ六割ニ達スル以上ハ一梱ニ對スル燃料費ニ於テ損得ナキ計算ナリ。以テ石炭消費額ト徹夜業廢止ノ關係カ如何ナル範圍程度ニ於テ紡績工場ノ經濟上ニ影響ヲ及ホスヤヲ推知スルニ足ル。要之ニ石炭ノ消費額ハ徹夜業ノ廢止ニ依リ、比較的或ハ多少ノ增加ヲ見ルコトアリトスルモ、工場ノ經營上必スシモ俠

復シ難キニ非サルナリ、若シ夫レ油、襤褸、ヘツト其ノ他ノ工場消耗品ニ至リテハ夜業ノ廢止カ如何ナル關係ヲ及スヤハ玆ニ之ヲ論及セサルモ、晝夜交替業ニ比シ、比較的多少ノ利得アルヘシトハ營業者ノ問ニ殆ント異論ナキ所ナリ。

(七)利息金。

我紡績業者中借入金ヲ以テ運轉資金ニ充テ或ハ之ヲ以テ固定資金ノ一部ニ充ツルモノ尠カラス。而シテ借入金ノ多少ハ工場ニ依リテ異ナリト雖、流通資金ノ殆ト全部ヲ借入金ニ取レル某紡績會社ニ於テハ、一梱ニ對スル利息ハ大凡壹圓乃至壹圓五拾錢ト豫算シ居レリト云ヒ。又某會社ノ三十三年上半期ニ於ケル支拂利息ハ一梱ニ付壹圓拾壹錢ニ當リ、同年下半期ハ同壹圓九拾錢ニ當リ、又紡績聯合會ノ調査ニ依レハ三十二年上半期中最高ノ利息ヲ仕拂ヒタル會社ハ一梱ニ付貳拾四圓七拾貳錢七厘同最底ノ利息ヲ仕拂ヒタル會社ハ一梱ニ付五十二錢五厘各會社ヲ通シテ一梱平均貳圓八拾九錢六厘ノ利息ヲ仕拂ヘリ。又三十四年上半期ノ考課狀ニ依リ、某氏ノ調査シタル所ニ依レハ營業費中仕拂利息ノ割合ハ大阪紡績一、四八割、鐘淵紡績一、三七割、九州紡績及福島紡績各一、七四割、名古屋紡績二、八六割ト云フノ類ニシテ甚シキハ四割乃至四割五歩ニ及ヘルモノアリ。今晝夜業ヲ行フ場合ト晝夜業ヲ廢止セル場合トヲ比較シ、利息金ノ增減ヲ按スルニ、後者ニ在リテハ產額ノ減少換言スレハ原棉使用額、石炭消費額、職工賃其ノ他諸經費ノ減少ニ伴ヒ、借入金モ減少スヘキ譯ナレトモ、同一ノ梱數ヲ六七日ニテ製出スルト、四五晝夜ニテ製出スルトハ理論上(他ノ事情ヲ一切同一ナリト假定スレハ)日歩ニ於テ差異ヲ生スヘキ筈ナリ、是レ卽チ當業者カ借入金ニハ日歩ハ掛レトモ夜歩ハ掛ラスト云フ所以ナリ。然レトモ利息金ノ多少ハ斯ノ如ク單純ナル理論ヨリモ、各工場各般ノ事情ニ依ルモノナルコトハ、前揭ノ如ク各會社ノ間ニ非常ナル相違アルニ依リテ之ヲ知リ得ヘシ。

(八)工費。

綿絲太番一梱ノ製造ニ要スル工費ハ明治三十四年上半期頃ノ計算ニテ、約十五六圓ニシテ、少ナキハ約拾三圓多キハ拾七八圓乃至二拾圓ナリ。此ノ內職工賃約五六圓、石炭代約二三圓其ノ他ハ荷造運搬費、倉敷料、保險料、修繕費、役員給料、職工諸費、諸稅及利息等ナリ。今徹夜業ヲ廢セハ此等ノ工費ニ如何ナル影響ヲ

及ホスヘキカハ至難ノ問題ナリ。サレハ玆ニ先ツ晝夜交替業ノ場合ト、全然夜業ヲ廢シ晝業ノミト爲シタル場合トヲ比較セン、紡績業ニ多年ノ經驗アル當業者中ニモ一梱ニ付壹圓五六拾錢乃至七八拾錢ヲ增スヘシト云フ者アリ、或ハ四圓ヲ增スヘシト云フ者アリテ、各當業者ノ所說區々タル所以ハ問題自身ノ極メテ困難ナルニ由ルノミナラス、各工場ニ於ケル經濟ノ狀況相同シカラサルニ由ル。現今同シク太絲製造ノ會社ニシテ一梱ノ工費ニ五六圓ノ相違アリ。從テ晝夜交替業廢止ノ工費ニ及ホス影響ニ關スル見解ノ一定セサル亦偶然ニ非サルヲ知ルヘシ。惟フニ各種ノ工費中晝夜交替業ノ廢止ニ依リ增加スヘキ懸念アルモノハ主トシテ石炭代ナルヘシ。而カモ前述シタルカ如ク一萬錘ノ工場ニ於テ、晝夜業ニテ二萬斤ヲ用ヰタルモノカ、晝業ノミニテ一萬二千斤ヲ要スト假定スルモ、一梱ニ對スル燃料費ハ增加セサル譯ナルヲ以テ、假ニ是レ以上ヲ要ストスルモ、一梱ニ對スル燃料費ニ大ナル增加ヲ生スルコトナカルヘシ、次ニ賃金其ノ他職工諸費ハ前述シタルカ如ク、一梱ニ割當テ、漸次減額シ得ルノ見込アリ、今其ノ減額ノ割合ヲ示シ難キモ本來工費中大部分ヲ占ムルモノナレハ假令僅少ノ歩合ヲ減額シ得ルモ、尚優ニ燃料費等ノ增額ヲ償フテ餘アルヘシ。又役員ノ給料及旅費其ノ他事務費ハ製絲額ニ伴ヒテ減少セサル性質ノ費目ナレトモ、又一面ニハ會社ノ整理役員ノ心掛及手心ニテ伸縮增減スヘキモノナルヲ以テ、徹夜業ノ廢止ト共ニ事務ノ取扱ヲ整理シ經費ヲ緊縮スルコト必シモ難キニ非サルヘシ。殊ニ現今紡績會社ニ於テハ職工ノ出入頻繁ナルヨリ、其ノ募集竝足留メ策ノ爲ニ幾多ノ手數ト經費トヲ要スレトモ、徹夜業ノ廢止ニ依リ、職工ノ出入減少スルヲ得ハ事務費ハ從テ大ニ減少スヘキ見込アリ。其ノ他油、ヘツト等工場消耗品、諸修繕費、保險料、荷造運搬費等ニ至リテハ或ハ增加スヘキモノアリ、或ハ減少スヘキモノアリ、彼是相照シテ大差ナシト看做シテ可ナリ、若シ夫レ仕拂利息金ヲ工費中ニ算入センカ、所謂日歩ハ掛レトモ、夜歩ハ掛ラサルノ道理ニテ之ヲ一梱ニ割當ツルトキハ增加スヘキ理ナリト雖、前述シタルカ如ク、仕拂利息ハ寧ロ斯ル理論通リニ行カスシテ、原棉買入製品ノ賣行等諸般ノ事情ニ依リ非常ノ相違アルヲ以テ實際ハ徹夜業ノ廢止ト仕拂利息ノ增減トノ間ニ因果ノ關係ヲ生スルコトナカルヘシ。